

第六次土岐市総合計画の策定に向けた
職員意識調査結果報告書

平成 27 年 3 月

I 職員意識調査

設問1 あなたの所属、補職級、職種を記入してください。

回答者の属性は、以下のとおりです。

1) 部名

部名	件数	割合
総務部	76	19.1%
市民部	67	16.9%
経済環境部	37	9.3%
建設部	37	9.3%
水道部	26	6.5%
教育委員会	34	8.6%
議会事務局	4	1.0%
会計課	4	1.0%
保育園	10	2.5%
幼稚園	7	1.8%
土岐口財産区	3	0.8%
総合病院	19	4.8%
消防本部	69	17.4%
保育園	0	0.0%
幼稚園	0	0.0%
選挙管理委員会	2	0.5%
無回答	2	0.5%
総計	397	100.0%

2) 課名

課名	件数	割合	課名	件数	割合
総合政策課	10	2.5%	学校教育課	4	2.5%
秘書広報課	9	2.3%	生涯学習課	7	2.3%
総務課	12	3.0%	文化振興課	6	3.0%
管財課	9	2.3%	スポーツ振興課	5	2.3%
税務課	25	6.3%	教育研究所	2	6.3%
市民課	23	5.8%	学校給食センター	3	5.8%
保健センター（健康増進課）	12	3.0%	図書館	2	3.0%
子育て支援課	10	2.5%	議会事務局	3	2.5%
福祉課	10	2.5%	選挙管理委員会	3	2.5%
高齢介護課	9	2.3%	下石保育園	1	2.3%
養護老人ホーム・恵風荘	4	1.0%	山神保育園	1	1.0%
農業委員会	0	0.0%	つまぎ保育園	1	0.0%
産業振興課	13	3.3%	のうなん保育園	1	3.3%
美濃焼振興室	2	0.5%	みなみ保育園	1	0.5%
陶磁器試験場・セラテクノ土岐	10	2.5%	あま池保育園	1	2.5%
環境課	6	1.5%	ひだ保育園	0	1.5%
衛生センター	2	0.5%	みつば保育園	0	0.5%
環境センター	3	0.8%	いずみ保育園	1	0.8%
監理用地課	12	3.0%	久尻保育園	1	3.0%
都市計画課	16	4.0%	土岐津小学校附属幼稚園	1	4.0%
土木課	7	1.8%	下石小学校附属幼稚園	1	1.8%
水道課	12	3.0%	妻木小学校附属幼稚園	1	3.0%
下水道課	10	2.5%	駄知小学校附属幼稚園	1	2.5%
浄化センター	3	0.8%	肥田小学校附属幼稚園	1	0.8%
総合病院	16	4.0%	泉小学校附属幼稚園	1	4.0%
会計課	4	1.0%	泉西小学校附属幼稚園	1	1.0%
消防本部	68	17.1%	その他	22	17.1%
庶務課	4	1.0%	無回答	4	1.0%
			総計	397	100.0%

3) 補職級

補職	件数	割合
部長級	6	1.5%
次長級	11	2.8%
課長級	28	7.1%
主幹級	16	4.0%
園長	17	4.3%
課長補佐級	35	8.8%
係長級	62	15.6%
主任主査級	45	11.3%
主査級	97	24.4%
上記以外	79	19.9%
無回答	1	0.3%
総計	397	100.0%

4) 職種

職名	件数	割合
一般事務職	255	64.2%
技術職	53	13.4%
研究職	0	0.0%
医師・歯科医師	0	0.0%
薬剤師・医療技術職	0	0.0%
看護・保健職	5	1.3%
保育士・幼稚園教諭	15	3.8%
消防職	65	16.4%
技能労務職	2	0.5%
無回答	2	0.5%
総計	397	100.0%

設問2 「第五次土岐市総合計画」の施策に基づく以下の36項目について、これまでの市の取り組みに対する「満足度」と「重要度」を、それぞれ回答してください。

「第五次土岐市総合計画」の施策に基づく以下の36項目について、取り組みの満足度・重要度について、5段階で評価をしてもらいました。評価結果について、以下のよう
に点数化し施策ごとに平均点を算出しました。

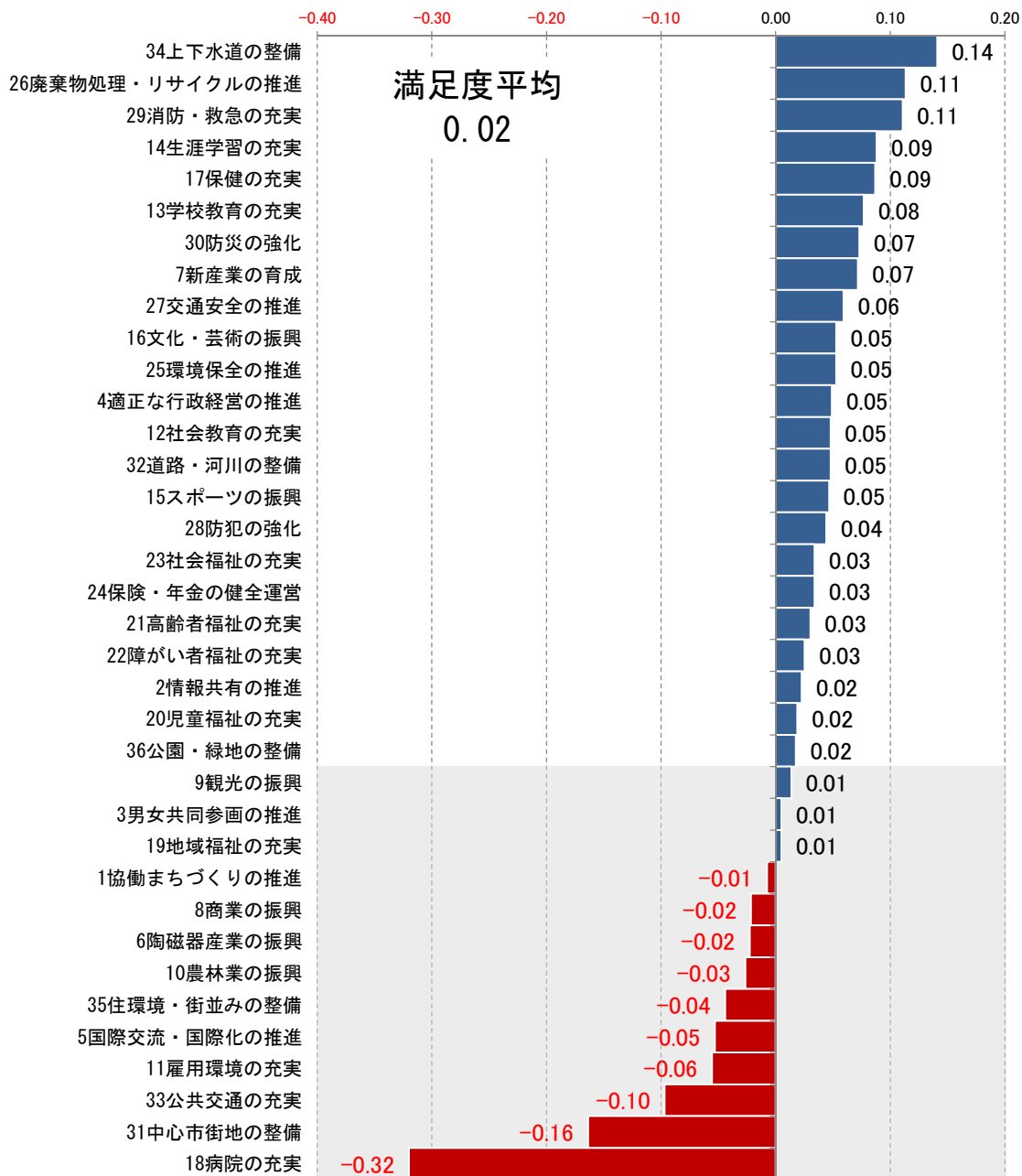
満足=+1.0、やや満足=+0.5、やや不満=-0.5、不満=-1.0、
重要=+1.0、やや重要=+0.5、あまり重要でない=-0.5、重要でない=-1.0
どちらともいえない・無回答=0

	取り組み	満足度	重要度
1	協働まちづくりの推進	-0.01	0.37
2	情報共有の推進	0.02	0.25
3	男女共同参画の推進	0.01	0.14
4	適正な行政経営の推進	0.05	0.42
5	国際交流・国際化の推進	-0.05	-0.01
6	陶磁器産業の振興	-0.02	0.29
7	新産業の育成	0.07	0.51
8	商業の振興	-0.02	0.46
9	観光の振興	0.01	0.43
10	農林業の振興	-0.03	0.02
11	雇用環境の充実	-0.06	0.50
12	社会教育の充実	0.05	0.27
13	学校教育の充実	0.08	0.42
14	生涯学習の充実	0.09	0.21
15	スポーツの振興	0.05	0.12
16	文化・芸術の振興	0.05	0.08
17	保健の充実	0.09	0.34
18	病院の充実	-0.32	0.58
19	地域福祉の充実	0.01	0.36
20	児童福祉の充実	0.02	0.46
21	高齢者福祉の充実	0.03	0.40
22	障がい者福祉の充実	0.03	0.29
23	社会福祉の充実	0.03	0.32
24	保険・年金の健全運営	0.03	0.32
25	環境保全の推進	0.05	0.18
26	廃棄物処理・リサイクルの推進	0.11	0.22
27	交通安全の推進	0.06	0.22
28	防犯の強化	0.04	0.27
29	消防・救急の充実	0.11	0.41
30	防災の強化	0.07	0.49
31	中心市街地の整備	-0.16	0.38
32	道路・河川の整備	0.05	0.28
33	公共交通の充実	-0.10	0.28
34	上下水道の整備	0.14	0.15
35	住環境・街並みの整備	-0.04	0.28
36	公園・緑地の整備	0.02	0.15
	平均点	0.02	0.30

■満足度

以下の13施策が平均値を下回っています。

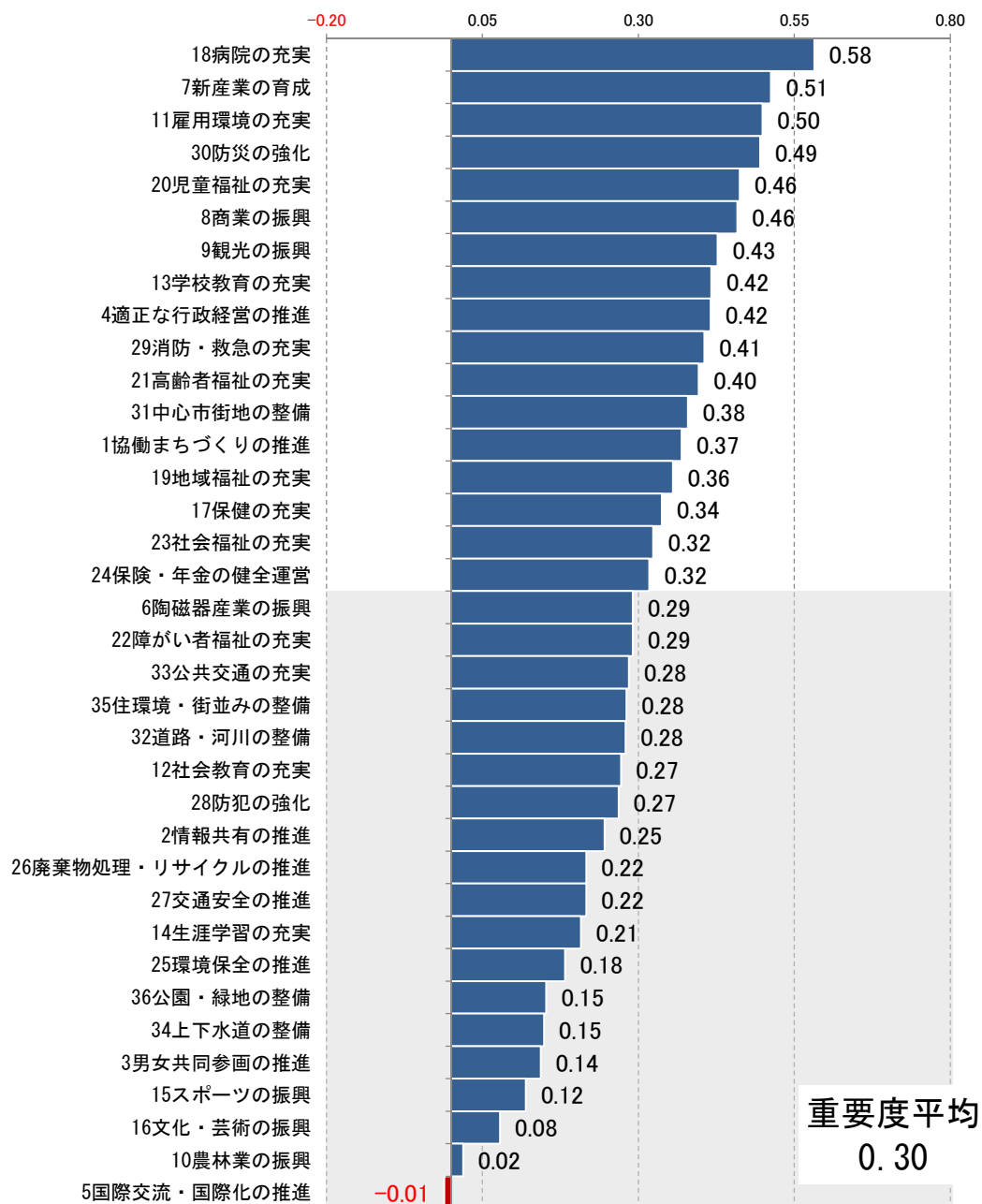
9	観光の振興	35	住環境・街並みの整備
3	男女共同参画の推進	5	国際交流・国際化の推進
19	地域福祉の充実	11	雇用環境の充実
1	協働まちづくりの推進	33	公共交通の充実
8	商業の振興	31	中心市街地の整備
6	陶磁器産業の振興	18	病院の充実
10	農林業の振興		



■重要度

以下の19施策が平均値を下回っています。

6	陶磁器産業の振興	14	生涯学習の充実
22	障がい者福祉の充実	25	環境保全の推進
33	公共交通の充実	36	公園・緑地の整備
35	住環境・街並みの整備	34	上下水道の整備
32	道路・河川の整備	3	男女共同参画の推進
12	社会教育の充実	15	スポーツの振興
28	防犯の強化	16	文化・芸術の振興
2	情報共有の推進	10	農林業の振興
26	廃棄物処理・リサイクルの推進	5	国際交流・国際化の推進
27	交通安全の推進		



満足度をX軸、重要度をY軸とするグラフ上に各取り組み点数を散布図で表すと、次ページの図となります。平均点で区分される4つの領域のどこに位置しているかで各取り組みを評価します。各領域の定義は次のとおりです。

表 満足度と重要度による取り組み評価の考え方

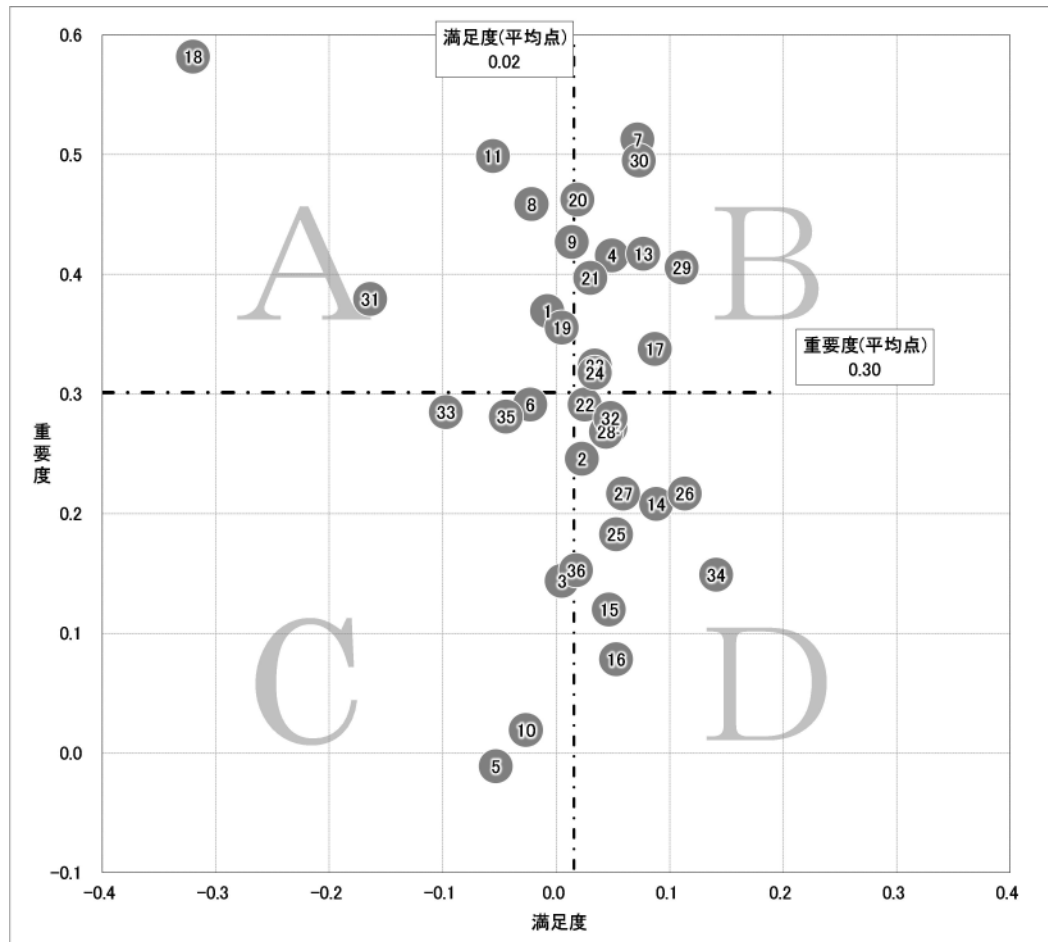
重要度	A 重点課題 満足度：平均点未満 重要度：平均点以上	重要性の認識は高いが、取り組みに対する満足度は低く、他区分の取り組みに優先した重点的な対応が望まれます。	B 継続推進 満足度：平均点以上 重要度：平均点以上	重要性の認識も取り組みに対する満足度もともに高く、現在の水準を下げないように継続的な対応が望まれます。
	C 検討課題 満足度：平均点未満 重要度：平均点未満	重要性の認識が低く、取り組みに対する満足度も低く、必要性の検証や取り組み内容の見直しなどを検討し適切な対応が望まれます。	D 成果検証 満足度：平均点以上 重要度：平均点未満	重要性の認識は低いですが、取り組みに対する満足度は高く、一定成果を遂げているため、必要性を検証し適切な対応が望まれます。
	満足度			

Aの領域では、「18 病院の充実」、「31 中心市街地の整備」、「11 雇用環境の充実」など 36 施策中、7 施策があげられています。

Bの領域では、「7 新産業の育成」、「30 防災の強化」、「29 消防・救急の充実」など 36 施策中、10 施策があげられています。

Cの領域では、「33 公共交通の充実」、「35 住環境・街並みの整備」、「6 陶磁器産業の振興」など 36 施策中、6 施策があげられています。

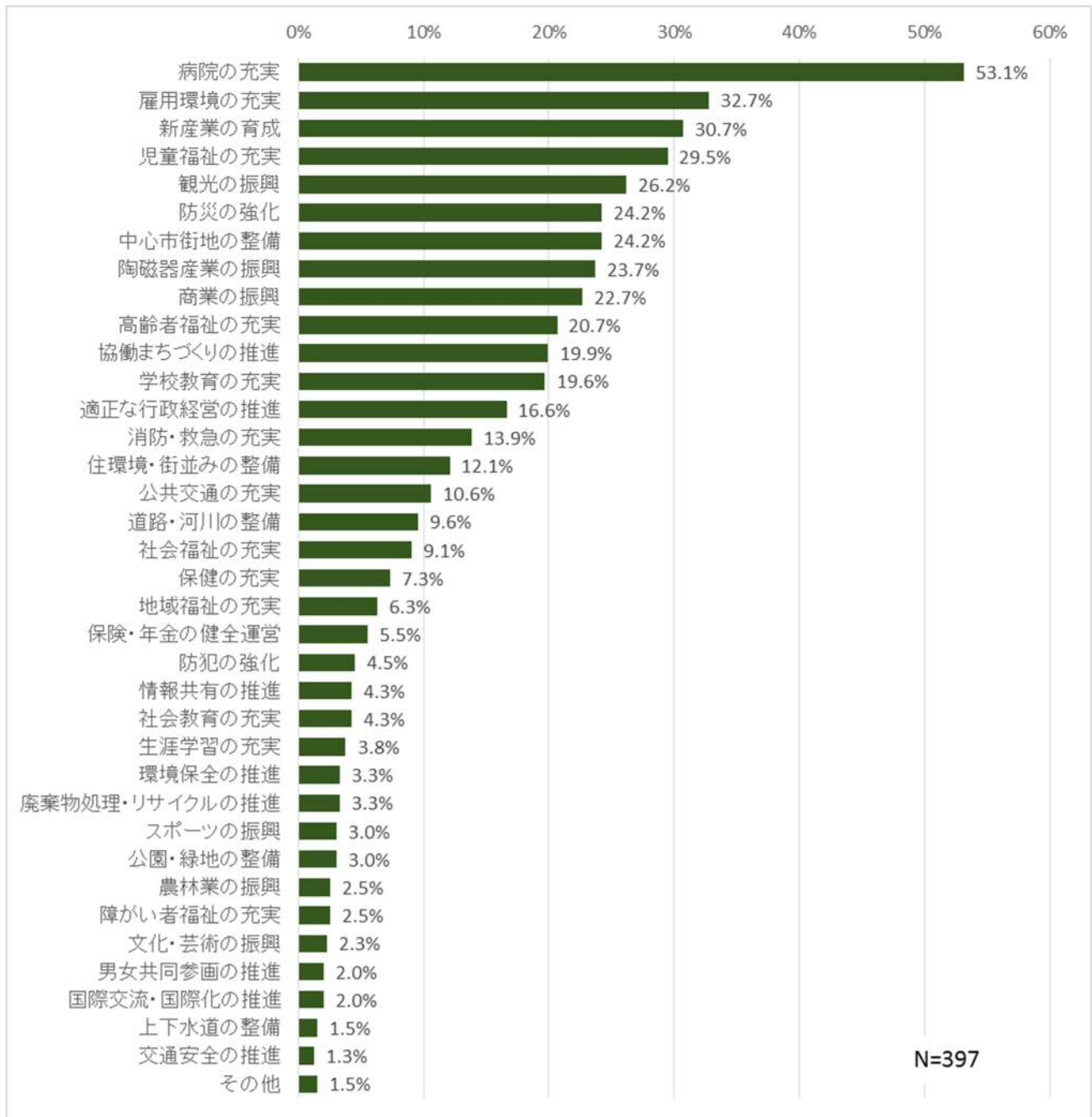
Dの領域では、「34 上下水道の整備」、「26 廃棄物処理・リサイクルの推進」、「14 生涯学習の充実」など 36 施策中、13 施策があげられています。



取り組み	取り組み	取り組み
1 協働まちづくりの推進	13 学校教育の充実	25 環境保全の推進
2 情報共有の推進	14 生涯学習の充実	26 廃棄物処理・リサイクルの推進
3 男女共同参画の推進	15 スポーツの振興	27 交通安全の推進
4 適正な行政経営の推進	16 文化・芸術の振興	28 防犯の強化
5 国際交流・国際化の推進	17 保健の充実	29 消防・救急の充実
6 陶磁器産業の振興	18 病院の充実	30 防災の強化
7 新産業の育成	19 地域福祉の充実	31 中心市街地の整備
8 商業の振興	20 児童福祉の充実	32 道路・河川の整備
9 観光の振興	21 高齢者福祉の充実	33 公共交通の充実
10 農林業の振興	22 障がい者福祉の充実	34 上下水道の整備
11 雇用環境の充実	23 社会福祉の充実	35 住環境・街並みの整備
12 社会教育の充実	24 保険・年金の健全運営	36 公園・緑地の整備

設問3 設問2の36項目の施策のうち、今後、土岐市として特に重点的な取り組みが必要な施策はどれですか？

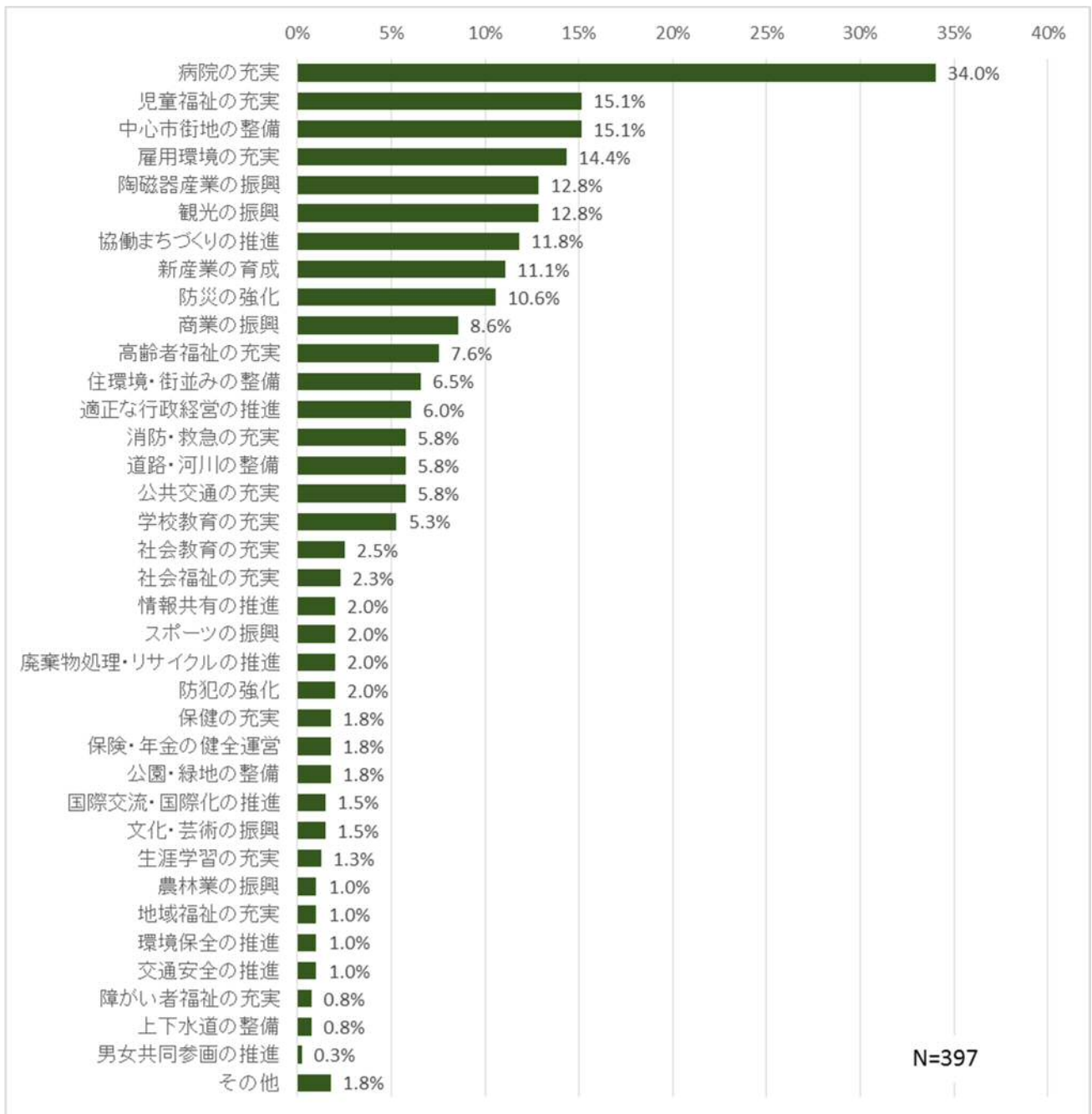
特に重点的な取り組みが必要な施策としては、「病院の充実」が53.1%と最も多く挙げられており、以下、「雇用環境の充実」が32.7%、「新産業の育成」が30.7%、「児童福祉の充実」が29.5%、「観光の振興」が26.2%と続いています。



設問4 今後重点的に取り組むべきだと思う課題について、項目欄に施策の分類を選び、回答欄①に重点課題の説明を、回答欄②に課題解決に向けての具体的なアイデア・提案などを、それぞれ記入してください。特に重要だと思うものを3つまでお答えください。

1) 重点課題の施策分類

重点課題の施策分類としては、「病院の充実」が34.0%と最も多く挙げられており、以下、「児童福祉の充実」が15.1%、「中心市街地の整備」が15.1%、「雇用環境の充実」が14.4%、「陶磁器産業の振興」が12.8%、「観光の振興」が12.8%と続いています。



2) 重点課題と課題解決のアイデア・提案など

重点課題とその解決に向けたアイデアや提案などとして、以下の意見が挙げられています。

1 協働まちづくりの推進

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 1. 防災拠点となる新庁舎の建設。 ● 2. テラスゲート土岐の集客。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1. 集中司令室となるシェルターを備える。 ● 2. リニア名古屋駅テラスゲート土岐間直通バスの運行。
<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレットや大型ショッピングモールの建設等により、土岐市を訪れる人は増えていると思われるが、市内へ住む方は減っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 区画整理等を行い、住みやすい環境を作る。
<ul style="list-style-type: none"> ● これからの市政運営には住民の協働参加が欠かせない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 難しい会議を多く開いて、充て職で参加するような形態では発展しない。ボランティア活動を盛んにして、市政参加を促す。
<ul style="list-style-type: none"> ● まちづくりについては、住民のニーズに合わせたまちづくりを推進していくために、住民の参画や意見の反映などの充実に取り組んでいると思うが、協働まちづくりの仕組みとしてスムーズに機能しているとは感じられない。委員会や審議会のメンバー選定や日程調整に重きが向いてしまい、議論すべきことに重きが向いていない感じがする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民協働の仕組みづくりを更に充実させ、提案や意見を吸い上げる手法を確立する必要があると思われる。職員はもちろん、住民も議論すべき事業についての意識向上が必要であり、一体感のある取り組みが遂行出来るような仕組みを確立することが、協働まちづくりに繋がると思われる。これらの課題については大変難しい問題であり、一朝一夕でアイデアや提案が出るような案件ではない。
<ul style="list-style-type: none"> ● まちづくり課（仮称）を作り、8町が協働したまちづくりをする。市民をコーディネート出来る職員を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 議会事務局に配属していた時、特別委員会の視察で千葉県我孫子市、習志野市、東京都武蔵市、三鷹市へ行った。4市とも市民協働が盛んな街で、『きっかけがあれば、街は一つになる』と『みんなの思いが同じになれば、街が変わる』と学んだ。私は郷土料理をみんなで作る企画を提案したい。土岐市は味噌はん、味噌汁だと思っている。土岐市食生活改善推進委員会のみなさんの協力をお借りしながら、市民参加型で郷土料理を作る企画を提案したい。市民参加型でも8町の町民が参加しないと意味がない。これがきっかけになり、市民協働の始まりとなればいい。
<ul style="list-style-type: none"> ● 安全・安心・環境整備・街の活性化には協働が不可欠。行政まかせではなく、住民自らが主役で取組むという住民意識の醸成。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア団体等の設立や社会教育や生涯教育でのきっかけづくり。特に高齢者を巻き込むことによってやりがい、生きがいを持たれ活動されることは医療費の軽減にもつながる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 一人一人が土岐市や自分の住む地域に愛着と誇りが持てるような地域づくり型生涯学習を推進し、いったん都会に流出した若者が再び住んでみたいと思える魅力ある故郷づくりをしていく必要がある。地域の魅力とテラスゲートやアウトレットなどの商業的魅力を融合させ、住んでみたいまちづくりを進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市のよさの一つが地域の絆の強さだと感じる。そのよさをさらに発展させる必要がある。そのために、地域づくり型生涯学習の充実をめざし、誰もが地域の一員として地域行事に参加したり、地域行事を運営したりする中で、「当てにし、当てにされる」関係づくりを推進していく。また、中学生ボランティアや若者が参加しやすい環境をつくり、共働の思いを大切に育てていくことが大切。そのような思いやノウハウを伝え、推進していくコーディネーター役の人を育てていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前付近の社会基盤整備を実施したのちの、まちづくりに 	<ul style="list-style-type: none"> ● まずは地元住民がどのようなまちにしたいのか、自らまとまる必要がある。駅前付近は、公共交通を充実させ、商業系でなく住居系と

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
ついて考える必要がある。	するなど、駅周辺の役割を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 各地域（町）の指導者の発掘と育成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働のまちづくりを行っていくには、住民の郷土に対する愛着が根底になければならないと思う。この郷土愛こそが協働につながって行くものではないかと考える。また、市が自分たちのために何をおこなってくれるのかではなく、自分たちが自分の住んでいる市（地域）のために何が出来るのかといった考え方の住民を育成することが大切ではないでしょうか。市が地域の集会等に積極的に参加するなどして、住民の考え方や地域の行事等よく把握し、また行政側の方針も伝え、地域と密着した行政の姿勢を築いていけば、協働のまちづくりにつながっていくものと思います。そのためには、地域での指導力が発揮できる人材を発掘、育成するべく、協働のまちづくりを推進していく部署の設置を希望します。
<ul style="list-style-type: none"> ● 各町の区長級自治会役員は、市行政等各般からの依頼業務も多く、相当な時間的拘束を強いられており、毎年度人選に苦慮している現状である。その業務量は、他の嘱託員等に匹敵或いはそれ以上のものであると言え、報酬制の導入について検討をする時期に来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他の自治体の先例を調査、法規上の整合性等を精査の上、各町の区長級自治会役員について、土岐市非常勤の特別職等の職員の報酬及び費用弁償に関する条例別表第 11 項に定める臨時又は非常勤の顧問、参与、調査員、嘱託員及びこれらの者に準ずる者として位置付ける。
<ul style="list-style-type: none"> ● 官民共同のまちづくりの推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 合併前の旧町村ごとの主張が強い土地柄を生かし、小規模多機能自治による住民主体のまちづくりを推進する。企業誘致による市の活性化や雇用の創出を否定するものではないが、もう少し市内に目を向けるべき。
<ul style="list-style-type: none"> ● 既に全国的な人口減少社会に突入しており、濃南地区や旭ヶ丘、泉が丘等の団地など、地域によっては急激な人口減少や人口構成の変化（超高齢化）が起こっている。地域（地区）ごとに抱える課題やニーズも多様化しており、行政が一元的に対応することは困難な状況となってきている。それぞれのニーズや課題を的確に把握し、地域住民と行政の役割や責任、関係を明確にしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民同士、または住民と市が地域課題を共有するための（定期的な）話し合いの場を設ける。今後急増するリタイア世代や、地域に密着している自営業主など地域活動のリーダー・担い手となりうる人材の育成、活躍できる場の提供。やる気のある地域や団体に対する活動支援により、他地域や他団体などへの波及効果により全体の活性化を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ● 協働・住民参加による政策・事業の方向性の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働といっても審議会、検討委員会を設置するだけで実際に住民、市民は参加していない。利害関係者と無作為抽出によって選出された市民が議論し、優先順位や方向性を決める。そして、地域住民が責任を自覚する仕組みづくりの構築が必要。協働は定義が曖昧なので住民参加とした方がよいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 協働したしたまちづくりの取り組みの努力はされているものの、市民の行政（防災・福祉・商工等）に対する要望・依存度は依然に高く、なかなか実質的な協働には至っていないのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ● よりよいまちづくりは、市民、行政のどちらか一方的であっても成し得るものでなく、行政と市民が知恵・労力・資金等お互いが負担し合ってこそ成しえるものと思う。そのために、日頃から市民と行政の交流を深めて役割分担を確認しながら推進していくことが重要。
<ul style="list-style-type: none"> ● 協働まちづくりのキーマンが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員が地域活動（消防、自治会、各種団体等）に積極的に参加し、地域活動を支援していく。 ● 市職員の住宅手当支給要件の改正 ● 市内居住のみ支給自宅 3 万円／月

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 元気な土岐市をつくり出す	● 借家3万円/月+家賃 ● 行政だけでなく、各種団体、NPO、地域住民等の多様な団体がまちづくりに参加できる仕組みづくりを構築する
● 行政コストを下げ且つ満足度を向上させるために市民との協働は重要である。	● 市民団体等の自主的活動をサポートするための仕組みを考える。
● 行政の主役は、住民です。行政職員は、住民からの多様な意見を集約、コーディネートする必要がある。	● まちづくり、人づくりを所管する課の新設が必要と考えます。
● 財政状況の逼迫化、公務員数の減少、住民ニーズの高度化・多様化など時代変化とともに自治体を巡る環境が大きく変化する中、行政サービスのあり方についても、大きな転換を求められている。今後、市民と行政がともに力を合わせたまちづくりが必要であり、行政と地域コミュニティ組織との新しい体制を改革する必要がある。	● 高齢化とコミュニティの希薄化に伴う、伝統的な「協働」相手である自治会・町内会・老人クラブ・青年団・消防団・PTAとの参加・協働システムを再編成する。さらに、ボランティア団体・NPOを活性化し参加・協働するシステムを確立する。
● 参加している人がいつも同じで、若い人の参加が少ない(ように感じる)。	● 現在、各地域でまちづくりをしている方々が高齢化しているのは、若い人がまちづくりに興味がないということも理由のひとつではあるが、昔からの”力のある人たち”によって作られた組織に入っていくにくいという現状があると思う。若い人や子どもを対象に、自分たちで理想的なまちづくりについて話あい、実際に作ってみるなどの、楽しめるワークショップを開催したい。
● 市が活性化するには、市民の参加は不可欠である。市民が市や町に関心を持たないことが活性化を妨げている。市民に自分の町に関心を持たせ、市全体を活性化させることが重要である。	● 各町で実施する行事(各町特有な行事)に、市として支援する。
● 市長と語る会や公共施設の地元説明会などに参加すると、どうしても市民と市との対立の構図にしかならない。権利は主張するが義務や受忍などには関心が低い。協働というのであれば手間は相当かかるが、もっと参画意識を持たせることも必要か。	● 瑞浪市の各地区で行われているまちづくり協議会のようなシステムを土岐市でも取り入れたらどうか。
● 市内のNPO法人は多いとは言えず、その活動や新たな取り組みについてのPRも十分ではないと思う。とりわけ、まちづくりを主な活動とする団体はまだ少なく、拡充を図るべきである。	● 市ホームページのトップにNPO法人の紹介や設立・運営の仕方等を説明するバナーを設ける。市広報にも特集を組む。 ● このほど、可児市が導入した「可児市社会貢献システム(Kマネー事業)」は、市民、事業者、行政を挙げて取り組む「社会貢献システム」であり、より広くかつ容易に参画できる協働の姿として優れた事業であると思う。
● 市内の各種団体との連携	● まずは機構改革で、専門部署を設置する。各地域にまちづくり支援の窓口を作る(自治会、支部社協、社会教育関係団体等の事務所的機能)専門職員(非常勤等)の配置、補助メニュー等の充実を図る
● 市内各地にまちづくり団体が	● 市内各地のまちづくり団体同士をつなげ、土岐市として一緒に活動

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
あるが、団体同士の横のつながりが薄く、土岐市としてまとまりのある事業がしにくい状態がある。また、そもそもまちづくり団体の運営も人員不足や資金不足で、民意があったとしても思うように団体活動が成り立たない状態がある。	する（何か一つの事業をやることに限らず、お互いの顔を合わせて、情報共有し、各地区と一緒に土岐市のことを話し合ったり将来のことを考えたりすること自体も一緒に活動することになると思う。）場や仕組みを作る。また、団体運営の支援として、各地区出身の職員をまちづくり支援員として派遣するとよいのではないか。（県がまちづくり支援チームとして地域に派遣していたようなイメージで。）
● 市民がまちづくりに積極的に参加できるような体制づくりが、市の組織上でできていない。協働のまちづくりを進めるためには、市（行政）と市民を結びつけるための仕掛けづくり・仕組みづくりが大切であると思う。	● 協働まちづくり課などを行政組織の中に位置付け、市（行政）と市民等が協働してまちづくりを行えるような体制を整える。市民、地域のまちづくりについては、ここが窓口となって、市民からの意見聴取を行い、行政と市民等がともにすすめるまちづくりを展開する。PRも必要。まずは、そこからスタートだと思う。
● 市民が市政に参画できるような情報の共有化を進めること。	● 既存の広報媒体からの情報提供し意見を募る方法以外に、政策立案の過程から市民が関わるかたちで情報共有できると望ましい。防犯・安全といったような誰にとっても身近な分野から導入できるとよいのではないかと。
● 市民が主となった、意見を市政に反映できる仕組み	● アンケート・パブコメ・ホームページ・広報・まちづくり活動の援助
● 市民との協働・市民とのまちづくりのための意見等を集約して、行政の施策へつなげていける体制がない。	● まちづくりの課をつくり、まずは市民の声を受け取る体制にする。特に、子ども達や高齢者の方の声を集約すると、何かよい施策へつながるものが出てくるような気がします。日常の中の小さなことから、まちづくりへと広がっていくのもよいのではないかと思います。
● 市民と行政がそれぞれの責任と役割を自覚し共同で町づくりをしていくこと	● 地域の行事や市の主催の行事等に参加し市民の声を聞き交流を深めながら市政に関心を持ってもらう。
● 市民と行政の仕組みづくりと職員の意識改革。	● 地域型協働まちづくり、職員自ら地元自治会の活動に参加。現役時代に、地域のことに最も詳しい地元住民として参加することで、地元の声、問題点、情報提供、苦情不満等に耳を傾け調整と摺合せができる人材育成が必要。
● 市民の意識改革	● 各自治会からの要望事項に配分する予算を縮小したうえで、まちづくり支援事業費補助金の枠を拡大するとともに、10/10補助もメニューに加え、自治会等団体からも積極的提案を求める。
● 市民意見反映の実行	● 私の友人から話を聞くと窓口業務を延長してほしいという声がある。瑞浪市のように平日窓口延長を考える。
● 自家用車のない高齢者の方は買い物をするのが困難。	● 各町の商店街を利用できるように公共交通を充実させ歩道を整備する。
● 住んでみたいと思うような魅力的なまちづくり	● 韓国の地方都市がカジノを誘致してまちおこしをしたり、愛媛の今治FC（サッカーチーム）がサッカーをとおしてまちの活性化を狙っているという記事を読みました。土岐市でも、「〇〇のまち」と言えば土岐市となるような、地域を活性化しようとする企業やNPOを積極的に支援し、協働してまちづくりを行う。
● 住民にとって行政が、遠い存在であってはならない。身近な存在に感じてもらうための施策は必要である。市役所（行政）は、どんな仕事をしていて、どのようなサービスを受けられるのかなど低年齢層から知っていただくことは、一	● 刊行物・イベントのみならず、学校での出前講座の実施など、市役所（行政）の仕事・機能を低年齢層（児童・生徒）から知ってもらう。場合によっては、園児等にも寸劇や紙芝居で知ってもらうのもよい。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
定の効果があると思う。	
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化、家族や地域の変容、経済・雇用の不安定化等、社会を取巻く環境が厳しさを増す中、行政だけでは多様な課題を解決できない状況がある。安全・安心で住み易いまちづくりを実現するには、行政主体のまちづくりから、人々が地域で支え合い、市民と行政が互いに役割と責任を担う、自立と協働による人にやさしいまちづくりを進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ○市民参加型の行政運営の仕組みづくりの研究と実践○地域のリーダー、地域づくり人の育成○地域コミュニティ、ボランティア団体、NPO法人、老人サロン等の活動支援と各活動の交流支援○社会福祉協議会の活動支援○地域コミュニティ等に参加する学生(大学等と連携)や陶芸家を目指す若者等へ住まいを提供する仕組み等を検討し、空き家対策と若い力を活用した地域活性化を図る○若年層の年金受給高齢者の地域支援活動、まちづくり活動参画への誘導○先進市町村の視察、先進事例の検討と実践
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化による人口減少のため、自治会活動に支障が出てきており、市の財政力も弱くなってきて、何でも市頼りにできる状況ではなくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定住促進やまちづくりに特化した課をつくり市も本気を入れていることを示す。
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少と少子化高齢化に伴い、全ての行政サービスを行政が直営で提供し続けるには限界があると思われる。このため、市民協働を推進し、地域のリーダーの発掘や育成を行い、行政が提供すべき行政サービスと、住民自らが行っていくべき内容を更に精査していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会によっては、高齢化が進展し、今後十分な自治会活動を維持することも困難なことが予想される。また、住民意識も多様化し、本来は住民が対処できる問題であっても全て行政におんぶにだっこの状況が見受けられる。このため、もう一度自治活動と行政サービスを市民とともに見直し、行政サービスをスリム化するとともに、地域のリーダーを発掘・育成し、地域活動を推進し、住民協働のまちづくりを推進して行ったらどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域を元気にするには、その地域ごとの活動(まちおこし活動・イベント)が活発的に行われる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● イベントが活発に行われるには、金銭的な支援も必要だが、人的支援も重要である。(特定の人だけが参加するだけのイベントでは地域は元気にならない。)多くの人がイベントに参加するように促すため、イベント参加に対するポイント付与を行い、地域振興券的なもので参加者にそのポイントをバックできるようにしてはどうだろうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地区まちづくり団体との協働による地域課題の解決に向けた活動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 例えば地域のまちづくり団体などの自治会組織とは異なる世代横断的な組織(まちづくり協議会など)を核として、地域の課題を解決してもらうための自主的な活動・運営を促進し、市がその活動に助成する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地元住民間の関わりが希薄となってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動などへの参加を促すような組織・体制づくりができるとうい。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地方分権が進み、これからのまちづくりには、市が自らの責任と選択のもとに、地域の個性や特徴に応じて施策を展開していくことが重要であるが、厳しい経済情勢や市民ニーズが多様化・高度化している現状では、行政主導でのまちづくりには限界がある。市民が求める「まち」をつくるためには、市民と行政がそれぞれの役割と責任を担い、自立と協働に基づくまちづくりを進めて行くことが不可欠であるが、現在の土岐市にはそ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自治会に補助金を支給する。現在、市道の維持・補修や交通安全施設等の設置については、地元要望に基づき、市が優先順位を付け、順次施工しているが、各自治会に補助金を支給し、地元の現状がわかっている自治会が行うことにより、住民のニーズにあったきめ細かな対応が可能となる。また、市が行う場合よりも自由度を高くし、地元業者に依頼するなど、地域経済の活性化にも役立つような仕組みとする。自治会役員の負担が増えることになるが、支給する補助金から役員手当を支給したり、事務員を雇うなど各自治会でやりやすい形を選択して進めて行く。「自分たちの住んでいるまちを自分たちでより住みやすいまちにする」という意識改革にも繋がる。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>のような仕組みがない。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 超少子高齢社会となることから、地域の絆がより重要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昔の地域の絆ある社会に戻す必要がある。疎遠になっている地域の会合、まつりなど徐々に増やす。そのきっかけが必要。例えば、D I Gの開催により、皆が集まると、そこから絆が発生する。あるいは、何かの講座からボランティアができ、活動が始まるなど、そのきっかけを行政が作り、必要な助成も行いながら、地域社会の活動を広げていく。結果として、高齢者の見守りなど支え合いも醸成されていくのではないかと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市としての括りはあるものの、8つの町がバラバラに動いている印象がある。大きな組織としての目標が必要であるが、行政側からの目標ではなく、住民、自治会サイドから発生した目標であるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 連合自治会を利用し、各町の連携が深まるようなイベントなどを開催。
<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園に預けられる時間が他市と比べ短いため、協働（共働き）の妨げとなっているのでは？正社員で働こうと考えたとき、時間的制約により断念する場合があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育時間のさらなる延長を行い、土岐市に転居しようと思った時の妨げとならないようにすることにより、人口増加も見込めるのではないのでしょうか。

2 情報共有の推進

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 【行政サービスの透明化】市民にとって活用できるサービスがあっても、それを知らずに損をしてしまうケースがある。また、役所はどんな仕事をしているのか、広く市民に知ってもらい、『開かれた行政』を目指す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報ときで、各課が自分たちの仕事を紹介するページを設ける。これは、ただ文書で紹介するのではなく、各課のオリジナリティが出るよう自由なレイアウトで作成する。写真等を用いて楽しい紙面にする必要はある。そうすることで、読んでもらえる機会も増え我々の仕事内容を周知するとともに、今まで知らなかったサービスを知ってもらえたり、役所はこんなこともしているんだ、といった新たな発見にも繋がるのが期待される。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市の情報発信は従来から広報ときや回覧板を中心に行っているが、1日と15日しか配布されない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今では多くの人がスマートフォンを利用しているので、これらの情報機器を活用した発信をもっと積極的に考えてはどうか。観光情報などは市外の方でも送ることができる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民が何を知りたいか、行政は市民に何を知ってほしいか。行政情報の発進量を増やすのみで良いのか。発信の方法を検討したことがあるのか。良い意味でも悪い意味でも、日常生活において行政のことなど考えていないというのが市民の本音でないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報共有が大切だとしても、意識を引くために目立つ必要はなく、市民が何を知りたいか、行政は市民に何を知ってほしいかを考えることで情報の質が変わると思います。そのためには、情報の理解が重要になると思います。職員間で情報の理解（知識）の共有ができていのでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 窓口手続きなどの行政情報がわかりづらく、HPの情報表示法も担当課によってまちまち。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ①閲覧者を増やすために、スマートフォンでのHPの閲覧しやすさを追求する。 ● ②FAQを充実させ、わかりやすさを向上させる。 ● ③職員も活用できるHPにし、HPを活性化させる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 他係・他課・他部門等の間で、連携した方が良い情報が連携 	<ul style="list-style-type: none"> ● 法律との兼ね合いもあるため、簡単にはいかないと思うが、個人情報にかかわることは、最初の部署が他の関係部署にも通知して良い

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
されず、またそのシステムもない。その時の連携の精度が担当者によるような状況でミスやクレームの温床になっている気がする。個人情報保護の問題もあるかもしれないが、例えばDVの情報などは、個人情報の観点と個人の安全の観点と主旨はどちらかを考えて他課と連携してほしい。	かどうかを確認するなどして連携できるようにしてほしい。現在の職務で他課の情報でどんな情報が分かると良いかなどを調査の上、調整できるような機会があると良い。
● 庁内でも各部・課・係間での情報共有ができていないと感じる。市民に対しても、必要な情報が伝わっていないことがある。	● 部・課・係間で伝達したい内容（この手続きにはこの書類が必要、書類の請求にはこういった内容指定が必要、など）をメモ程度でも渡せる様式があるとよいのでは。（たとえば電話交換からは他課の内容の電話がつながることがありますが、中々訂正連絡ができません）／市民に対しては、広報や掲示物、市役所のサイトが主な情報提供方法だと思いますが、サイトは目的のページを探しやすく、また目的の情報を見やすく改善してほしいです。
● 必要な情報の共有（各種情報提供ツールの整備）	● ホームページの情報通信の活用について、より活発な情報発信をした方がいいと思います。（内容の充実・最新性、更新頻度）それにより、市政の透明性の向上、市のイメージアップにつながるかと思います。ホームの「新着情報一覧」が分かりにくい位置にあります。

3 男女共同参画の推進

（意見なし）

4 適正な行政経営の推進

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 横のつながりが可能となるシステムづくり	● まずは、横で顔合わせての情報交流いつでも情報交流できる雰囲気づくり
● 各財政指標の健全化。	● 行政評価の充実と、それに伴う適正な予算配分。
● 各部署とも定数削減の中、権限移譲も相乗となり、個人の業務範囲が広がっている。少人数で1部署では事務ローテーションも難しく、人事異動や担当者の長期休暇等による事務停滞が憂慮される。（特に窓口対応においては、案内不足によりトラブルが発生する）：スペシャリストの不在。日々雇用職員の増による市民対応は検討課題	● 職員定数の増加が不可能な場合、総合力の強化のため複数部署の統合を行い、不足分野の一括管理等行う必要があると考える。日々雇用職員についても、知識と経験を買う採用方針に転換する必要があると考える。（当然賃金は上げざるを得ないが）
● 機動的な財政	● 公共事業の拡充
● 行政のスリム化 人口減少・少子高齢化により、今後大幅な税の減収は必至である。電源立地地域対策金も早晚無くなり、地方交付税も国の借金を考えれば大幅に縮小されると考えられる。こうした中で最低限の行政を維持するためには、効果があまり	● 費用対効果の悪い地場産業の振興等の支出の大幅な削減が実施する。（10年かけて縮小を実施する）

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
見いだせない施策を削る必要がある。	
<ul style="list-style-type: none"> ● 合併後60年を経過しても変わらないおらが街意識を改革する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 超少子高齢化を見据え、市内に点在する類似施設・使用頻度の低い施設の積極的統廃合を政策として市民に公表し、スリム化へ向けた取り組みを推進する。 <p>施策推進のバックボーンを明確にする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 市で管理しているが市で管理する必要のないと思う土地が多く存在する。(道路の余剰地や山林など)このような土地は管理が不十分でトラブルの元となることもあり、そのトラブルに対応する職員の労力や時間が無駄だと感じる。また草刈をするなど土地の維持管理にも費用がかかる。不必要な市有地の適正化が無駄な費用や労力の削減に繋がり、職員数の適正化や無駄の排除になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共で利用しない市有地の売払い、地籍調査の推進、境界立会の推進。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市の負担かはわかりませんが、選挙の従事者数(人件費)が他市に比べて多すぎると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市は投票所が多すぎると思うので、地元の反発や投票率低下の恐れはあろうかと思いますが中学校区単位にするなど削減できればと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市役所内に職員が施策や行政運営のアイデアについて語り合う環境が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市役所は土岐市最大のシンクタンクであるべき。市役所内に施策やちょっとした仕事のアイデアについて議論する組織風土を醸成し、そこから土岐市の未来をどうするかといった遠大なテーマが語り合える仕組みを構築していく。それはわざわざ公式に組織を作らなくても、まずは、課単位あるいは係単位で自分たちの所掌事務にこだわりを持って仕事をする事、そのための議論やアイデア出しをすることから始める。組織としての明確な方向性が定まっていない施策が多く、対外的にどう進めていいのかわからないことが多分にある。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市有地未利用地の活用及び管理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、市有地の貸付件数が膨大となっているため、貸付を積極的には行っていない。しかし、借受の要望または貸さざるを得ない状況(無断使用)が増えてきている。また、活用しきれていない市有地は管理費用が発生してしまう。貸し付けることにより、貸付料を徴収し、管理費用を削減できる。そのため、今後は貸付を広く受けつける方針でもよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 施策立案、事業目的と効果の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市全体での政策決定、実施計画→予算要求→決算→事業評価→実施計画一元サイクルで検証
<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の老朽化により公共施設等の維持管理費は増大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設やインフラを再編し管理する数を減らす方向で検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 事業の中身を見据えずに削減することによる先々の追加経費 	<ul style="list-style-type: none"> ● 先を見据えた計画
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化の進行等による国、地方の財政状況の悪化により、今後土岐市においても財政状況が厳しくなることが予想される。市の人口等を含めた規模が縮小していく中でこれに合わせた行財政運営が重要となる。公共施設について、今後老朽化への対応、維 	

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>持コストが市にとって大きな負担となることから、部門ごとではなく市全体の管理計画を策定し、施設需要、維持コストなどから総合的に施設の統廃合を進めていく必要がある。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習課公民館係を中心として各種講座などを実施しているが、広報やチラシなどを見ていると他課でも同じような企画の事業が実施されていることも多い。それぞれ開催の意図が異なるため別途開催しているのであるが、共同開催などできる部分もあるのではないか。そもそも他課が開催することすら知らないことも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土木事業における公共事業調整会議のような各課の事業のすり合わせを、各種講座や事業にも取り入れたらどうか。共通する部分を持つ企画については共同で開催するなど、受講者の取り合いなども防ぐことができると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 税金や保険料の収納率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● クレジット収納等の導入
<ul style="list-style-type: none"> ● 組織の改編 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでは部課の統合が進められてきたが、1つの部課の業務量が過大となっており、今後の組織改編にあたっては業務量により分割や業務の特化なども検討すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ● 総合病院の経営形態の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ● 慢性的な赤字経営に加え、業務委託に関しても委託業者の業務についてを細部まで職員が確認をおこなっている現状など、経営に関してかなり無駄が多い。公的機関としてサービスを提供するのか、1企業として利益を追及するのがあまりにも中途半端であり、市の直営を見直すべきと考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域医療のあり方を踏まえた総合病院の運営。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域的な地域医療の連携強化による診療科目の整理や指定管理者制度の導入。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地方自治の運営に関してももっとも重要な問題は財政の健全化であろう。各種施策や事業の中で真に必要で優先度の高いものから実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 良いアイデアが出ないが、一度試験的に人件費、義務的経費、必要経費以外を部単位で予算枠を持ち、課に割り振るとどうなるか試してみたい。総額ありきでの分配です。
<ul style="list-style-type: none"> ● 定住促進、企業誘致、雇用の場の確保等収入増加へつながる政策はとられているが、人口の減少も進み市税等の定着した自主財源の増収は難しいものとなっている。しかし、市を維持するための経常的経費、社会保障・福祉政策等不可欠な経費の他、駅前整備、庁舎建設など大規模事業も予定されており、支出の増大、それに伴う基盤となる財産の減少は必至である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員の意識に健全な財政運営の重要性の再認識。また、現市庁舎の老朽化は著しいものであり、新庁舎建設の時期によって、大規模改修の必要性が発生する懸念もあるなど、少しでも支出を抑えることが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ● 適正な契約事務の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 簡易工事制度の廃止、一般競争入札の導入
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市は昔から女性の就業率が高く、今後も大型商業施設ができ、益々多様なライフスタイルを持つ市民が増えることが想定される。市役所に限らず、8:30-17:00の営業時 	<ul style="list-style-type: none"> ● フレックスの導入による、営業時間の延長。同時に人件費の増加を抑制するため、支所の統廃合、施設の複合化を進める。各種行事・講演等も平日昼間ではなく夜や休日に開催することで真の集客もでき、また人の交わる機会が増えるため、市に活気も出てくると思います。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
間、土日は休みの体制を変える必要があるのではないかと。しかし、これまで以上に様々な市民の対応に苦慮する機会が増え、職員の疲弊が懸念される。	
● 未利用となっている市有地の処分。市街地においても過去に実現性の低い事業の代替地として取得し、放置されているものも多い。	● 市名義となっている未利用地をもっと積極的に民間へ処分する。処分による収入が見込めるとともに、管理コストの削減が見込める。住宅地利用による人口増加や税収入効果も期待できる。

5 国際交流・国際化の推進

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 外国人の呼び込み。	● 大型店、中小の店舗問わず外国語（英語、中国語等）のアナウンスを流し続ける。外国語の看板を設置する。外国人が立ち寄りやすくするよう観光ガイドを育成し、中心市街地の活性化に外国人を一つのツールとする。
● 外国人住民が増える中、お互いの文化の違いについて全く知らない現状。	● お互いをもっと理解するために、いろんな交流を持てる場があると良いのではないかと。例えば、お料理教室、スポーツや遊びを通じて、または日本語、外国語講座や、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会などを外国人と日本人を交えて開催する。
● 姉妹都市との交流において、昔の人脈に頼っているところがあるため、交流を更に深めたり推進するのは、現状では不可能と思われる。	● きちんと予算措置を講じ、海外コーディネーター等に依頼するなどしていく必要がある。
● 自分を含め外国語が苦手な職員が多く、外国人に対して、手続き的なことなどきちんと理解してもらわなければならないのに、制度が複雑なため、うまく説明できず理解を得られないことがある。外国語に強い窓口が必要。	● 職員の外国語学習意欲が湧くような制度や機会を作る。あるいは手っ取り早く通訳を設置する。
● 陶磁器産業などの伝統を日本だけでなく、世界中に広げていく、国際交流や国際化ができれば、若い人々にも土岐市が魅力的な市として広がっていくのではないかと。思う。	● 土岐市出身の陶芸家や芸術家をもっとアピールし、コラボしたカフェや雑貨市などの開催。もっと身近に体験できる陶芸教室などの開催。
● 日本のあらゆる産業・文化は世界にグローバル化して世界の経済・社会情勢に左右されるようになってきている。陶磁器産業に限らず文化面も含め土岐市の国際化を推進し、経済面・文化面でより豊かな人にあふれた町づくりを行う。	● 国際社会が身近に感じられる英語教育・文化・経済・金融・政治情勢などの社会大学など充実させ、勉強会により情報吸収と思考方法の発展を促す機会を提供する。留学生交換・国際交流を行い、老若を問わずグローバルな人材を育成する。世界で活躍できる土壌を作る。（長野オリンピックの準備で山内町内では子供の英語教育を行い、開催時・開催後にも海外からの来客者をスムーズに受け入れていた。）

6 陶磁器産業の振興

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 次の時代を担う後継者不足問題	● 将来が不安でこの業界に興味があってもなかなか就職に踏み切れ

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>題。(業界全体)・低迷する陶磁器産業支援。</p>	<p>ないと思う。ある程度、行政で当初だけでも賃金の確保など待遇を補助できればよいと思う。それなりに継続しないと意味がないので継続できる範囲で続ける。・海外進出のサポート。補助金だけで無く、県、国へのつなぎ役としても働く必要がある。・食と器をつないだ事業の支援。例えば美濃焼だけを使った飲食店や宿泊施設、美濃焼を使用できる貸別荘的な宿泊施設、ギャラリーを持った飲食店などの経営者への支援など。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 1. 後継者の育成 ● 2. 製品の歩留向上（不良率の低減とメーカーの意識改革） ● 3. 原料の枯渇 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1. 試験場と業界が連携して技術研修（若手技術者の育成）を充実させる ● 2. 製品に欠陥が発生すると金額にしていくら損失があるかを提示し、製造工程・品質管理について関心を持ってもらう。また、メーカー同士の勉強会を開く。 ● 3. 代替原料による試作と評価の実施。
<ul style="list-style-type: none"> ● 2,30年前に比べて陶磁器産業の規模が縮小してきている。代々陶磁器産業を行っている会社は縮小、倒産、廃業しており、新しく設立される会社もあまりない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各会社の企業努力と、市としては陶磁器のアピール、新たにできる観光地に足を運ぶ人に、陶磁器に接する場所を設ける。
<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレットから、地域資源である陶磁器産業への方向性の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ● テラスゲートを拠点とし、地域への導線を作る
<ul style="list-style-type: none"> ● ブランド化及び販路の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビ等で紹介されているように一部では独自のブランド化により成功を収めている製陶所さんもありますが、①陶磁器試験場との協同による製品の開発及びその助成金支給②設備投資の助成金支給③陶磁器産業経営者の独自年金④マスコミ（全国ネットテレビ）によるPR番組招致また、土岐市内にある比較的大きな事業所の社員食堂を掛け備えている会社等に対する湯呑等の土岐市産湯呑を使用してもらうことや、飲食店で土岐市産の陶磁器を使用すると一部助成がされるなど、その一部購入費を助成する。テラスゲートに予定されているかもしれませんが、出店予定のイオンモールにも美濃焼のテナントが入れるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 安い中国等の製品に押され、産業自体が衰退の一途をたっています。それに伴い、後継者不足の問題も深刻です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分は他市の出身ですが、土岐市と言えば美濃焼というイメージがありました。歴史ある伝統を付加価値として土岐市ならではの美濃焼を前面にPRすることを考えました。地方分権が叫ばれる中、各自治体は独自の政策、個性を模索しています。土岐市にはすでに美濃焼の産地という個性があります。値段では安価な外国産には勝てませんが、伝統という付加価値をつけることによって、多少高くても美濃焼を選んでもらえるのではと思いました。素人の浅はかな考えで申し訳ありません。
<ul style="list-style-type: none"> ● 安価な製品の輸入や光熱費等の高騰、生活様式の変化、後継者不足等、様々な事由により地場産業である陶磁器産業を取り巻く環境は大変厳しいものがあるが、これまでの伝統や文化である陶磁器を土岐市の強みとしていく取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世の中に発信力があるのは若者、ブームを作っていくのも若者であるため、若くして陶芸や陶磁器業界に興味のある若者に、駅前空き店舗を陶芸作家の工房として無償提供し、ロクロ等の陶芸の実演をさせ、陶磁器（美濃焼）をPRし、産業の振興につなげる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 活力ある街作りと雇用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前を整備し、陶器陳列できる施設を設置し、たくさんの人の目に触れられるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市の主産業、ブランドである美濃焼の衰退、後継者不在 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本各地の窯業生産地には、全国から陶芸作家や職人を目指す若者が集まっているが、その中でも磁器、土物、型、釉薬すべての技術、資材が揃う土岐市は、より多くの作家・職人志望者が集まる可能性を持っている。行政の補助はもちろん、市を挙げての受け入れ（例：志望者に対して飲食店などが特典を与えるなど）を圧倒的な内容と

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
	発信力で行うことで、土岐市が若手作家、職人が集まる街というブランドイメージを確立する。（※美濃焼のブランド化は成功していない。）この取り組みは美濃焼産業の活性化のみならず、観光振興やイベントの活性化、少子化対策など多方面への波及効果も期待できる。
● 自営で陶磁器産業をしている方々の前途。	● 祭り等で陶磁器を売る・照会することは既に行っているが、さらに活発に、そして若者の興味を引くようなアピールができれば良いと思う。土岐市の陶磁器が引き継がれるよう努力し、より土岐市の伝統が深めていきたい。
● 若い世代が地元で働ける場所の確保をする。	● 美濃焼は安いイメージがあるので、美濃焼のブランド化を進め、魅力ある地場産業にする。
● 振興すべき主要となる陶磁器産業がない。	● 土岐市独自のブランド化を進める。
● 他地域の陶磁器産業と比較し地味な印象がある。	● 既存の枠にとらわれない新しい考え方と伝統的なものとの融合による消費者への新しい感覚の提案
● 大量生産時には大変機能した分業体制が崩壊しつつある。型、絵付け、鑄込みができる人が少なくなってきており、その人たちがいなくなると、業界は立ち行かなくなる。	● そのような仕事に従事していた人、技術を持っていて退職した人を、たとえば岐陶工連で雇ったり、シルバー人材センターのように登録してもらい、必要に応じて、事業所に派遣して、指導等後継者育成に従事してもらい、職人を養成し、技術伝承をする。
● 地場産業であるはずの陶磁器産業が衰退していることから、土岐市を活性化させるための方策が必要。	● アウトレットやイオン、駅前等でのPR活動や販売店としての進出。
● 地場産業である陶磁器産業が衰退している。	● 陶磁器産業の衰退は、国内では安価な海外製品の輸入増加もあるが、それとは別に家庭では、プラスチック製容器等の使用が増加していることも考えられる。コンビニ業界などとタイアップし、コンビニの弁当（丼ぶり、麺類等）を期間限定で陶器の容器に入れて販売し美濃焼をPRできないか。
● 地場産業である陶磁器産業は、守って行くべき大切なものだと思う。「陶磁器の街」「美濃焼土岐市」「生産高日本一」は土岐市が誇れるもの。次世代を担う子供達のなかにも、「陶時期の街」を大事に思う心が育っている。この子供達が大人になり土岐市を離れる事になっても、故郷を誇りに思えるように、陶磁器産業の振興には引き続き、力を入れて行くべきだと思う。	● アウトレットやイオンモール等で土岐市の知名度も上がって来ている。訪れる人も多いのでアピールできるチャンスがある。市民の意識を高める為に、子どもから大人まで意識できるように「美濃焼の土岐市」を看板や広報、印刷物など目にふれるようにする。学校教育の中でも地場産業についての学習に力を入れる。対外的には若手の作り手（カッコ良さ）にスポットを当て、窯焼きのイメージアップをはかる。陶磁器産業に魅力を感じられるようにする。ドキュメンタリー番組をつくる。土岐市には温泉もあるので、ご年配を対象にした宿泊型の陶芸体験、陶芸教室をつくる。土を触るのは肌に触れる感覚に似てセラピーとしていいそうです。
● 地場産業の陶磁器業界がなかなか振るわないと感じている。陶器祭りとかが若い人が活躍できる場もいろいろ工夫されているとは思いますが、土岐へ来たら気軽に陶器に親しめるような街づくりができると思う。	● 中心市街地の整備の中に、空家などを利用して陶器に関する施設を作る。
● 地場産業振興のため、陶磁器を使うファンを増やす。	● ふるさと納税をしていただいた方に美濃焼をプレゼントする。
● 伝統産業の活性化	● 業界への支援
● 土岐市といえばアウトレット	● 一品でもヒット商品を作り出す。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>が有名で、陶磁器産業のことが、世間から薄れてきているように思います。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市のアイデンティティーとして、美濃焼は今後も大切にしていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼の販売が低迷しているとはいえ、陶磁器産業は、土岐市で最大の外貨（国外のみならず市外からという広義の意味で）獲得産業である。行政、業界ともに美濃焼の販路拡大を推進しているが、組合、商工会議所、市、広域、様々なステージで振興をしているものを一元化し、美濃焼を多治見市や瑞浪市と共同で美濃焼の産地として振興していくべきではないかと思う。そのための司令塔となる組織を設立し、デザイナー－製造－販売－PR－産業観光を一体的に推進し、そこに資源（税金）を集中投資すべき。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の基幹産業である陶磁器産業の衰退を食い止める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐にアウトレットができたことにより年間500万人以上の人々が土岐市を訪れるようになったが、大半は美濃焼に興味のない人であり、そのような人が注目するような施策が必要。例えば、アウトレットに訪れその後市内で食事をされる方をターゲットに、土岐市内の飲食店で美濃焼を使用してもらい、合わせて窯元のPRもしてもらおう。採用してもらえる飲食店にはなんらかの助成を行うなど。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の基幹産業である陶磁器産業の生産出荷額は、平成3年のピーク時と比較し約1/4に落ち込むなど厳しい状況となっている。 <p>また、デザイン・絵付け・鋳込みなど伝統技術を継承する担い手が不足しているとともに、窯業原料の枯渇問題など、構造的な問題を抱えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外を含めた販路開拓支援など継続的に実施していくとともに、広域で取り組んでいる「美濃焼のブランディング」等により、マーケットの拡大の支援をしていく。 <p>担い手を育成するため、伝統技術講習会の機会を増やすとともに、若手陶芸作家が活動を継続できるような支援策の検討をしていくことが必要である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の重要な産業である陶磁器産業の衰退は目に余るものがある。人口減少・街の活性化・若者の他市への流失などにより、市全体の元気が足りないような気がする。今一度、「陶器の街、土岐」と言えるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特徴ある陶磁器作り。使いやすい、買ってみたいと思える日常陶器で、特徴ある陶器作り。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の地場産業である陶磁器産業が衰退しつつあり、作り手の後継者不足の問題に直面していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの伝統産業としての陶磁器産業も残していきつつ、時代のニーズに合うようなデザインされた陶器製品など若者向けの商品をつくり、若い世代にも陶器についてより関心を持ってもらうように働きかける。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の地場産業である陶磁器産業が不振なため活気のない街になっている。（特に駄知町）若い人が働ける場を作り活気ある街づくりが重要である。そのためにも陶磁器産業の振興が重点課題だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の窯業は出荷額が減少傾向にあり安価な海外製品に押されていると言われてます。新産業として機械製造系の企業誘致や観光振興として拠点施設が建設されるなど他産業では一定の成果が上がっていますが、陶磁器産業は土 	<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼を売るためには全国的な知名度・ブランド力を高める必要があります。そのためにはこれまでとは違うPRが必要だと思います。現状でも各地方の陶磁器展に出展するなどの取組みを行っていますが、対象はメーカーや玄人など限定されているのではないかと思います。 ● 例えば、新しく作られた志野田茶太郎のようなマスコットキャラクターを大々的にPRするなどメディア展開が可能な素材を育て、それに関連した商品として陶磁器製品を売り出していくのが良いと

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>岐阜市の基幹産業であり、この分野の成長は土岐市の発展に不可欠であると考えます。まずは出荷額や従業者の減少に歯止めをかけることが重要課題と考えます。</p>	<p>思います。直接美濃焼を売り込むよりも、マスコットなど知名度が浸透しやすいものを利用した方が一般向けの PR 効果は高いと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市は陶磁器の町なので、良さをもっとよく知ってもらえるようにすべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい産業を作ったり世代を超えて楽しめるイベント。ふるさと納税での陶磁器の取り扱い。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市産の陶磁器のブランド化。効率的な販促。 	<ul style="list-style-type: none"> ● デザイナーや、既存ブランドとのコラボ。織部ヒルズ等への陶器、雑貨店、カフェ、レストラン等の誘致。
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶芸の街づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 優れた陶芸を生み出す街づくりを推進する。今、陶芸展を実施しているが、更に進めて、若手の陶芸家を積極的に呼び込み、「陶芸村」をつくる。予算を投入して、様々な特典を与え、将来性のある陶芸家を集める。環境に魅力があれば、集まってくる。他がやらないうちに「陶芸村」を打ち出し、全国発信する。「産業」の発想だけでなく、これに加えて「文化・芸術」的な発想からもアプローチするということ。
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業において、後継者不足等により衰退傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器製作の体験行事を増やし、年代問わず多くの方に興味を持ってもらう。
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業には、ユーザーの指向や流行にあわせた商品を市場に提供したり東京ドームのような場でPRするだけでなく、原料から製品生産に至るまでの製造段階での工程設計・管理が重要である。安定した品質と品質の向上・歩留まり向上を図ることができる。また、工程の改善により新しいデザイン開発の要素が生まれ、陶磁器業界の利益率の向上に繋がる。歩留まり向上が可能になれば、不良品の廃棄の減少になり環境センターの延命に繋がる。S40年代のガス窯の普及以来大量生産が進む中で、問題点は温度や湿度の季節性の欠点でしばらく生産を続けると直るという意識や、設備のメンテナンス不足が原因で解決されずにいることが非常に多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器製造メーカーでの成形から焼成までの生産工程で発生する様々な技術課題（不良発生・新技術開発・省エネ・効率化など）と商社へのクレームに各々の現場とともに解決する事業を展開し、生産工程の改善を行う。その成果を業界に水平展開することにより製造体質の強化を図る。一つの製造メーカーで発生する課題は、一社に限らず他のメーカーでも共通する課題であることがほとんどである。製造技術が向上改善するとデザイン力とデザインの幅が向上する。試験場業務では、メーカーと市場でPRを兼ね販売することは行ってきたが、メーカーの製造現場に入り問題点を解決する実績は非常に少なかった。日本の製造現場では品質管理体制を整え、現場での解決を行った企業が大手企業に成長している。
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業の就業者数の減少。土岐市と言えば陶磁器であり、陶磁器は全国で使用されている必要不可欠な日用品であるというのに、陶磁器産業が低迷していくことは土岐市にとって非常に大きな損失となるはず。逆に、全国的に出荷している陶磁器の売上が伸びれば、土岐市にとって大きな収入源となり、雇用促進にもつながると思う。また、これまで伝統的に陶磁器を作 	<ul style="list-style-type: none"> ● デザイン性の高い陶磁器の生産を推進。伝統的なデザインは継承しながらも、若者や女性、特定のターゲットに受けがよさそうなデザインを見極めて取り入れることで、全国的に陶器の売上を伸ばせるのではないかと。（斬新な配色や模様、アニメキャラクター等とのコラボ、面白いフォルムの器、オリジナルデザインの器の受注販売など。）あとはそれをホームページ等で魅力的にPRすることが重要だと思う。そういった観点で、土岐市内の製陶業者を対象にデザイン・販売方法等のセミナーを開催していくのはどうか。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>り続けてきた土岐市だからこそできることもあると思うので、陶磁器産業の活性化は、新規産業を推し進めること以上に効果的ではないか。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業の新しい分野の開拓と取り組みの発掘と伝統の継承を重視する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学、商社との産学連携を一層工夫し、視野を広げた取り組みをしたらどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業の衰退。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器のブランド化・PR等
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業は斜陽産業ではあるが、土岐市の看板産業なので維持発展が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブランド力の強化。現在の世界の和食ブームに便乗してアピールしていく
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業は衰退している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼の製品の良さをPRする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業は生産日本一ではあるが、購入する場所が美濃焼まつり等のイベントや道の駅と限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器メーカーと飲食店が協力し、飲食店が使う食器を販売する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業は年々衰退している。産業ではなくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器を買い揃えるのは一人暮らしをするときか、新婚の時だと思うので、これに該当する市外から土岐市に住む人は市内の好きな陶磁器（生活できる程度）をプレゼント。その費用を全額若しくは部分的に補助する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 年々窯元の数が減り、生産量も減っている。全国の陶磁器生産量のトップシェアを誇っている「美濃焼」であるが、他の地域の陶磁器に比べ「美濃焼」という知名度が低いいため、「美濃焼」を買いたいという顧客を増やし、市内のみならず外部からの陶磁器生産者を呼び込んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内及び他地域から来る若手作家への補助を行う。家賃補助や陶芸の材料代の補助など。また若手作家が作品を展示したり売ったりする機会を提供する。伝統的な作品も大切にしながら、若年層をターゲットにした作品もPRし、広告媒体やメディアなどに積極的に取り上げてもらうような取り組みを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼のブランド化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● ファッションナブルで斬新なデザインの陶磁器製品を希望します。湯呑等従来の用途の陶磁器製品でなく、雑貨・小物等が個人的にほしいです。市内若手作家の作品で素敵なものを見かけたことがあったのですが、普段そういったものを購入できるところが非常に少ないと思うので、販売機会を増やし周知をしてほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼のブランド化を図り、全国のデパートやショッピングモールに展開できるような商品を開発する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 例えば、中川政七商店と波佐見焼がコラボレーションして成功したように、アイデアをもらうという視点で雑貨店チェーンや料理研究家、有名レストランなどとの協働ができればおもしろいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼のブランド力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● TV や雑誌などを活用した宣伝で、美濃焼をもっとアピールすべきではないか。下石町のとっくりとっくんなど、比較的知名度の出た素材をもっと活用すると良いのではないかな？
<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼の多彩さ、リーズナブルさが一般市場に浸透していない。これを浸透させることが先決であり、そのうえで、初めてブランド化が可能となってくると思う。何でも作れる、ということは、長所でもあり、短所にもなりうる。長所として伸ばすための知恵が、いかに、どこまで出せるかが課題。また、市内でも地 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今治タオルの佐藤可士和のような、実績ある方のプロデュースによるブランディングはうまくいかないでしょうか。同じ補助金を使えるならば、そういう人の力を借りることも一つの方法かもしれません。重点課題にもあげたように、市一体となつてのブランディングを図るのであれば、有名人でもプロデューサーでもなくてもいいですが、カリスマ的存在の人や団体との繋がりをもち、市一体となれることをまず実現させること、そしてそこに活路を見出すことも考えるべきではないでしょうか。地域の人にしかわからない長所もあると思いますが、そこに埋没してしまつて見えない長所もたくさんあると思います。「こういうもんだ」から、「こういうこともある」に発想の転換を図れる、(地域の)外の人や、地域外の専門家の意

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>域ごとに工業組合、商業組合が存在し、その得意分野があることは長所だが、地域エゴ等がもし存在し、市一体となつてのブランディングが不可能となっているのであれば、それが大きな障壁。</p>	<p>見をきける機会を持つてはいかがでしょうか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼の知名度の低さ、後継者不足は依然として解決されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼の知名度の向上には、ブランド力の向上や新たな価値の付加が必要ではないか。そのためには、マイスター認定制度などの新たな価値観の付加や美濃焼の多様性を活かして無形文化財認定者の積極的な認定など、作り手が名誉を実感しつつ、業界外にも広くアピールできることを実行していくことが大切ではないか。こうして選ばれた焼き物を展示し良さを伝えていく施設も整備し、やきもの観光につなげていくことが必要と思われる。後継者不足に関しては、他地域からやきものづくりに従事したい人は少なくなく、試験場における技術指導制度だけでなく、そうしたニーズに応える柔軟性のある組織（例えば、NPOとか）を立ち上げて支援していくことも効果があるのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼を目的に人が集まる場所が無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼に関することを集めた通りを市街地に造ってみてはどうだろうか。 ● たとえば、「美濃焼ストリート」というような通りの名前にし、観光地にもなる場所の整備ができればよいのでは、と思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 本市における陶磁器産業は、長い伝統とそれにより培われた技術が集積し、基幹産業であるとともに、学習や観光の資源となっている。また生産量、生産額からみても日本を代表する生産地であるが、近年の日本における陶磁器需要の低迷し、それに伴い美濃焼の生産量と販売額も減少しており、生産地としての規模も縮小してきている。地場産業の発展は、地元経済の活性化、定住人口の維持・増加に有効であるとともに、集積された技術の継承は、将来の本市の強みとなる。そのため陶磁器産業の振興は重要な課題と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼のみならず他の生産地と共に魅力ある日本の陶磁器をPRし、内外の需要を掘り起こし、日本の陶磁器市場の拡大を目指す。 ● 陶磁器生産の技術の他産業への移転。

7 新産業の育成

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレットや間もなくオープンするテラスゲートで、県外から若い方が多く集まっているが、そのまま土岐市には立ち寄りず帰って行ってしまっている。（もったいない）その人たちが市内にも立ち寄りただけのような新しい産業や観光地が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体が率先して作るべきものではないと思いますが…客層が若いので、例えば浜松市にあるような「ぬくもりの森」のようなおしゃれなカフェや雑貨屋さんがあり、お洒落なまちを作つてはどうでしょうか？アウトレットとは少し離れた場所（陶史の森近く）にあれば、市内にも観光客がながれるのでは。土岐にちなんで、「とき（時）が経つのを忘れてしまいそうな素敵な時間が過ごせる場所。道路の整備も必要。
<ul style="list-style-type: none"> ● これまでも工場団地の造成やプラズマリサーチパークなどの開発が行われてきたけれ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間の遊休地や空き工場などのあつせん。自動車や機械以外の企業の積極的な誘致、未利用施設を活用した起業支援

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
ど、活性化や人口減少の歯止めがかかっていない	
● リニア中央新幹線開通に向け企業進出の促進	● 企業への積極的なPR
● 核融合科学研究所の幅広く高度な科学技術情報を交流により勉強し、市内産業に移転する。	● マイクロ波焼成技術の開発以来続く情報交換を、研究当時のように連携研究センターと密に行う。得られた情報を陶磁器の加工技術・加熱技術と融合し、市内企業での具現化と企業進出に繋げる。
● 基幹産業である陶磁器産業に対する美濃焼の振興策は手厚く行われていると感じるが、生活様式の変化などに対応するためには、食器中心の陶磁器産業の中において多方面（例えば住宅関連の陶磁製品の開発）多業種とのコラボ、高付加価値化などを図る必要性があり、若い経営者や起業を目指す人を対象とした長期間の講座の開催や起業の支援を行う。	● 陶磁器産業から波及するような産業を育成するため、多治見市が行っているような多業種とのマッチングの機会を創る。若手後継者や起業を目指す人とアクアシルヴァなどに進出した企業との情報交換、交流を図る機会を提供したり、起業するための講座の開催や支援を行う。
● 現在、土岐市の産業というと陶磁器以外に主だった産業がないので、時代に即した新産業の育成を目指す。	● 同一業種及びその関連業種の企業誘致を推進し、土岐市の産業を育成する。
● 雇用環境の充実と相通ずるが、雇用を増やすためには新産業を育成する必要がある。企業誘致を積極的に行う必要がある。	● 企業誘致が見込めるなら、新たに用地を造成することも検討する。
● 雇用環境の充実に関連し、現状の産業のみでは困難であるから。	● 恵まれた交通アクセスを生かした企業誘致。
● 産業の複合化を進め税収の増加に努めること ● 企業誘致のための土地の確保 ● 陶磁器産業において大量生産から少量高付加価値製品への転換	● 3Dプリンターを有効活用し、食器に限らず新しい分野への誘導
● 住民の減少を食い止めるためには、雇用の創出が必要不可欠である。地場産業である陶磁器関連は国際化の流れの中で専心化が進むことが予想され、大きな雇用を生むことが困難になると思われる。このため、新たな産業を育てていくことが重要である。	● 大きな雇用を生む産業を地場で創出することは、困難である。雇用の創出には、大企業を誘致することが重要である。しかし、現実には、企業誘致は、どこの自治体も考えているため、簡単にはいかないと思われます。このため、土岐市としては、大企業にこだわらず、地道に企業誘致を行っていくしか手がないと思います。また、行政としては、他地域の企業の方々に土岐市の利点を知ってもらうための営業努力も地道に行っていくしかないと考えます。
● 雇用環境の充実	● 景気変動に対し、市全体のダメージを減らせるような他業種の優良企業誘致を進める。
● 新しい産業を生み出すことが重要な課題。つぶれた大きな工場跡地、休耕田、入り組んで車も通れない道路やその周辺の空き家等、活用できると	● 地場産業にこだわりすぎ。地場産業とともに市が傾く可能性すらある。地力のあるところに地場産業はある程度任せて新しい産業を作り出すほうが外からお金を落としていってもらえるのではないかと。アウトレットができ人が集まっているようだが、結局アウトレットしかない。各町に特色を出して（たとえば濃南地区は広い土地を生

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>ころはまだまだあると思う。</p>	<p>かして果樹園など、蒲郡市の～～狩り等通年やれる状態にする、下石ではろくろ等の陶器体験やそちら関係の展示場など、歩いて回れる範囲に整備し、売店やお土産など観光客向けの売店ロードを整備する、さらに市が旅行会社等と提携し、バスツアー等を周年開催する。など外貨獲得に動く。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 新技術・事業の提案、支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業で培った窯焼き管理を生かした、活性炭再利用やレアメタル抽出等の異業種への転換支援。
<ul style="list-style-type: none"> ● 新産業の受け入れにより、雇用の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新産業の会社を誘致して、雇用の促進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口維持に必要なものは、やはり働く場所の確保と考える。 ● 陶磁器産業に変化を促し、新陶磁器産業の創出、雇用の場の確保 ● 新産業の育成による雇用の場の確保 ● いずれも20年程度を想定して考えるべきものと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器試験場に新陶磁器産業の創出チームの結成（民間中心で事務局機能）3年程度を目途
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少の抑制と、まちの活性化を図ることが重要であるため。 	<ul style="list-style-type: none"> ●
<ul style="list-style-type: none"> ● 税収確保及び人口減少 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな工場用地確保と企業誘致の更なる推進
<ul style="list-style-type: none"> ● 単一産業に依存した産業構造からの脱却 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内への新規企業誘致は概ね順調に推移していると思われるが、今後は休業している工場への企業誘致を図るなどの施策を考えられないか（空き家対策の工場版）。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業である陶磁器（美濃焼）は、知名度も低く、その特色も生かすに至っていない。陶磁器産地は全国にも多く、当市の陶磁器製造業の多くが廃業する中、これを振興し全国区にするのは至難の業である。陶磁器産業は、以前は地域外からお金を運んでくれる産業であった。時代が変わるとともに、その役割は終焉し、他の産業に移すべきだと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 時代とともに世の中が何を求めているかは、常に変化している。今持っている技術を次の産業に活かした企業が勝ち残っている。陶磁器産業も器にこだわることなく、今持っている技術を流用して何か新産業ができないか。陶磁器製造業の中にも、若手の人材は多くいるので、彼らの意見を吸い上げ、新産業の育成につなげる努力をすべき。企業誘致で外から産業を入れるのではなく、今ある産業をいかに新産業へ発展させるかを考えれば、若者の地域定着となるか。項目1に唾がることだが、新産業で雇用が喪失できなくても、名古屋圏への通勤が便利な街になれば、住民の定着につながり、税収増となります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業の活性化は勿論であるが、新たな産業の誘致・育成の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広大市有地の有効利用。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業の衰退。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 税収として地場産業や観光が見込めないため、土地を今以上に誘致をして土地での税収の増を図る。高速道路の立地条件を有利に考える。東濃地域の住民が名古屋に行かなければ用事が済まされないことを、土岐市で完結できるようにする。（イオンの誘致は第一歩だと考えられる）
<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業も大切であるが、もっと他の産業にも目を向けるべきだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業誘致を促進させる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市という陶器のイメージが強くて、ほかに思い浮かぶ産業がないような気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶器とつなげたものを発展させたり、新しいものがあれば発展させる。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 東濃西部都市間連絡道路周辺の開発。	● 都市間連絡道沿いに民間と共同し新産業用地を開発し、一部の地域に年収等の住居条件が付加される高額所得者(名古屋周辺の企業の重役等)向けのセキュリティの整った高級住宅街を造り固定資産税や住民税の増収を図る。
● 陶器の原料である粘土が枯渇することを考え、早めに新産業を育成していかなければならない。企業誘致では、向上や倉庫を誘致して終わりではなく、市とともに成長していける分野を。	● 当たり前のようにあって、市民は産業になるなんて思っていない物を発掘する。市外から転入した人たちからアンケートなどを取ってみるなど。上勝町の葉っぱビジネスのような…。
● 陶器産業が衰退している中で失業した人や今後就職する人に対して、働ける環境を構築していかなければならない。	● 企業誘致を積極的に行い、誘致した企業に対して地元住民の雇用枠を設けてもらい、少しでも地元住民が働ける環境を増やす。
● 陶磁器のみならず、他の産業も地域のセールスポイントとして積極的に取り入れていく。	● さまざまな産業に目をつけ、現状よりさらに積極的に企業誘致を行っていくことが、発見につながると思います。
● 陶磁器の需要低迷による生産量減少への対策	● 市内の陶磁器製造業者は多様な製品に対応できる高度な生産技術を持っている。こうした生産技術を他業種へ展開していくための情報収集、異業種交流を促進させるとともに、生産設備を他業種に対応させるための投資に対する支援をおこなう。
● 陶磁器業界の低迷にあたり、次期に引き継いでいけるような新産業の開拓が必要。	● 陶磁器関連で新たな製品、物作りの技術開発。
● 陶磁器産業に変わる新産業を考えていく。	●
● 陶磁器産業のみでなく、他の産業を取り入れることが重要。	● 自動車関連事業を取り入れる。
● 陶磁器産業のみにとらわれず、それ以外の企業を招き入れる為の土地の造成等を進める。	● 企業の従業員の地元雇用の推進。
● 陶磁器産業の振興も重要であるが、高速道路網の整備などで民間企業が進出しやすい状況となっているため、この状況を有効利用し、積極的なPRで新産業を呼び込み、経済の新たな起爆剤として市の活性化に繋がるように利用すべきと思われる。	● 現在、工業適地に着々と企業が進出してきているため、新たな工業適地の開発等を考慮しながら、新産業の誘致・育成へと進めれば良いと思われる。それ以外の発展拡大を考えていく必要がある。
● 陶磁器産業の衰退。	● 産業の垣根を越えて、新しいもの(新産業)を作っていくことが必要。イベントで、興味を持ってもらうことも大事。
● 陶磁器産業の衰退・頭打ちを素直に受け入れ、新規産業の参入を課題・中心とした産業の発展・街づくりを熟考する。	● アウトレット、イオンモールなどの大型商業施設との連携した商業の発展。
● 陶磁器産業は、後継者がいなかったり、経営が苦しく辞めてしまうなど、苦しい状況だと思います。美濃焼だけに頼らず、新しい産業を開発し、	● 陶磁器は、京都など有名な産地まで勉強しに行くなど、興味のある若い人は実際多いと思います。もちろん、陶磁器産業も、若手を呼び込んで育成し、独立できるように支援していく取組が必要だと思いますが、市内の空き地を活用して、さらに企業誘致を進めてほし

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
土岐市を PR していける新しいブランドを作っていく必要があると思います。	いです。
● 陶磁器産業を補完する特色ある産業がない。	● ①「世界基準の技術・技能」を探し、育て、発信する。 ● ②技術・技能の新しい活用法、他の技術との融合による新たな価値の創出
● 陶磁器産業以外にも、新しい産業を取り入れていくべきである。	● 意見、視察などを実施し、土岐市に見合った新産業を取り入れていく。
● 陶磁器産業以外の産業を充実させる。	● 自動車部品メーカーなどの誘致が増えてきた。企業を誘致する際に税金面等の優遇はあるが、それ以外にも各課でできる細かいサービスを検討する。
● 働く場所がないので、定住が見込めない。人口は減少の一途。	● 働く場所の提供を、新産業の育成をして賄う。

8 商業の振興

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
●	● 鶴里の工業団地の拡張。
● →人口減少→税収が下がる→サービスの低下↓という負のスパイラルから脱却しなければ市として存続は困難。商業振興により人があつまり活気ある街づくりを進めることが重要。	● 市・市議・地域経済団体・商業者・学識経験者・市民などで商業振興について考える場を設けて、アイデアを出し合える環境を整える。
● アウトレット、テラスゲートの進出、将来大型商業施設の進出が決定されているが、全て市のアウトサイドに設置されており、市内への誘導がなされていない。	● 市内誘導にはイベントや目玉となる施設等が必要となるが、従来の市街地とされる部分については、動線に柔軟性が欠けており、渋滞や駐車問題の解決をしてからでなければ難しいところがあるため、新興商業エリアから近い下石・妻木地区という比較的混雑緩和となるエリアにイベント等が開催できるスペース確保の検討を行ってはどうか。（美濃焼を PR するにも窯元への誘導が必須）
● アウトレットに加え、テラスゲートやイオンの進出等により遠くからも人が流入してくることになるため、この人の流れを市内の商店街にも流れるようにする。	● アウトレットやテラスゲート等の大型施設と連携して、割引チケット等の連動したイベントを行い人の流れるようにする。
● アウトレットモールはあるがその他について魅力が感じられる施設が少ない。	● 企業、商業施設の誘致を実施し、皆が住みたいと思う町作りをする必要がある。
● アウトレットやイオンモールなどの出店により、地場産業や地元小売店の衰退が懸念される。	● 官公庁施設も含め、アウトレットやイオンモールなどに大々的に土岐市のアピールスペースやイベントなどを行う。
● アウトレット周辺は、他の施設も入ってくる予定もあり好調である。土岐市駅周辺、その他はあまり好調とは言えない。商業の振興どんなも活性化には重要である。	● 車社会になので、魅力的なお店があれば、土岐市以外のお店に流れる、土岐市の「〇〇に行こう」と思って来てもらえるお店づくり・人作りが大事であると思う。そういうお店が集う街を作ってみてはどうか。（どんなお店が良いかと問われると、難しいですが・・・。）
● イオンモールの早期立地及び周辺環境の整備、大規模小売	● 製造業誘致のみならず商業施設誘致のための土地の確保に努める

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>店舗の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ● この項目に当てはまるのかはわからないが、大型のショッピングモールや、大手の電化製品店、映画館など、他市にあって土岐市にないものが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● この先数年の間に土岐ヶ丘近辺は栄えてくるが、それ以外の町内には行きたいと思う場所があまりなく、用事があると多治見や瑞浪へ行ってしまいます。土岐市外の方が何でもあって便利だからです。もっと生活が便利になるようにするべきだと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● リニア中央新幹線開通に向け企業進出の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業への積極的なPR
<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前の活気がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前の商店街にスーパーや魅力のある食事処を設ける。
<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前商店街の活性化が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若い店主を募集する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前通りや新土岐津線の店舗・商業施設の少なさ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新土岐津線は高校生の通学路でもあるため、高校生や若い人が立ち寄りやすい店舗を作る。
<ul style="list-style-type: none"> ● 下石町のとっくん等、地元の方々に努力していただいているが、現状商業は衰退しているため、市としてのバックアップが必要不可欠だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ふるさと納税(寄付金)の特典として土岐市の特産品をPRしつつ、寄付金が多く集まるように働きかける。
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在土岐市では既存のアウトレットモール、新規オープンするテラスゲート土岐、イオンの進出など商業が盛んになってきている。ただ、全て土岐市の市街地とは少し離れており、19号や土岐南インターから入ってくる多治見方面の市外の方が、土岐市の市街地には足を運ばず、そのまま帰っていると思います。市外のお客さんをどうにか土岐市市街地へ足を向けさせることはできないかと思います。岐阜県内でも有数の集客力を持つアウトレットに加えて2つ大型商業施設が建設されるので、この集客力を利用しない手はないと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレット、テラスゲート、イオン等と連携して、例えばアウトレットで5000円以上買い物をすると土岐市の〇〇店の〇〇が無料で食べられる。もしくはバーデンパーク曾木の入浴料金の割引を受けられることができる、作陶体験が格安でできる、など、大型商業施設から帰りに土岐市市街地に寄ってもらうためのところみなどはどうでしょうか。あとは昨今話題になっている「ランチパスポート」の土岐市版のようなものを作り、大型商業施設で無料配布するなど。少し別の話になりますが、全国各地で行われている街コンを土岐市でも取り入れるなどもできると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 商業の振興による、雇用創出や市税収入増 	<ul style="list-style-type: none"> ● アクアシルヴァやアウトレット、テラスゲート、イオンなど産業の振興により、雇用の創出や固定資産税、市民税の増収などが見込まれる。土岐市には広大な土地もあり、引き続き新たな産業の振興に努めるべきと思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 商業振興が進めば人が自ずと寄ってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地の活性化と大型商業施設の調和のとれた整備。
<ul style="list-style-type: none"> ● 織部ヒルズの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在でも、カフェ、雑貨店、陶器店が数店舗ある。店舗が増え、街歩きができるような環境を整えば来客が増える。来客があればイベント等を実施しやすくなる。アウトレットから織部ヒルズへ人を呼ぶことが出来れば、市内への人の流入のきっかけになる。と思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 新規開店者への支援 ● 集客イベントへの支援 ● 市内への商業客の誘導 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市が掲げる施策を積極的に行っていただきたい。 ● 特に、土岐プラズマ・リサーチパークにおける商業施設やイベントは効果的であると予想される。 ● (例) 土岐プレミアムアウトレットのセール期間に合わせてイベントを実施する
<ul style="list-style-type: none"> ● 衰退する窯業の代わりとなる産業の誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大型商業施設の積極誘致その為の税制の優遇、市有地の提供。インフラの整備。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 大型商業施設の建設もあり、地元の商業がより元気がなくなってしまうのではないかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しくできる商業施設に地元の飲食店を取り込むなど、大型商業施設に来てくださった方々に土岐市について知ってもらう機会を作るような対策が必要なのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の雇用を増加し人口流出に歯止めをかけるためにいかに商業を振興するかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業誘致の際、交通の利便性を謳うだけでなく、①津波の心配がない点、②瑞浪層群が広く分布していて液状化のリスクも低い点（これは場所による）をアピールする。例えば、大企業などヘリスクマネジメントの一環としてデータのバックアップ拠点を土岐に設立するよう売り込むなど。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業である陶磁器産業と結びついた商業の推進をすることでより活力ある街作りとなると考える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐独自のB級グルメの開発で町おこし
<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業の近代化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業のPRを全国に配信する
<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業を支えつつも地場産業に固執しない新しい産業や商業を生みだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市は陶磁器の工場が多いが、作った陶磁器を販売する場が多治見市や瀬戸市と比べると少ないように思う。道の駅などの販売所はあるが、個人業者が販売するお店が増やして、アウトレットなどに訪れた人達が陶磁器のショッピングも楽しめるようにする。陶磁器に限らず個人が趣味で創作した商品を常時販売できるような施設（クラフトショップ）があると良いと思う。（多治見市はNPO法人が行っているMama'sCafeで布製品が中心ではあるが主婦の方たちなどが作った様々な商品が販売されている。）
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐ヶ丘以外の店舗への集客。土岐プレミアムアウトレットへは年間500万人超の来場者数がある。その一方、既存市街地の店舗への客足は伸びず、衰退の一途を辿っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレットに集客が集中し、500万という膨大な人数が既存市街地へ少しも流れ出ないのは、市外の人が見て土岐市内の魅力的な地点はアウトレット以外にないということを表している。市外からの客をアウトレットから既存市街地へ行きたいと思わせるためには、・駐車場が大量にあること・魅力的な商業および観光資源があること・それらの存在を刷り込む（しつこくアピールする）ことが必要である。駅前や駄知、下石妻木の中心市街地は現在、古い空き家が目立ち、歯抜け状態が進行している。その遊んでいる土地を集約し、大駐車場を確保するとともに、生き残っている店舗を道の駅状に固めて配置する。それだけでは客は来ないので、特色のある目玉（の店舗）を誘致する。そうすることによって寂れた景観を一扫し、やきものづくりをする田舎の生きた景観を作り上げる。そのための長期的な計画を打ち出し、これが土岐市のまちづくりだと市民に意識化させるために「少しずつ」進めていくことが大切である。ただし、これは住民に切実な思いがない限り実施できない。行政が旗振りをしたところで、住民や地権者にその気がなければ、衰退する様子を見届けるしかないと思う。曾木温泉の逆さもみじは貴重な成功例として、これからの土岐市の道筋や市民の意識のあり方を示していると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐プレミアムアウトレットがどんどん規模を拡大していく一方で駅前のシャッター通りなどは閑散としていて、発展の差が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレット利用者にアウトレットだけではなく土岐のいろんな場所に足を運んでもらえるような工夫（アウトレット内にPRできるパンフレットやチラシを置く、市内のお店を利用した方にアウトレットの割引券を配る、など）をする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐プレミアムアウトレットには年間500万人以上の入場者数がありながら、そこで完結してしまっていることが問題。4月からはテラスゲートのオープンも控えている中、市内に人が流れるような仕組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレット隣接地にはトヨタ自動車関連の住宅開発を行っていることから、トヨタ自動車と協力して、トヨタ系のディーラーすべてをアウトレット隣接に集め、家族で出掛けた際には、父親はアウトレットではなくトヨタ系のディーラーで時間を潰すなどの人が回遊できる街づくりを実現させる。また、テラスゲート内のできる温泉施設なども、曾木温泉や柿野温泉などとタイアップして温泉めぐりなどの開催し、市内に人の流れを作る。実現不可能な内容かも知れないが、思い切った発想でやらなければ商業・観光の復興には繋がらない。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の地場産業として、陶 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在土岐市内で陶磁器に関する陶磁器祭りなどが行われているが、

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
磁器産業が挙げられる。全国的にも有名である陶磁器産業の振興が重要課題と考えられる。	全国各地で行うことが出来れば今以上に全国的に知名度が向上すると思われる。
● 陶器産業の今以上の活性化	● 現在、陶器祭りを開催しているが、市外からの来客は陶器が好きな方に限られていると思われる為、陶器に対して入口を広くし、客層を増やす必要があると思われる。
● 陶磁器産業や、商業施設、観光施設など、すでにあるものを有効に活用できていない。	● 行政、組合、様々な組織が一緒になって、全国的にPRすることができる。とっくりとつくんをもっと全国的に広めて、土岐市の陶器について知ってもらう機会を多くする。
● 陶磁器産業以外に基幹産業がない。	● 商業施設の誘致等
● 年間アウトレットに訪れる約500万人ほどの人に、もっと土岐市の特色をPRして、土岐市に興味を持ってもらうことが商業の発展にとって重要であると感じます。	● 飲食店組合などとも連携しながら新たなご当地グルメを作り、アウトレット内に飲食・販売ブースを設けて売り出したりするのはどうかと思いました。他には、アウトレットからバスを持っている飲食店に協力してもらい、食事がメインで少しだけ市内の雰囲気味わってもらうような市内ミニツアーを開催するのはどうかと考えました。

9 観光の振興

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 「土岐市」について、アウトレットしかイメージがない人が多いように感じる。	● 大きい花畑等を作ったりして、花を見にいきがてら、街並みを散策してもらい美濃焼について知ってもらえるといいか。道の駅や、下石、駄知の周辺に陶器以外に、楽しめるものが加わるとうい。
● 土岐プレミアムアウトレット近辺で観光を終えてしまう人が多い。	● 市内の魅力を土岐プレミアムアウトレット近辺でもっと発信していく必要がある。発信できるコンテンツ（パンフレット、ポスター、ウェブ等）を考える必要がある。・アウトレットでお買いものをした人には市内のお店で使える割引券（ガソリン割引券など・・・）や市内のお店に来店した人に粗品プレゼントなど・・・の特典をつける。逆に市内でお買いものをした人にアウトレットで使える割引券など配ることも良いと思う。
● ・土岐市に訪れる人々の増加、観光名所の増加、話題となるものの創設。	● 三菱地所と提携を図り、アウトレットで引き返すのではなくそのまま街に降りてくるような導線をはる。そして、テレビ取材を受けるような人々をひきつけるような観光スポットの充実。
● アウトレットに集客があるのに、それが街中へ流入がないのが問題かと。バーデンパークや美濃焼団地での陶器まつり、アウトレット、今後のテラスゲートなど街の外にすべてが完結してしまう状況かと。	● 街の外で完結してしまっている、集客をいかに街中に呼び込むか。陶器まつりを街中でやるとか、もっとテレビやネットで観光をアピールするなどした方がいいかと。
● アウトレットに集中する観光客を、いかに市内各地に呼び寄せるか。	● 解決案ではないが、市や近隣の在住者ではあたりまえで気づかない土岐市の魅力がまだあるのではないかと。
● アウトレットに来場した人をいかに市内観光に誘導して、市内での購買活動を促すか。	● 施設やイベントのPR方法を考える
● アウトレットの増床、テラスゲートの開業等、土岐市への来市数の増加を観光に結び付ける。	● 美濃陶磁歴史館、織部の里及び周辺遺跡の総合的な整備
● アウトレットやバーデンパー	● 瑞浪市のマコモダケや多治見市のうながっぱのような特産品やキ

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>クに来場するお客様に少しでも土岐市のことを覚えていただくために、土岐市のキャラクター、特産品、B級グルメなどを開発していくことが必要。</p>	<p>キャラクターなど、また、B級グルメなど土岐市を象徴するようなものを市民や職員から募集し、市の活性化へ繋げる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレット周辺には4月にはテラスゲートが、オープンし、ショッピングを楽しむ人たちが現在より集客してくると思います。以前から言われていますが、土岐市内にまで、ひろがるとよいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力あるウォーキングコース（自然と美濃焼きとおしゃれなカフェ） <p>今までもどんぶり祭など市内にお祭りがありますが、年々観光客が少なくなっているようです。都会ではウォーキングをする人口が多いと思います。名古屋などで、美濃焼のお土産を付けるなどしてマップも分かり易くしてアピールしたらどうでしょう。以前から実践されていることかもしれませんが。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレット増床、テラスゲート、イオン開業と土岐市は観光という点で大きな転換期を迎える。今後ますます土岐市を訪れる人が増えると予想される中で、土岐市を訪れた人をアウトレット周辺からいかに市内へ誘導するかが課題である。また、円安やビザの緩和で増加している外国人観光客を土岐市に呼び込む方策を考えることも重要であると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレット、イオンと市内スポットの連携を高める。例えばアウトレットやイオンで買い物をしたレシートを持参すれば市内施設の入場料や飲食店での代金、土産物などから割引く。美濃焼祭りやもみじのライトアップ開催中にはアウトレット等でPRする。 ● 外国語パンフレットの充実、観光案内所に外国語の話せるスタッフを配置、「MinoyakimadeinJapan」をアピールし、アウトレットを訪れた外国人客（特に中国人）に大量に陶磁器を購入してもらえよう環境を整える。県と連携して海外でPR、美濃焼の認知度を高める。無料Wi-Fiスポットの整備、観光情報アプリ作成。
<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレット等の大型商業施設ができ、観光客はそこで止まってしまっている。曾木公園のライトアップ・陶磁器祭など多くの観光客が土岐市に足を運ぶが、そこから市街地へと観光客を誘導できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● まずは、土岐市としての観光名所を作る。地場産業を絡めてできるとよい。そのためには、道路整備、環境整備等が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ● イベントやアウトレット周辺以外の観光客増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「アウトレットに来た客を市街地に誘導できれば」というフレーズはアウトレットができる前から言われてきたが、そういう構図ができていく実感がまったくない。アウトレットの客の目的はアウトレットでの買い物であるから使える時間をすべて買い物に使いたいわけで市街地には向かわない。ただ、観光に食・土産は重要な要素で、遠方からの客はその土地のものを食べたり買って帰ったりしたいという心理は働く。情報化社会と言われるようになって久しいわけで、ひとたびこの店のパンがおいしいと噂になれば、遠くからでもインターネットやナビで検索してくる。ありきたりだが、食についてお店とタイアップして名物をつくるなど、ネットやTVで話題になるようなものが必要だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● これからテラスゲート土岐、イオンなどの施設ができ、土岐市に人が集まるようになってくると思われるが、その施設だけに留まらず、市街地にも人が集まってくるようにしないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前を拠点として「土岐市ぐるりんバス」を運行させ、各町に1か所見どころを作り、人を動かす。土岐市観光「1日コース」「半日コース」「2時間コース」などのプランをHPなどに乗せてPRする。
<ul style="list-style-type: none"> ● プレミアムアウトレット、今春オープンしたテラスゲート土岐など集客力のある施設が存在するにもかかわらず、中心 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多治見市は駅周辺が買い物をする場所から住む場所に変わりつつある。一部行政機能も駅裏に移転し、交通網も徐々に整備されている。一つのモデルとして参考とし、街づくりを進めていくべき。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
市街地の活性化がそれに後れをとっている。	
<ul style="list-style-type: none"> ● プレミアムアウトレットなどの新しい施設ができることにより、市外から土岐市へ来る人が増えているが、それを市内の観光に結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パンフレット等による観光案内を積極的に行う。市内を巡回できるバスを用意する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前商店街にラジコンとかプラモデルを売っている模型店が無い。スーパーカー(フェラーリやランボルギーニ等)が展示してある博物館が無い⇒昨年、岐阜駅の近くの某商店街でスーパーカーを展示するイベントがあったので見学に行きましたが大勢の人が見学しに来ていてとても賑わっていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 某商店街に負けないぐらいのスーパーカー展示イベント等を開催して欲しいです。開催可能であれば自分もできる範囲内でお手伝いをさせていただきます。見学もしたいです。
<ul style="list-style-type: none"> ● 観光産業の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農産物の6次産業支援及び直売推進、陶器以外の特産品・土産品の開発支援
<ul style="list-style-type: none"> ● 観光資源の活用において観光資源の発掘や観光拠点の整備は重要であるが、未だに独立した点としか存在していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の観光の拠点はアウトレット、美濃焼観光(美濃焼まつりなど)、道の駅、織部の里などであり、それぞれが有機的に繋がっていないのが現状である。市内に観光拠点を整備し、そこにまちづくり団体などの活動拠点として活用してもらうことで、観光拠点の活性化を図れないか。例えば、下街道の拠点として高山に旧尾張屋(深萱英次郎)の復元整備を行い、観光ボランティアの活動拠点とするなど、核となる拠点はもっと必要ではないか。織部の里にボランティア団体の活動拠点を置き、文化振興事業団と連携を深めることも活性化につながると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 観光資源の活用について 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大型商業施設(アウトレットモール)は週末には活気があり、観光面では良いように思うが、地元の土岐市民の利用があまりないようにも感じる。今後はイオンモール建設の話もあり、大型商業施設の利用については、地元市民にもっとサービス還元があるとよいと思う。例えば、土岐市民であれば、割引制度がある等の特典をつけることで地元市民の利用率も上がり、土岐市への移住など人口増加も図れるのではないかと。直ぐに結果につながることはないが、魅力ある街づくりの一つとして他市にはないようなものを作るべきである。
<ul style="list-style-type: none"> ● 観光振興は、地域発展の一躍を担う重要な原動力であり、海外、国内から広く集客できる個性的、魅力的な観光地域をつくりあげ、観光関連収入により、地域の経済が潤い、地域社会を活性化させる事業の展開を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 美濃焼、農業、工場見学、先端科学、温泉、自然等の体験・学習型観光の洗練と創出 ● 名物グルメ料理、地域めし、名物土産品、地域キャラクター、地域マスコットの企画、開発の支援 ● 観光協会の充実と人材育成 ● 観光ボランティアの育成 ● 近隣観光資源との連携と観光ルートの洗練と創出 ● 道路網の整備 ● 土岐プレミアムアウトレット、テラスゲートまちゆい、道の駅、バーデンパーク曾木等、集客力のある施設の有効活用と観光PRの充実 ● インターネット、SNSの有効活用 ● 先進市町村の視察、先進事例の検討と実践
<ul style="list-style-type: none"> ● 休日にアウトレットや道の駅志野・織部に出向くと、非常に大勢の人でにぎわっているのに対し、どんぶり会館や織 	<ul style="list-style-type: none"> ● 集客力の高いスポットには、その他の観光スポットを魅力的にみせるようなポスターやモニター等を効果的に設置すると良いと思う。下石の味のある街並みや、織部の里公園ののどかな風景を大きく美しく写した写真などを見てもらえば、「ちょっと立ち寄ってみよう

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
部の里公園は閑散としていることが多い印象。集客力の高いスポットから、少しでも他の観光スポットに立ち寄ってもらえる工夫が必要ではないか。	かな」と思ってくれる人もいないのではないか。
● 県内一の集客力を持つアウトレットの存在を最大限活用する。また、今後テラスゲートやイオンモールのオープンにより更なる土岐市への集客が見込めるが、その3点間の移動で完結させない工夫が必要。	● 既にテラスゲートで計画されていると思われるが、アウトレットやイオンモールなど、年間6百万人弱+αの人々の目を土岐市に向けるためのPRと、目を向かせる事が出来る魅力あるコンテンツ（特産品、グルメ、イベント、テーマ性のある街並みなど）が必要。
● 現在、強化された道路網とアウトレットなどの拠点により、市を訪れる人はかなりの人数に上るが、経済的な活性化に繋がっているようには感じられない。	● 来訪者がそれを機会に他の既存施設等を訪れ、市の活性化とリンクさせるためには、集客拠点と一体化した観光振興が必要である。
● 交通アクセスの充実に伴い大型商業施設等の整備が進む中、美濃焼産業や自然・文化を活かした観光資源を活用した観光振興により、交流人口の拡大が求められている。	● 平成25年に策定した産業振興計画に基づいた具体的な取り組みを実施することにより、土岐市の知名度の向上及びまちの活性化を図っていく。 ● PRPにてNEXCO中日本と連携して運営を行う地域連携施設の開業を契機に、NEXCO中日本のネットワークやノウハウを活用した観光戦略を進める。
● 交流人口の増加	● 観光協会の強化（法人化）。休日農業体験。
● 国内外からの集客数を誇る土岐アウトレットから土岐市内へ集客するアピールポイントがない。4月にはテラスゲートがオープンし、4年後には県下最大級のイオンが進出するため、それまでに「〇〇の土岐市」と言われるポイントを作るとよい。	● 観光大使の酒井敏也氏が以前テレビで「土岐市をピザの町にしたい」と言っていたのを参考に窯元を中心に姉妹都市フェアエンツァ市と関連したピザの祭り等のイベントを催してみてもどうか。イベントの手応えを見てさらなる観光振興に結び付くような施策を提案していき、アウトレットやイオンのショッピング→市内での観光、食事、買い物というルートができるとよい。すでにネットやテレビで反響がある鍋や食器を製作販売する市内業者とも連携できるとよい。
● 最近新しい施設がどんどん計画され進んでいますが、少ない土岐市の人口の中で共倒れにならないかという不安もあります。古くからの物も大切にしながら、新しい物を宣伝・アピールし、より市外・県外からの人を呼び込むかが重要だと思います。またきれいな土岐市というイメージも大切だと思います。	● 車でのアクセスが中心だと思いますが、まずは駅が土岐市の顔になると思います。進んではいますが、駅や駅周辺の整備もより進めていく。また瑞浪のように街路樹を植えたり、草刈り、手入れを頻繁に行うようにしたりし、道路の景観を良くしていく（核融合の近くは多治見から土岐市に入ると景色が変わります）。その他、土岐市で行っている市内ロードレースや、市内一周駅伝などのスポーツ関係も市外にアピールし参加できるようにしたり、市外からの参加者には曾木温泉のチケットなどを配布したりして、施設利用にも繋げていくことも良いのではないのでしょうか。
● 商業施設の発展は少しずつ見られるものの、駅前周辺の活性化を感じない、インター周辺だけでなく市内全域に観光地としての目玉がほしい	● アウトレット施設と連携し、買い物後には市内の施設利用券等の呼び込み
● 情報発信方法。	● 既存、新設商業施設を利用した情報発信。
● 新しく商業施設ができるためそれを生かした観光客の増加	● 商業施設の宣伝をする。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
が必要。	
<ul style="list-style-type: none"> ● 親子が共に安心・安全に楽しむことのできる施設・場所は、観光施設や子育て支援など多くの点でメリットがあるが、土岐市が新たに整備することは、整備費用とその後の維持管理費用が必要のため困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者を誘致し、整備する（例）アメイジングワールド（全天候屋内型遊戯施設）は集客施設としても、親子が共に楽しむ場としても魅力的であり、既存の屋外施設（陶史の森、総合公園）とイベント等で連携できれば既存施設の活性化や既存市街地への利用者・観光客の誘導を行うことが可能である。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地元産業の衰退と観光を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大型商業施設の進出を機に、市内へ人を引き込む政策ではなく、観光施設へのアクセスポイントとなるように土岐市駅、インターチェンジ、幹線道路沿いなどを整備し、市全体が協力して盛り上げられる政策を企画していくべきだと考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業の衰退。陶器業の宣伝 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光型や体験型に切り替え「触れる、作る」で家族連れや若者を呼び込む。市内での宿泊は難しいため日帰りで観光ができるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地に土岐市PR拠点の設置 JR土岐市駅を降りて中心市街地周辺で観光PR及びお買い物のできる場所が無い。どんぶり会館、志野織部及び織部ヒルズ、テラスゲートのほか、駄知町、下石町などの窯元は、全て自家用車利用が前提である。美濃焼の土岐市をPRしているのに、美濃焼を中心とした観光案内PR等の拠点が中心市街地に無いのは非常に寂しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地に土岐市観光PR拠点及び物販スペースを設ける。中心市街地で完結するだけで無く、その拠点で市内の美濃焼を中心とした観光施設を紹介、誘導を行う。主にJR利用で土岐市を来訪した方を名所巡回のバス運行をするなど、市内の各施設と連携を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐プラズマ・リサーチパーク内の市有地を活用し、大型商業施設の来訪者を市内へ誘導。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最近では、土岐プレミアムアウトレット等で外国人観光客を見かけることも多くなってきたため、土岐プラズマ・リサーチパークにおいても外国語に対応したパンフレット、案内、スタッフの配備等を充実させるとよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐プレミアムアウトレット以外に観光できる場所が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前商店街の活性化、土岐市名物の開発、B級グルメ等の開発
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市といえばこれという観光の目玉が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設でなくても市のPRにつながるようなまちづくりや特産品といったものがあるとよい。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市に点在する既存の観光資源だけでは、対外的にPRするには不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレット周辺で今後新しい施設がつくられていくため、それらの施設とのより一層の連携と、新たな観光資源をうみ出し、時間をかけて土岐市の観光の魅力をつくりだしていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市は、交通アクセス的にはよい立地で、またアウトレットへは多くの方が足を運ぶ状況なので、潜在的にはかなりの観光客予備軍が存在していると思われる。なので、それらの人を土岐市内に呼び込むことができれば観光の振興に繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器を土岐市観光の目的の一つにする。個人経営の各陶磁器会社の間を行政や商工会議所、有力な陶磁器組合などが取り持ち団結し、土岐市の陶磁器業界として土岐市の陶磁器をPRする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市をよい多くの方に知ってもらうために、まずは足を運んでもらえる観光拠点施設のより良い整備が必要と考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光拠点施設の整備に伴った案内やイベントを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶器まつり、曾木公園のライ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 曾木公園は期間が短いですが、多くの人に来てもらっています。濃南地

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
トアップ以外思いつかない。イベントが少ない。または規模が小さい。	区は自然豊かで多くの土地があるため、紅葉の時期以外にも同様の規模で春に桜のライトアップがみられる公園をつくったり、夏にヒマワリ畑などを作ってもいいと思います。また小牧市の市民四季の杜は、特色のある公園作りにより、多くの入園者があり、東海地区でも人気の公園となっています。陶史の森も綺麗な芝生の広場があり、公園のベースはできていると思います。さらに看板や遊具やストレッチ等を考え、特色のある公園にすることで「公園、イベント等土岐市で遊ぶ→アウトレットで買い物をする→土岐市の街で食事を食べて帰る」といった土岐市で一日遊べる環境を整えることでより良い循環が生まれると思う。
● 特に県外の人から土岐市という町自体の認知度が低い。	● 最近ネットや SNS など若者を中心として見どころやおすすめの食べ物などの観光情報も広がっているので、まずは若者に興味を持ってもらえるような情報を市からも積極的に提供していく。
● 発信できる華のある観光地がない。	● 既存の観光地へ価値を付加するのは難しいと思いますので、新たな観光地を創設すると思います。
● 平成17年に開業した「土岐プレミアムアウトレット」は県内一の入込数を誇る施設となっており、平成27年4月には「テラスゲート土岐」も開業する。市内の施設に多くの入込客があることは良いことであるが、これらの施設から市内に人が降りて来て、買い物や食事をしてもらい市内の交流人口を増やすことが必要である。また、近年ウォーキングをする人が増え、ウォーキング用のコースの問い合わせも多くあるため、人が安心して歩けるウォーキングコースなどの整備も必要である。	● 市内の道の駅や各施設と土岐プレミアムアウトレットやテラスゲートと連携した取組を行う。割引クーポンなどの発行など。また、土岐プレミアムアウトレットやテラスゲート土岐をメイン会場として市内を回るイベントを開催する。歩きながら市内を巡ることができるような整備を行う。

10 農林業の振興

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● ①衰退している農業振興再起動。②自然豊かな里山の再現。	● ①JA、地元組合組織へ助成制度の見直し。給食センターに隣接した場所で、市直営による農産物提供所開設（安心安全をアピール）。地産地消、つくる喜び、提供する喜び。 ● ②既存施設周辺（陶史の森、活動センター、杉焼き池、曾木公園、三国山等）の徹底的な森林整備（除伐下草刈り等）による施設の再生と連携。
● 耕作放棄地の増加	● 課題は担い手不足に原因があります。この問題は、根本的解決が難しいのですが、農作物の出荷で販売等を行う農家においては様々な補助があります。土岐市にもそういった補助を活用し、農業を営んでいる方もみえます。そういった補助の周知を図ることで、農業に対するインセンティブの向上に繋がるのではないかと思います。また、この周知の方法について、現在は農事改良組合長（地元の農業に精通する方）に頼る面が多かったのですが、市のHP等も活用することで一層の周知効果が期待できるのではないかと思います。
● 手入れする後継者もおらずに今後ますます荒廃していく里山や農地の管理について	● 農林業のステータスを上げるための賃金確保また、放置された緑ではなく、間伐や手入れの行き届いた緑にするため、森林組合や地元自治会と積極的に連携していく。家畜を利用した雑草等の除去、また幼少期の情操教育にも活用し、家畜の世話は管理公社等のアルバイトで賄う。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 全国的に農林業人口の減少が進んでいると聞きます。土岐市においても南部を中心に山林が多くあり、同じ傾向にあるように思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 木質チップ発電施設を作りエネルギーを自前で賄い、その資源となる山林を循環的に管理していく自治体が TV で照会されていました。エネルギー対策と山林保全・農林業の雇用促進や関連事業につながる可能性を感じました。ただ、全国で施設が増えすぎていて需要に供給が追いつかず木質チップの不足・輸入・単価上昇も起きていて、持続可能なバランスの難しさも指摘されていました。

11 雇用環境の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 	<ul style="list-style-type: none"> ● 物理的条件や経済状況などは、自治体ではコントロールできません。私は、どうすれば地方の雇用環境を充実させることができるのか、具体的な考えを持ち合わせていません。各自治体で雇用対策の必要性が主張されていますが、それぞれどのような対策をしているのでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶磁器産業の衰退による雇用の受け皿の減少。 ● 学校を卒業した若者は職を求めて雇用のある都市部へ行ってしまふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ネット（Twitter やブログなど）を活用し陶磁器の魅力をアピールする。販路の拡大、技術開発やブランド戦略を行い他の産地との差別化をはかる。 ● 引き続き雇用の受け皿となる企業の誘致を行う。地価・立地・交通・自然環境など魅力的な点は多いと思うので積極的にアピールする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 06 陶磁器産業の振興に関わることだが、今の若者は名古屋や豊田の企業に就職しており、陶磁器産業に就職する者はあまりいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者に陶磁器に興味を持ってもらうような取組が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ● これからの若者世代にとって、都市部と比較すると魅力のある就業所が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力ある就業所を増やすため、企業誘致を積極的に行う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 企業、商業施設の誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新産業の育成の方が適切かもしれないが、土岐市は経済を支えてきた地場産業があるが、賃金が安く雇用面では充実していないため働く場を求め人口流失しています。高速道路網の充実により企業、商業施設の誘致が進んでいますが、土地はあっても保安林等で開発は厳しいと思われるが、限られた土地を活かし、さらに工業、商業施設等の誘致を推進し雇用を促進していく必要があります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 企業誘致が進み、雇用の増加は進んでいると思われるが、人口は減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てのため、働きたくても働けない世帯が多いと思われる。また、それが原因で子供を産めない世帯もまた多いと思われる。従って、子育て世帯が働きやすい環境の整備が必要である。たとえば、第2子以降の福祉の充実（保育料の減額）で経済的負担の軽減、保育時間延長等で時間的負担の軽減、日々雇用職員等にも公務員に準じた育児休暇等の制度導入など、産後の再就職支援も必要であると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 企業誘致で会社は増えてきていますが、地元の雇用が増えているかは疑問が残ります。また地元で働きたいという若者がいたときに、地元で働いているという実感のできない企業が地元にあってもそこを働き先として選ぶかということにだと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元で働きたいという人がどのくらいいるかをリサーチし、その人達がどんなことをしたくて地元で働きたいかを知り、通常企業誘致とは別に、地元のための誘致ができる環境を作れたら面白いのかと考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 近年土岐市の人口は年々減少してきているが、雇用環境の充実はその抑止策の一つであると言える。雇用を創出するのみならず、働く人々が働き 	<ul style="list-style-type: none"> ● まず雇用機会の拡充ということで、企業誘致を引き続き進めるなどが必要である。また、市内で働く人のサポートとなるような施策をしていくことも、単に雇用の場を提供すること以上に大切であると感じる。インフラの整備から保育、放課後教室の充実など、さまざまな面から働きやすく、住みやすいまちづくりを進めていく。土岐

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>やすい環境を整えていくことが重要である。</p>	<p>で仕事を見つけて東濃圏外などから引っ越してきてもらっても、住むのは多治見市、瑞浪市とならないように、土岐市民になることでの働きやすさ、魅力を打ち出していく必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 現役世代が雇用先を求めて市外へ流出してしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模商業施設のオープンが予定されている今をチャンスと捉え、商業施設の経営者と協力し、現役世代が市内に留まるような方策を練る。
<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用がなければ人口は流出し、ますます街は衰退します。雇用環境を充実させるためには、民間企業の誘致を積極的に進め、地元の人を採用していただく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の地域的利便性についてのPRを広くあらゆるメディアを通してPRする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用の充実です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用があるところに人は集まるので、地元でも働いてみたいと思うような企業があると人口増加にもつながると思います。企業誘致を進めた上で、たとえば固定資産税の大幅な減免や市内在住者を採用したら奨励金を出すなどの取り組みが必要だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用環境の充実こそ定住人口増の特効薬ではないか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用環境の充実を図るには、それ相応の受け皿が必要になってくるとともにその質も問われることになり、商業の振興をはじめ、新産業の育成にも力を注いでいくことになると思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用機会の確保及び給与水準の向上による若者の定住化促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 優良企業誘致による雇用機会の確保が重要課題と考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 仕事に就きたくてもつけない人がいたり、事情があって遠くで働けない人がいると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用環境を充実させるうえでも、企業誘致したり働きやすい環境を整える。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市の人口減少が問題となっていますが、雇用が増える事で人口も増える要因となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな企業誘致を行い、働ける場を設ける。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に雇用の場が多くできることで、新卒者などの市外への転出を防ぐことや、現役世代の市外からの転入が見込める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 近年土岐市への進出企業が増えていますが、土岐市を選んだ理由に、地震などの災害に強い地域であること、高速道路のインターが3つあり、物流において交通アクセスが優れていることが挙げられていると思います。今後もこの点を市外、県外にアピールしていくことが重要であると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内の雇用条件がよくなれば、若年者の流失は避けられない。人口減少を加速する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内の雇用条件をよくすることが難しければ、名古屋圏の勤務者が、土岐市に居住して通勤しよう、市内から転居しなくても通勤しようと思える制度があると良い。負担なく通勤できる支援。駅と駐車場が近い等。駅まで公共交通機関で通勤できる。(バスの本数は少なく、最終バスが早すぎる。) 子どもを駅近くで預けて通勤できる保育園等。健診で出会ったお母さんが、土岐市が好きだけど、育児終えたら働くためには名古屋に転居しますと話された言葉が忘れられません。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民所得が近隣市町村と比較して低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大手企業の中には特定分野の回帰ともあるが、海外に進出した企業も国内回帰に動きが見える。高速道路などアクセスの良さ、また災害の少ない立地を生かして引き続き企業誘致等により雇用を増やす。進出企業の税制等の優遇や地元雇用を条件とした優遇措置をとり、企業にもメリットを感じてもらおう。地元雇用でないなら、土岐に住んでもらうことで定住促進制度に類似した制度も良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能なまちづくりのためには、そのまちで働き生活を維持できることが必要である。そうでなければ市外に流出してしまう。人口を増やすのはなかなか難しいと思うが、少しでも減少スピードを 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定住人口を増やすためにはまず雇用の場が必要と思う。その後、子育てのしやすさ、生活のしやすさを向上させていき、街の魅力をアップさせていく。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
抑える必要がある。そのためには、働く世代に魅力のあるまちにしていく必要がある。	
● 自家用車がないと通勤できないところにある職場	● 公共交通機関、企業による通勤手段の確保とその連携による通勤しやすい職場
● 若い人が働きたいと思う働き場が不足していると思います。名古屋の事業所レベルとまではいかなくてもある程度の給与が得られる働き口が増えないと、給与が低い事業所がいくらあっても市外への流出は防げないと思います。	● 土岐市くらいの規模で高速道路のインターが3つもある市はなかなかないと思うので、インターを中心として、製造業の誘致がもっと進めばよいと思います。アウトレットなど小売業は製造業に比べると勤続年数も短く給与も低くなりがちで若者の定住にはつながりにくい働き口だと思うので、製造業などが物流の利点を生かして増えて欲しいです。
● 若い世代や、女性が働きやすい環境を整える。	●
● 若い労働力が市外へ流出し、生活基盤も市外へと移りつつある。就職先として大型店舗等も考えられるが、アウトレットのようにアルバイトやパートタイムが増えそう。	● 土岐市に定着して働いてもらえる魅力ある職場の創出や確保が必要。
● 若者が土岐市で暮らし、働ける街づくり	● 回答1と重なるが、土岐市への企業誘致、その企業に積極的に土岐市の若者を雇用してもらおう。育児がしやすい環境整備、移住に係る補助等を行い、積極的にアピールする。
● 若者が流出しない魅力ある働き場所	●
● 若年層の市外への流出が跡をたたない。	● イオンモールの進出が決定したが、雇用と集客を担う企業の誘致に今後も力を入れていくべき。
● 住民の定住を図るためには、働く場所の確保が重要であるため新規企業の進出などを一層支援する。雇用につながるNPOや法人などの設立を支援する。	● 瑞浪市の農業法人のように午前中は社会人野球大会出場を目指した活動(練習)をして午後農業に従事する団体を組織するなどの事例を参考に、地場産業を利用して雇用環境を創り出す。
● 商業施設建設、企業誘致などで、土岐市で働く場の減少が抑えられていると感じていますが、非正規雇用者は増えているように思えます。(実態はよく分かりませんので間違っていたらすみません)	● 産業振興課の奨励金制度などをよりPRし、先端技術を開発した企業や特許などを取得した企業に対して奨励制度等を設ける。(官民学連携のサポートなど)特定分野に強みを持っている企業集積が図れば、安い労働力競争を少しは避けられるような気がします。
● 将来の高齢化に向け若者が住むための条件のうち最も重要であるから。	● 安定した雇用の確保
● 新規参入の企業があるが、土岐市内在住の人の雇用をもっと充実させてほしい。	● 求人情報等を市のホームページにも掲載する(リンクをはるでも可)とよいのではないか。
● 人口が減少していく中、如何に土岐市に定住してもらい、就労してもらうか。	● 優良企業の誘致
● 人口減少の歯止めとしては雇用環境の拡充は地域の最大の魅力であり不可欠である。	● 土岐市のHPから市内雇用の就職情報を提供する。又は支援する。
● 人口減少。	● 企業誘致が進んでも、土岐市に住んでももらえないと効果が薄いので

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
	で、他市町村にはない、魅力を作り、そうすることで結果として市の税収にも貢献していただける。
● 人口減少を抑える。	● 新産業、商業の発展に伴い、地元就労者の増加を図る。
● 人口減少を抑えることが必要。その為には、魅力ある街づくりが必要となるが、まずは若年層が働ける環境を整備することが急務と考える。若年層を取り入れることで、家族が増え、街が活性化することとなり、商業面の発展に繋がると考える。	● 企業の雇用に関する窓口などを設け、社員募集や企業情報などを広く公開する。また、企業誘致をするうえで手続きなどの省略、税法上の優遇などを行い、より進出しやすい環境作りを行う。
● 人口減少対策（雇用・産業の充実）	● 企業誘致や新産業の育成を行い、雇用環境を整備・充実させる。
● 生活困窮者に対する雇用環境の整備 生活保護やその申請を検討するような段階に至ってしまった世帯の就職、再就職がしやすいような環境を整備し、市内の就労可能年代における就労率を高める。	● 単身世帯の無職の者や、世帯構成員全員無職といった世帯のうちの一人を正社員として採用し、一定期間継続した場合に、その期間に支給した給料の一部を支援してはどうでしょうか。
● 積極的な企業誘致	● 雇用の場が生まれれば、それほど単純にいくとは思えないが、人口が増え、社会資本が整備されていくことにつながると思う。
● 積極的に企業誘致し雇用の確保をしているが人口は減少している。	● 大型商業施設が今後開業していくため雇用が期待できるが、就業者が市内に定住したいと思えるような魅力があるまち作りが必要。（駅前環境整備、陶磁器産業の活性化等）
● 他市や県外に出て行ってしまったり、雇用条件が合わずに職のない人もいる。	● 工業団地に、大企業の工場を誘致できるよう積極的に企業に働きかける。土岐市に優秀な人材を採用して誘致活動をする。
● 多治見より先んじて企業誘致に努め、工業団地の造成に取り組んできたとは思いますが、市外に就業する人は多い。派遣やパートなどの非正規雇用が多く、日本全体で十分な雇用環境にないと思う。単に生産現場や店舗といった分野だけでなく、より高度な分野での産業集積が所得水準を上げ、市の税収増や町のブランド化や魅力や活性化につなげて行く必要がある	● 交通の利便性や強固な地盤だけでなく、企業が必要とする人材を確保しやすいという観点で教育・就労支援機関の創設（コミュニティカレッジ的な）などを行う。
● 地元で働く住民が少なくなっているのではないかと感じる。また、それに伴い人口増も伸び悩んでいると感じる。人口増がなければ今後は市全体が衰退していく方向となり住む魅力も薄れていくと危惧する。	● 地元での雇用対策は非常に難しい課題であると感じますが、具体的なアイデアも難しいです。しかし大型商業店舗や王手企業誘致で改善されてくると感じています。
● 地元で働く場所がまだまだ少なく、雇用機会を求めて都市部へ人が流れてしまう。	● 企業誘致を行うことはもちろん、これから土岐市で起業する人を増やすため補助金を出したり、事務所を設立する場所を斡旋するなど地元での企業活動を応援し、雇用機会を創出する。
● 定住促進の前提として、若者	●

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
が魅力を持てる働く場所の確保が必要。(特に正規職員として)	
● 土岐市からの人口流出を防ぐためには、やはり土岐市に働く場所がないといけない。	● 企業の誘致などで雇用を増やす。 ● 保育施設等の充実をはかり、子どもを持つ女性が働きやすい環境を整える
● 土岐市でも人口減少・高齢化が進む中、土岐市に住む若者労働者の市外流出を防ぐため、好条件の雇用環境を確保する必要があると考える。	● 企業誘致による雇用環境の創出に加え、新卒等の若者を採用する企業に対して、市独自の優遇措置等を制定する。
● 土岐市には陶磁器産業があるが、全盛期と比べても衰退しており、雇用も減少している。また、名古屋等の市外に就職する方が多く、土岐市内で就職する魅力がないように思われる。	● 今後も積極的に企業誘致を行い、地元の雇用を充実させる。また、商業施設の誘致も行い、そこでも雇用を増やす。雇用が増えれば土岐市に住む人が増えるので、マンション建設にも力を入れる。
● 土岐市に若年層が定着するような雇用環境の整備が必要。	● 土岐市には、正規雇用で働ける場所が、一時に比べかなり減少していると思われる。非正規雇用を受け付けてくれる職場は若干ではあるが増加していると思われるが、若い世代が就職するにはまだまだ受け口が少ないように感じる。企業誘致等によって改善はしていると思われるが、まだまだ土岐市民以外の方が就職しているのではないかと。土岐市に住んで土岐市内で働ける職場への支援を増やす方を立案すべき。
● 土岐市に住んでもらえるためには家から通勤できる職場が必要	● 企業に進出して来ていただける工業団地等インフラ整備
● 土岐市に多くの人が働きに来て活気のある街に	● 多くの企業の誘致を進め、土岐市での雇用の拡大を図る
● 土岐市内での雇用環境を充実させることにより、若年層の人口流出を食い止め、逆に人口の呼び込みに繋げる。	● 土岐市の新産業を育成することができれば、土岐市内に大きな雇用が生まれる。 ● Uターン、Iターン就職希望者への支援
● 陶磁器以外の時代に合った新しい、土岐市に合った産業を誘致する模索が必要である。	● 高速道路へのアクセスの良さを利用した産業の誘致(多治見市のアマゾンなど)
● 特に若年層が地元に住み続けることができるための雇用環境の充実。子育てのしやすい雇用環境の整備。	● 若年層が地元に住み続けることができる環境づくりという意味での雇用環境充実が必要。市内における雇用環境充実、産業の高度複合化のための新たな企業誘致用地の確保策を講じる。場合によっては隣接市にまたがるエリアにおける調査や用地取得などを行う。
● 美濃焼業界は所得水準が低いと言われている。	● 土岐市(周辺市も含む)に誘致した企業も地元からの雇用を期待しているため、うまく誘導できるような施策あるいは情報提供があるとよい。
● 優良企業の誘致	● 工場適地の調査やオーダーメイド型団地造成を通して、優良企業の誘致を図り、市の魅力を高めることで若者の定住化を図る
● 臨時職員が多い	● 頑張っている臨時職員には、正規雇用の採用を認める。

12 社会教育の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 核家族に対するサポートの必要性：今日核家族の世帯が増えており、周囲に手を借りる	● 核家族の世帯が相談できるような窓口や集まりを設ける。子育て・仕事が終わりセカンドキャリアをスタートさせている高齢者の方等を相談員としてお願いし、サポートが受けられるようにする。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>ことができる人がいない、問題が発生した時に相談しやすい人がいないという事態が発生していると考えられる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 共働きの親が増え、子どもとかかわる時間が減少する中で、増々家庭教育が重要性を増してくる。子育ての方法や躰、コミュニケーションの方法など、保護者の学びと交流が必要となる。しかし、働く保護者ほど研修の場に参加できる機会も限られ、一部の保護者の学びとなってしまう傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育学級などの機会を通して、学びと交流の大切さを伝えると共に、内容の充実を図っていく必要がある。また、開催方法や時間等も工夫していく必要がある。授業参観と一緒に研修会を企画するなど、必ず保護者が参加する機会を生かす必要がある。また、実施したことを全ての保護者に通信などを通して伝えるなど、在宅型の家庭教育の推進も図っていく必要がある。「子育ては、親育ち」の考えのもと、親を育てていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ● 言うことを聞かない子供に対する暴力（児童虐待）や育児放棄した身勝手な親のニュースを見る度に家庭教育の重要性を感じる。子どもが子どもを育てる状況となつては、しっかりと子どもが育たない。ひいては、貧困の連鎖すら危惧される。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子連れで行けるおしゃれなカフェ（若者が集まる場所）をNPO等の協力を得てつくり、それに併設するかたちで高齢者が集えるカフェ（サロン）を設ける。お互いの交流が図れるよう高齢者が昔の遊びを教える等の講座を実施することで、祖父母の年代にあたる高齢者から昔の話や体験談を聞くことで、子育てしている親の教育をし、家庭の教育力を向上させる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの中に個性が非常に強い子どもが増えてきている。その保護者もやはり強い個性を持っている場合が多い。社会教育面での家庭教育や成人教育において子どももさることながら大人の意識改革を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育学級やPTA、職場で学ぶ家庭教育理解講座、その他各種講座・事業などを通じて継続して啓蒙を図ることが重要である。
<ul style="list-style-type: none"> ● 若者にもっと地域への興味を持ってもらえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会教育というか、他市と比べて土岐市はどんな状況かというようなことを、統計を用いながら学ぶような授業を中学校くらいで行い、若者に市への意識を向けてもらうような取組みを行うことで、市をより良くしようと思ってくれる若者を育てたら、将来への可能性が広がるのではないかと。一時的な授業ではなくて、中学校3年間をかけて少しずつ授業や発表を行うような。ある程度自分で（若しくはグループで）調べたい分野を決めて、研究を行うような形。そして市内の高校生には、市政のさわりに参加できるような（広報ときを一緒に作ったり、図書館のボランティアを推奨したり等）ことを、学校と協力してできないかと。
<ul style="list-style-type: none"> ● 将来の土岐市を担う子どもたちが地域社会で活躍できる素地をつくるための教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが地域で活動する機会を設け、その活動を評価し表彰する仕組みなど。
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子化や核家族化、情報化等の経済社会の変化、地域における地縁的なつながりの希薄化などにより、地域や家庭における教育力が低下している。人権に対する正しい理解と認識が十分されないため、人権侵害も発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校の施設などを老人クラブ、社会教育団体などに提供し、子どもが自然に地域住民と接する機会を増やす。
<ul style="list-style-type: none"> ● 人間力（社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていく 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校教育では限界があるので、家庭教育の中で人間力を養う。 ● 保護者を対象とした講演会、スキルアップ講座などを開催。 ● 楽しく学べる環境を整備する。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
ための総合的な力) が低下している。	
● 地域社会全体で子どもの健全育成を図っていく	● 放課後教室等で、習い事（たとえば、体操教室や習字教室、音楽教室や作品作り、実験など）が出来るようにする。多少、月謝を払ってでもよいので、放課後の時間を有効に活用したいと思っている保護者は多いと思う。講師は、ボランティアだけでなく、その道を退職された高齢者の方をお願いすることで、その方の生きがいがづくりや介護予防にもつながるのではないのでしょうか。地域の人との関わりで子どもも学ぶ機会になると思う。
● 放課後学級の充実。共働きの習い事をさせたいが、放課後学級に預けるしかできない。預けるのなら、ただ遊ばせるだけでなく、小学生のうちからいろいろな体験をさせたい。	● 様々なニーズ、予算に合わせて年度毎にいくつかの習い事を提供する。専門の講師を確保する。個人的には絵画、新体操や、囲碁、将棋、そろばん、英会話などの教室が魅力的です。

13 学校教育の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員の質の向上 ● 心の教育の強化(いじめ対策) ● カリキュラムの再考 ● 心理面（児童生徒、教職員共に）のケアの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員、児童生徒に対し、専門家による「道徳教育」を徹底。教職員のモラルや児童生徒の心に働きかける必要性を感じます。また、教職員の研修回数を増やし質を向上させることや、これまで以上にスクールカウンセラー、要支援児童生徒サポート支援員を充実させることも、快適な学校生活を送る上で（教職員、児童生徒共に）不可欠であると感じます。財政上困難かとは思いますが、教職員の増員も、教職員の質の向上や学校教育の充実に繋がると思われます。
● 子どもたちの健やかな成長が、土岐市の未来を創ると考えます。	● 充実した教育環境を整えるための予算をお願いしたい。また、幼少期の育ちが後の育ちに少なからず影響します。保育園・幼稚園の職員待遇の改善もぜひお願いしたい。
● いわゆる学級崩壊やいじめなど、小中学校の学校運営に様々な問題が顕在化し、教育に熱心な親の公立学校離れが進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ● ①土曜日授業による、時間的・精神的なゆとり。 ● ②強化科目、強化スポーツなどによる学校の特色化＝魅力ある学校づくりを進める。
● この先少子高齢化が進み、労働人口の減少が心配される。有能な人材の流出を防ぐ意味においても、学校教育において土岐市の魅力を認識してもらい、土岐市への郷土愛が育つような取り組みが必要と考える。	● 土岐市内の小中学校における学校教育の一環で、里山遊びをしながら特有の生態系を学んだり、山菜や木の実などを採取、調理、試食するなどの体験を通して郷土愛を育む。
● 学級担任の多忙化	● 小中学校の35人学級を全ての学年で実施する。そのための予算をつける。
● 学校の中心は校長であるが、その異動が2年程度のサイクルになっている。二年では何もできない。また、保育園・幼稚園の園長や職員の異動も早すぎる。また、保育園・幼稚園での職員も半分以上が日々雇用職員であり、教育に対する意識の低さが気になる。費用対効果や成果主義ではできない教育だけに、目に	● 土岐市在住、在勤の校長の同一校勤務年数を延ばす。5年程度保育園・幼稚園の園長は一般行政職と違い地域の保護者や住民との人間関係の構築が教育に及ぼす影響も大きい。時間と人間関係づくりが重要であることを理解し、3年程度は同一園勤務が必要である。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
見えない部分が多いこともわかるが、これからの土岐市をせおっていく人材の育成が土岐市を成長させると思う。	
● 学校教育の充実として、次代を担う子どもたちの健やかなところを育む教育のあり方と専門職員の充実。	● 臨床心理士などの専門職員やピアカウンセラーなどの身近な相談相手など、子どもの状況に合わせたところの問題の解決や、こころを育む教育が出来るとよい。
● 学校教育の充実に関する市民満足度（現状 15.2%）をどうすれば高められるかを検討していくべき。学校教育が充実している街には、若い世代の人々が集まり、人口増加、街の活性化につながると思う。	● 満足度調査のアンケートを適宜実施し、どういった点が不満で、どういった点が満足なのか、市民の意見を集め、その意見に沿って学校教育を変革していくべきではないか。また、親へのアンケートだけでなく、生徒へのアンケートも重要視すべきだと思う。
● 学校教育は次世代を担う人材を育成するという大変重要な役割を担っているが、子どもを取巻く環境は、親の所得格差から生じる教育格差、親による子の虐待、不登校、いじめ、子どもが被害者や加害者となる犯罪の増加等、難題に溢れている。多様な課題は地域全体で解決へ導き、社会を生き抜く強い子どもを健全に育てる必要があるが、その中核として学校教育の果たす責務は大きい。優れた学校教育を提供することは、未来社会への投資であり、また、充実した学校教育のあるまちには、子育て世代が集まってくることも期待できる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員の能力向上等、育成 ● 自治会や専門機関等、地域社会との連携強化 ● コミュニティスクールの実践 ● 問題のある家庭環境（虐待、貧困等）への適正対応 ● 土曜日の有効活用 ● 道徳教育の充実 ● 不登校児への多様な対応、カウンセリングの充実やフリースクールの活用等 ● ICT教育の活用 ● 優れた子どもの才能を伸ばす個別対応教育の強化 ● 先進の教育現場の視察、先進事例の検討と実践
● 学校終了後の学童保育制度の実施。	● 学校の空き教室、体育館の2階等市の施設を現状のとおり利用するが、運営を民間NPO等に委託し事業主体を直営から移行させる。利用料金についても各会場で決定させ施設規模の違いにより定員も規模に合わせたものとする。保育を重視することから親の就労等を利用条件とし現状の月3,000円から値上げし、時間帯も7:30～19:00程度とし子育て世帯に利用しやすい時間とする。
● 環境の改善	● 施設の改修
● 諺にもあるように、子どもの頃に学んだことや体験したことは、大人になっても忘れることなくいつも心にあるものだと思います。郷土愛を育てることで、学生時にいったん市外に出ても、戻ってきてくれたり、地域活動に自然と参加するようになるのではないのでしょうか。	● 総合学習で授業の一環として、地域活動に参加する。（職場体験の地域活動版）
● 施設設備の充実を図るべきである。老朽化に伴う施設設備の充実を図る。また、人的環境を市が独自の方法で整えるべきと考える。	● 学校によって設備の格差があり平等でないために計画的に充実していく。また、職員の時間外勤務があり、人的に配置を多くすることが負担軽減につながる。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 次世代を担う子どもを教育することは重要。	●
● 将来を担う子ども達に対して、良い環境（物的・人的）で教育が受けられるようにする。	● 学校教育に関わらず、乳児期・幼児期から住みやすい土岐市の環境づくりが必要。
● 土岐市を豊かにするには、土岐市を担う次世代を育てなければならない。	● 学校教育を含め様々な手法により、土岐市の良さを次世代に伝える。保育、幼少教育、小中学校教育といった、「点」で教育するのではなく、子育てから自立まで一貫した方針に基づき教育を実施する。また、土岐市には大学等が無いので、土岐市出身の大学生から色んな意見を聴取しながら、土岐市にフィードバックさせる。
● 附属幼稚園全てにおいて、未満児及び3～5歳児を確保できる体制の整備。	● 例えば土岐津町の附属幼稚園は5歳児の受け入れ体制しか整っておらず、土岐津町内保育園との癒着から脱却できない状況にあるため、4歳・5歳児の入園希望者が他町の附属幼稚園に流れてしまい、他町附属幼稚園の入園希望者があふれ抽選になるなど、悪循環に陥っている。土岐津小学校附属幼稚園の3～5歳児すべてを受け入れられる体制を整備する。
● 明日の土岐市を担う青少年の育成は非常に大切である。何時までも、自分が育った土岐市に愛着と誇りを持ってくれる子どもや国際化に対応できる子どもの育成が必要である。	● 人口減少と少子化が非常に問題となり、日本創生会議によれば、全国の実に896自治体が消滅可能性都市と指摘された。土岐市は辛うじてその指摘は免れたが、同様の傾向であることは言うまでもない。これは、単に子どもの数が少なくなってきたことだけでなく、就職や進学のため高校等を卒業した子どもたちが土岐市を離れ、都会等に行ってしまうことによる要因が大きい。このため、ふるさと土岐市に対する学校教育や地域教育を実施し、土岐市に愛着や誇りを持ってくれる子どもの育成が必要である。また、岐阜市では、英語教育を小学1年生から始められるという新聞報道等があった。今後ますます国際化が進展していくと思われるため、英語教育の充実等、国際化に対応できる子どもの育成が必要と考える。
● 幼稚園教育に対する支援体制の充実	● 子育て支援課、教育委員会の幼稚園への支援体制の見直し障がい児受け入れについて規定の明確化と体制整備、正規職員の増員

14 生涯学習の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 各施設の協働	● 横断的なイベントの開催、積極的な人事交流
● 各種教室は開催されていても、日中就労している人が継続的に学べるような教室がない。	● 平日夜間等、仕事帰りに寄れるような教室を開催。就労している人でも負担なく通える場所・時間で開催してもらいたい。
● 高齢化社会を向かえ、益々高齢化率が伸長し、多くの高齢者が生涯教育に関心を持つようになっている状況の中で、専門的な知識を持った公民館主事が必要になってきている。	● 予算の関係もあると思いますが、昔のように、公民館主事を市職員に戻したり、それが困難ならば、嘱託職員の更なる充実のために、研修の実施や採用時の条件を設けたらどうか。
● 高齢人口の増加に伴い、健康寿命をのばし、生涯に亘って社会参画できる環境と、人材の活用が必要と考えるため。	●
● 子育て中の親の学びを支援する施策の展開	● 事業所等との連携による啓発活動を工夫する。（仕事をしながら活動に参加できるような仕組みを工夫する。例えば社員を参加させる事業所に対して何らかの補助や特典を与える。活動や内容もワークショップ形式にする等、主体的に取り組めるものにする。とにかく予算を付けてでも事業所を巻き込むようにする。）

15 スポーツの振興

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツを行う機会が少ない人が多い点。 	<ul style="list-style-type: none"> ● より多くの人にスポーツをすることの面白さや楽しさを感じてもらうために、スポーツに参加や見学できる機会を作る。
<ul style="list-style-type: none"> ● 健康で文化的な生活をおくるためにスポーツをすることは望ましい。また、町内スポーツ行事により近年希薄化している地域コミュニティの形成の一助となる。スポーツが活発に行われることにより地域が活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内のスポーツ行事が活発に行われるよう、体育協会と連携しサポートする。県域・全国規模の大会を積極的に誘致して、地域の活性化と選手の向上を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ● 健康志向が高まる中、ランニングする人口は増えているが市民の方が安全にランニングするコースがないので整備出来ると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもがスポーツをする機会が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域にすでにあるスポーツ団体を活用し、体験会を開催する。 団体に対して、金銭的、人的（講師等）な助成をする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市を挙げた生涯スポーツの推進現在、市民総体、土岐市一周駅伝などの行事が行われているが、土岐市と言えば“○○が盛ん”、“○○の街”として、若者からお年寄りまでが生涯スポーツとして行っているものが無いことから、市を挙げて生涯スポーツの振興が課題である。しいては、地域振興のきっかけになると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者からお年寄りまでが一緒にできる種目を選定し、市の生涯スポーツとして認定する。指導者の育成、大会の開催、将来は全国大会を誘致する。あくまで案として、中学校で必修となっている剣道（武道）を単に中学の授業だけでは勿体ない。また、中学での指導体制が充分であるといえない。そこで、地域の力を借り、市剣道連盟の他市内にいる剣道有段者が中学校のほか小学校においても剣道の指導を依頼し、地域の絆、地域振興につなげていく。剣道は生涯剣道と言いつ子どもからお年寄りまででき、武道を通じた若者の育成ができる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内にあるサイクリングロードを、もっと有効活用することはできないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国的な自転車ブームが始まって、久しくなりますが、その勢いは衰えるどころか増えています。そんな自転車のレースには、全国から参加者がたくさん集まります。これを利用して、土岐市に集客をはかることが可能です。レースではなく、従来のサイクリングロードを生かしたコースで景色などを楽しみながら回ってもらう「土岐ポタリングフェスティバル」など、気軽にいろんな層の人々が集える、「土岐市」を知ってもらう事業を展開してみると、効果が上がると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民体育館の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4つある市民体育館のうち、3つが老朽化している。3つ閉館して総合体育館を建設する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 住民間の関係の充実。活気のあるまちづくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツフェスティバルなどを積極的に開催し、一部の人間だけでなく、すべての住民が参加するような環境をつくる。近所間の関係が薄れていく世の中、町内で協力して物事に取り組むようなことをより増やしていくことが、市全体の活気づくり、防犯にもなっていくと思います。

16 文化・芸術の振興

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 市役所職員による美濃焼に関する歴史の再確認。美濃焼を地場産業として成長してきた土岐市であるが、その魅力、 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員採用試験に土岐市の美濃焼に関する設問を作成し独自の問題を作成する。採用後も定期的に研修を継続。美濃焼検定等独自に実施。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
技法等の問い合わせについて業務に携わった職員しか対応できない。土岐市をPRするのに職員全体に基礎的知識の取得が必要。	
● 質の高い文化芸術を提供することや、参加型の文化事業を活性化させれば、高齢者の生きがい、健康増進、地域のつながりが強くなると思われるため。	●
● 全市民の日常的な文化生活的向上	● 親学が絶対に必要である。親が学ぶ姿がなければ子どもも学ばないからです。いかにして親が学び続けることができるか。企業研修との連携、家庭教育学級との連携など、30-40歳代の親がもっと学ぶ工夫を敷くみたい。良い方法はまだ見つからない。
● 文化・芸術のさらなる振興のためには、その拠点として文化プラザ施設の充実が不可欠である。	● 文化プラザをより充実させる一番の方法は、市庁舎を別の場所への移転が必要で、それにより市庁舎としての使用が減ることで、今は制限されている平日においても文化・芸術関係の催事を大幅に増やすことができる。また、市庁舎の移転は、移転先においても関連企業・店舗などの賑いを創出する可能性が高く、活性化をもたらすのではないかと。
● 文化・芸術の振興を図る。	● 市民音楽祭の観客が年々少なくなり、さみしさを感じています。幼児期より文化に触れる機会を増やしていくことも大事かと。文化プラザの催し物を、親子で幼児・児童が楽しめる内容をもっと増やしてもいいのでは。
● 文化に対する意識の高まりを感じない。中央公民館（文化プラザ）を中心に、各地区の公民館がその中心的役割を果たしているが、ソフト面において、毎年同じ企画で新鮮さが無い。	● 各地区の公民館主事が人件費削減のため非常勤となっているが、文化を大事にしない典型である。目の前の経費のみにこだわることなく、豊かな人造り、町造りには文化・芸術が最も大事なことであろう。専門職の公民館主事の配置を望みたい。

17 保健の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 安心して出産し子育てができる環境を整える（土岐市で子育てをしたいと思える環境をつくる）	● 任意接種『おたふくかぜ』『B型肝炎』『ロタウイルス』等についても接種費用の一部補助を行う。定員を設けない、又は日程が選択できる7か月教室や1歳児教室を開催し、もっと気軽に身体測定や歯の手入れ方法、食事に関する学習等に参加できる機会を増やす。
● 医療費の抑制のためにも保険の充実が重要だと考えます。	● インフルエンザワクチン接種の一部公費負担対象者の拡大
● 健康づくりや生活習慣病の予防、介護予防、スポーツ振興	● 皇居のまわりを走る人や名古屋ウイメンズマラソン、東京マラソンなど、健康維持やスポーツを楽しむためにマラソン、ランニングをする人口が増えています。土岐市には、土岐川の堤防道（消防署から19号まで）があります。そこに街灯や走った距離がわかるものの設置、セラトピアの駐車場の開放、ストレッチできる場所の提供等により、ランニング、ウォーキング、サイクリングロードに整備し、健康目的で運動している市民をサポートする。また、運動することで、健康増進・病気予防（＝社会保障費の削減）になるので、税や保険面で優遇するなど、運動する動機付けも行う。運動することで、税の優遇等を受けられるのであれば、土岐市へ移住を検討するものが現れる可能性もある。上記の整備に好評がえられれば、土岐市には他にも魅力的なコース（駄知の窯元をめぐるようなコース、バーデンパーク曾木周辺のコース等）があるので、市民から公募し、優秀なものを整備する。さらに、整備したコースを利用して、

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 健康寿命を延ばす取り組み 	<p>マラソン大会などのイベントを企画し、PR する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全市的健康づくりへの取り組みを強化する ● 本市では健康づくり教室や食生活改善講習会などを実施しているが、全市的な取り組みとは言い難い。健康寿命を延ばすには、運動と食事が重要な要素となるが、個々が健康寿命への課題を見つけルなどの動機づけ、町内会をとおして健康づくり運動の普及、また、健康運動実施指導者の養成などの取り組み実施する必要がある。 ● 健康づくりを推進するには個人への支援だけでなく個人を取り巻く様々な社会環境への働きかけが重要になってくる。地域・家庭・職場・組織を取り組んだ取り組みが必要とある。 ● 測定機器を使ってグラフ化、スコア付け表示などの見える化を図る
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の健康増進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 我々の仕事でも救急搬送に占める65歳以上の高齢者の割合が圧倒的に多く件数も年々増加の推移をたどっています。そのような観点から高齢者の健康増進意識を高め、高齢者が健康で元気になる取組を図る。元々そのような意識のある高齢者は自分なりに各々の方法で健康増進を図っていると思うが、市で取り組めることがあればと思います。担当所管では既に健康教室等に取り組むをしてみえますが、音楽に合わせた土岐市独自の健康体操の開発及びビデオ等の配布などはどうでしょうか。単発になるので、それを継続的にまた、若い方へも理解してもらえよう、小中学校で児童、生徒に教えることで、祖父母にも伝わるのではないかと。市内の事業所に配布して、朝の始業体操に取り入れを勧める等、定期にまた、継続して実践できると良いのではないのでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 心身ともに健康でなくては健全な生活を送ることはできないので、健診の実施も今後力を入れていくことも重要だが、心のケアも併せて実施していくべきだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分がどのような状況であるかを把握できていない人やどうしたらいいかわからない人にアドバイスをしてくれる窓口や場合によっては専門医（病院の充実にも関わる部分）の紹介をするなど法律相談のような専門的な知識を持った人に指示してもらえるような機会を作る。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市においても高齢化が進んでいるが、今後10年でさらにその比率は高くなることは確実である。介護施設などのキャパシティも現状ですでにオーバーしており、今後要介護者を減らす努力をしていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 寝たきりになる前の高齢者に対する運動の習慣づけなどのため、継続的なウォーキングや軽運動系のサークル活動などの支援や、そうした仲間作りの機会提供を行う。

18 病院の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在総合病院に、胃腸などの検査を受けられる科が無くなったと聞いています。市内で検査を受けられないのでは、安心して土岐市に住むことも出来なくなります。産科も同じです。人口を増やそうと思ったら、まず医療の充実が大切ではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合病院でなくてもよいので、まず1つは産婦人科を土岐市内に誘致し、安心して診察・出産が出来るようにする。・地域の病院でも良いので、胃腸などの検査がきちんと行ってもらえる病院を作っていく。でも、やはり総合病院を充実させていくのが、土岐市にとっては大切だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 婦人科（特に産婦人科）が市内になく、出産は必ず市外でなくてはならない現状がある・総合病院は専門医不足により実質総合病院として機能していない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合病院内の産婦人科で出産可能とすることが必要・総合病院は医師の増員及び民間委託等も視野に入れ検討が必要

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 安心して子供が産める土岐市に。	● 産科医の確保
● 安心して出産し子育てができる環境を整える（土岐市で子育てをしたいと思える環境をつくる）	● 総合病院だけでは負担できない出産について、産婦人科医の確保を目指すだけでなく、市内に産産や不妊治療のできる産婦人科医院等の誘致を積極的に行う。開業してもらえる医院には土岐市定住促進奨励金のような補助金を出せるようにして公募する。
● 医師・看護師等、職員不足によるサービス及び質の低下	● 多治見市民病院のような指定管理者制度の活用により、総合病院としての機能充実を図ることで市民が安心して暮らせる街づくりになるのではないのでしょうか。
● 医師および診療科の確保	● 不足している呼吸器、循環器、整形外科等の医師増のために独法化、全部適用、指定管理などの経営形態の変更や給与等の待遇強化による医師確保に取り組む。
● 医師の確保	● 経験豊富な医師が良い。患者に寄り添って心から対応してくれる医師が一人でもいれば回りも良い影響を受ける。質の向上に繋がる。
● 医師の不足・看護師の不足のためか診療科の廃止、縮小などサービスの低下に繋がり、それをカバーするために職員にかかる負担の増加が離職に繋がり、さらに状況が悪化している事が続いているように思われる。病院のあり方について、抜本的な見直しが必要ではないか。	● 紹介状のある患者のみの受け入れ、地域に不足している診療科に重点を置いてはどうか。市内の医院で対応できる診療科は縮小してはどうか。
● 医師を不足。	● 医師を増やす。
● 医師確保及び老朽化に伴う施設の大規模改修	● 医局による医師派遣だけでなく、あらゆる方面からの医師確保（例：人材紹介会社を活用等）を積極的に行う。
● 医師不足	● 指定管理を導入
● 医師不足	●
● 医師不足、市内に産科がないことについて。	● 市独自の奨学金制度。小中高生からの意識改革をすべく病院の見学、先生による講演、講義等。
● 医師不足により総合病院の責務が果たせていない。	● 土岐市内及び近隣市には、個人医院、2次病院、3次病院があり東濃西部圏域で見た場合、医療環境は充実しているため、土岐市立総合病院にあっては診療科の絞り込みを行い、脳外科の強化といった得意分野をつくり、東濃西部圏域全体で協力し役割を担っていく体制を構築する。
● 医師不足による患者数の減少が収益の減少に繋がっており、医師確保が最重要課題ではあるが、これは施策として行政が取り組める課題ではないため、受入体制を確保するなど医師の処遇を手厚くしたり、施設の整備、患者サービスの向上を推進していく。	● 現況のままでは、経営の改善が見込まれないため、各市に1つずつの総合病院を持つのではなく、東濃圏域を考え診療科の分配及び適正な規模への縮小を踏まえた抜本的な見直しを検討すると共に、現在病院が置かれている状況を病院職員が理解する必要がある。
● 医師不足による救急医療確保問題、及び2次医療機関機能の低下	● 広域医療連携による医療確保
● 医師不足による救急搬送時の傷病者及び来院者の受け入れ体制。当番病院であっても受け入れできないとの返答により救急搬送患者を受け入れていただけないケースが多くなり	● 今後も総合病院として運営していくのであれば総合病院としてふさわしい医療体制作り。また民営化も視野にいたした医療体制作り。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
られる。	
● 医師不足を解消し、総合病院としての機能を確保する。	● 医師不足の解消方法は難しい点が多いと思うが、地場産業が原因で患者の多い呼吸器系や循環器系の医師を早急に確保し、市民の要求に応える必要がある。
● 医師不足市内で出産できないこと	● 医師確保
● 医師不足総合病院なのに診察できる科がすくない。	● 総合病院なのだから、すべての科を診察できるようにしてほしい。病院は地域にとって必要であり、しっかりしていなければならない。コストがかかっても医者は必要だと思う。特に高齢者は整形外科や循環器は必要であり、常駐の医師が必要だと思う。
● 医師不足特に産婦人科の消滅により、土岐市で子どもを産むことができないことが、定住につながらない。また、高齢者が増加する中、他市の病院への受診者が増加している現実から、土岐市総合病院の充実が早急に望まれる。	● 医師が総合病院に勤務しない原因は多義にわたるとは思うが、医師への待遇の改善が効果的であろう。はっきり言って、給料大幅アップしかないと思われる。その他、総合病院の指定管理者制度への移行も当然課題とはなっていると思うが、「地域医療の中心病院」という、熱い思いを土岐市がもつことであろう。県病院や東濃厚生病院があるという考えがある限り、再生はむつかしいのでは。
● 医者不足、人員不足により総合病院に魅力がなくなっている。（担当医が辞め、別の医者に代わって何回か検査をした後、結局専門外だからと転院することになったり、身内の見舞いに行った時、他の患者さんが看護師さん呼んでいてもだれも忙しく、すぐに対応してもらえない様子を何度か見かけた。）	● 診療科の充実。医者を含めた、接遇研修の強化。無理があるようなら民間にまかせるのも手段か。
● 医療の質向上	● 規模・構成の見直し
● 科が充実していて、医療技術も充実していて安心して診療を受けることができる市立病院であること。	● 医療器械と医師の充実
● 救急医療の充実及び総合病院の診療科の再開（産婦人科・循環器科・呼吸器内科）及び整形外科の充実を図るための医師確保	● 医師確保は、日々苦慮されて継続的に取り組まれており、いまさら言うまでもありませんが、魅力は何か。①給与等（継続的）厚遇②将来的な補償③医師の理念④労働時間の短縮（交代医師）学ぼうとする理念を利用し、著名な医師を非常勤で招くなどし、魅力をアップすると、崇高する医師や研修医が自然と集まるのではないでしょう。
● 救急医療体制の充実	● 救急対応できる人材の確保。
● 救急車の受け入れ先が市内にあることは重要。	● 最新機器の使用等良い面のPRを強化し受診者を増やす。（広報で紹介・公民館・保健センター・観光場所等で掲示する）
● 救急搬送に対して、他市の病院に比べ土岐市立総合病院の受け入れ状況が悪い。（特に小児科、整形外科）	● 他市の病院に比べ、医師と看護師の知識と意識が低いと、研修等に積極的に参加させて知識等の向上に努める。総合病院であるので各科何名医師がいれば、対応できるかを検討して、医師の人数を見直さなければならない。状況によっては、対応できない科を縮小する。土岐市立総合病院の近隣には、内分泌科、小児科等専門科があるので通院患者は、専門科にいつでも紹介し、総合病院の医師の負担を軽減する。
● 救急病院の充実化が必要。	● 総合病院だが、診療不能な科が多く、高齢者等に多い整形外科や循環器科の充実のため医師の数を増やす必要があると思う。
● 近年、県道土岐足助線沿いに内科、小児科、眼科、泌尿器	● 離島やへき地の取り組み等を参考に、医師確保に努める。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>科等が開院され個人病院が充実してきているが、産科は市内にはない。患者（妊婦）は多治見市又は瑞浪市の産科医院まで行く必要がある。病院までは長距離ではないにしても、患者（妊婦）の状態を考えるとかなりの負担になる。若い世代には近くに産科医院がある場所を住む場所の選択肢とする可能性があるのではないか。産科医院があれば、定住者が増え人口減を防ぐ1つの要素にもなるのではないか。また保健の充実、地域福祉の充実にも寄与するのではないか。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 経営の健全化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医師、看護師を全国から募集する
<ul style="list-style-type: none"> ● 経営の健全化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市立総合病院は、24時間脳卒中対応しています。一方でその状況が市外には良く知られていない現状があるため、市のホームページ等でもPRして患者を増やす。
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、医師不足により総合病院であるにもかかわらず、整形、循環器等対応できない病院である。早急に改善する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間委託
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、市内で医療機関に受診をしようとしても、受診する医療機関がない現状がある。総合病院でさえすべての診療科がない状況。市民がより安心して生活ができる環境整備が必要。産婦人科・小児科が必須だと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合病院についてですが、今の時代医師を確保することは困難とは思いますが、例えば院長をととても有名な方に来てもらうことにより、全国から若い医師が集まってはこないでしょうか?そんな単純な問題ではないと思いますが・・・。
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、総合病院では、産婦人科がなく、それ以外の科についても手薄な体制となっており、総合的なケアは難しい状態に見受けられる。産婦人科にいたっては市内に個人病院もなく出産は市外でしか選択肢がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市立として全ての診療科を高いレベルで維持するのが難しい状態であれば、2次病院規模以上の病院の誘致を行って、市内全体での医療基盤の底上げを行うのも1つの方法だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、土岐市内には産科がなく、出産に対する不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市立総合病院への産科医の誘致、土岐市立総合病院付近の県道19号線への個人産科医の誘致を同時に行い、総合病院、個人病院の連携を図ることで、病院の負担軽減、多様な市民ニーズに対応することが可能である。
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、土岐市立総合病院では整形外科や循環器の当直医がなく、また、市内で産科もない状態である。住みやすい環境作りにおいても、病院の充実化は必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人件費はかかるかもしれないが、住みやすい環境づくりのため、医療が充実していることは必要と思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在の医師不足は深刻で、診療科によっては常勤医師がいなく、非常勤医師のみで診察を行っている。常勤医師不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医師不足の解消は、大学医局との絡みもあり、一朝一夕には難しい。指定管理、他病院との連携（住み分け）、特化した診療科のみとする（総合病院から市民病院へ）等、現状の直営を見直す検討を具体的に進めていく。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>は、入院患者の受け入れ数に直結し、収入源である入院患者数の減少が続いている。今後も現状のような一般会計からの繰り出しを続ける事は困難である。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 現状、救急2次病院として位置づけられている中で、専門医不在等により3次病院への搬送が増加しており、救急出動時の病院への収容時間が長くなっており、市民サービスの低下があると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医師専門転職・就職サイトへの応募、説明会等への参加
<ul style="list-style-type: none"> ● 現状に合わせた病院規模の縮小東濃の基幹病院である土岐市立総合病院は、土岐市内の医療にとっても必要不可欠な存在でなければならない。現在、医師の減少からその役割が果たせていない状況であるため、医師の確保が最優先であることは言うまでも無いが、確保できるまで病院規模を縮小した経費節減対策が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者数の減少から、余剰となっている検査、放射線等の医療職を院内の人事交流として事務局へ異動させて事務職員を減らし人件費の節減を図る。医療職が事務局の業務を経験することで病院の経営について熟知する契機となり、院内の連携が一層良くなると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 個人病院が増えているが、婦人科系の病院が無く、産婦人科にあっては、市外へ出なくてはいけないのが現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口増を目指すのなら、産婦人科を含めた婦人科系の病院が必要と思われる。出産間近になれば、掛かりつけの産婦人科が近くにあると望んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 項目としては、上記を選択したが、充実ではなく、人口減少を見据えた適正規模へのスケールダウン・診療科目の縮小やベッド数の削減等若しくは直営のあり方などが課題と認識する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化に伴い病院の充実が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合病院の改革、変革、充実。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の増加に伴う利用や安心して出産できるような病院の充実が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医師不足に伴い、病院で安心して働けるような環境や医療設備の充実
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者化が進み高齢者が増えるにつれて、専門病院よりも様々な疾患に対応できる総合病院の役割が重要になってくる。財政面で非効率な部門を切り離さず経営状況を改善することがこれからの課題だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ・医師確保のため、医師奨学金の拡充と制度の宣伝、職員の住環境整備、研修機会の拡大。・利用者のため、ホームページの充実、相談会や講座を開催。・その他、未収金の回収強化、経費の見直し。
<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科がない。わざわざ多治見、瑞浪までいかないといけないのはやはり女性には優しくない。総合病院の必要性。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科の誘致。
<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科がないということです。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全・安心して暮らせる街として病院に産婦人科がないということは致命的かと思います。全国的に医師不足はありますが、医師への

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
	<p>福利厚生や報酬の充実をし、他の市と差別化を図り、医師を確保する取組が必要だと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科の病院不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合病院に産婦人科設置：総合病院だからこそ、もし、出産に関して大きなリスクがあっても総合的に患者を守ることができる事を呼びかけ、医師の確保
<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科の誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在土岐津から下石への県道に開業医が集中してきているため、「医療ストリート」等と名付けてさらに診療科目の開業医の誘致を特化してはどうか。特に産婦人科については奨励金を出すなどしてはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科医がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科医になる人への助成・優遇、医学部との連携、産婦人科医の誘致
<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科医の不足により、市内での出産ができないこと。 ● 公立病院の医師不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 難しいことは承知ですが、市立総合病院に常勤の産婦人科医を雇用する。 ● 地域の産科を取り扱っていない、婦人科医に輪番制で協力していただく。 ● 地域の総合病院として、いつどの科にかかっても安心できるように。
<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科医師の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 勤務条件等の考慮を優遇する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科病院の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院経営も商売なので、開業したいと思ってもらうにはそれなりの人口が必要となる。補助金などの給付制度にも限界があるので、なんとか人口増加は無理にしても減少に歯止めをかけなければならぬ。個人の自由なので強制はできないが、まずは職員が自ら進んで土岐市に住まなければいけないと思う…のだが…。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市総合病院は医療従事者の不足により、総合病院として機能していない。総合病院はもとより、市内に産婦人科はなく、市外でしか出産できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門医の確保。診療科目の充実。民間企業の参入。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市総合病院は診療科が減り、もはや総合病院ではなく市民が安心して医療を受けることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多治見市民病院の様に経営を立て直し、医師不足を解消し、本来の総合病院としての機能を回復させる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に産科がないことや、小児専門医が少ない。成人に関しても安心して受診できる医療機関が少ないように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合病院の診療科の充実。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に産科がなく、小児科が少ない。子育て支援のために医師の確保が必要。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に産婦人科が一つもないこと。若い人が、どこに住もうか考えると、住みづらい原因の一つになっていると思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内の婦人科不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に出産する体制がないのは、市として子供は市外で生んでくださいとっていることになる。人口減少を対策するのに出産施設がないのは矛盾しているので、市内に産婦人科が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内二次医療機関（当市基幹病院）は、医師不足により機能低下し、対応不能な診療科目が増加傾向となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大変難しい中、病院事業改革プランが策定されることと思いますが、例として予算を確保して人脈・知名度のある医師を院長に招き入れるなどの大改革を図り、主要診療科目の医師確保ができればと切望する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民のための病院が、医師不足により急性期の病院として 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域内での連携強化により役割を明確化する

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
機能できなくなっている	
● 市民病院の回復	● 土岐市単体では無理であろう。隣の瑞浪市または多治見市と手を組んで2市で一つの病院を立ち上げ共同経営、共同輸送バス等のアイデアを生み出したい。
● 市民病院の在り方	● 市民病院の改革を進める
● 市立総合病院の専門医不在問題。現状、専門医（整形外科医、循環器内科医、産科医等）が不足している。我々消防職員の立場からすると、医師不在のため市外への救急搬送を余儀なくなり、市民サービスが著しく低下している。	● 医師の確保が先決である。
● 市立総合病院の専門医不在問題。現状、専門医（整形外科医、循環器内科医、産科医等）が不足しており、市民サービスの低下を招いている。また、救急の受入に関しても、専門医不在のため受入困難な事例が多々みられる。	● 医師の確保を含めた医療体制の整備。
● 市立総合病院も開院して30年経とうとしているが、東濃三市に同じような急性期病院が四カ所もあること	● 療養病床型の病院に変わったら、ニーズがあるのではないか（患者家族から、すぐに退院させられるとの訴えが多いため）。
● 市立病院の充実として、総合病院としての診療科の充実と、市立病院としての役割の再検討が必要。	● 子どもの発達障害や高齢者の認知症など専門性を持った診療科の開設により、市立病院として、地域医療の拠点となる役割を担えるといよい。
● 出産できる病院がない。小児科も救急夜間は他市の病院にかからねばならず、状態の変化しやすい小児のことなので緊急時は早急に受診できる体制を整備する必要がある。	● 産科医の確保。市内で小児科に24時間、緊急時は受診できる体制整備（総合病院、開業医で当番制で夜間も診てくれる等）
● 出産できる病院の確保。総合病院の充実。	● 常勤、非常勤ともに医師、看護師の確保をする。医師、看護師の働きやすい環境を整える。市内での開業、医師確保が困難であれば、近隣の医療機関との連携を充実して、市民がスムーズに受診しやすい体制を整える。
● 常勤の医師を確保し、市民が安心して利用できるようにする。	●
● 常勤医師数の確保	● 東北地方の公立病院で外国人医師を雇用していると聞いたことがある。数年しか雇えないが、医師不足解消になるのであれば、そういった選択肢も持つべき。
● 深刻な医師不足により、安心できる医療提供が充実しているとは言えない。	● 医師派遣のための頻回なあいさつ回りだけではなく、大学医局等の枠を超えた医師確保の取組が必要と考える。また、看護師、薬剤師の増員も着実に実施し、高齢化が進み、受診者が多くなっていく流れに対応できるようにしておきたい。
● 診療科の減少により外来、入院患者の減少を招き、結果的に大幅な赤字を生み、多額の市民負担となっている。	● 医師確保に尽きると思います。医師が確保できれば診療科の再開及び新設は可能ですし必然的に外来、入院患者は増加し、それに伴い雇用も見込めます。公立病院である以上総合診療を求められ赤字はやむを得ないと思いますが、診療が充実していれば市民の理解は得られます。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 診療科目減少の歯止めと医師やスタッフの危機意識の改革、救急医療体制の確保	● 現在のうす暗い照明から病院の照明を明るく変更する。他市、他県の公立病院は照明にも配慮されている。医師の確保および地域医療病院との連携により、診療科目を精査する必要性。医師がいない科目は他の病院に委託して対応するなどの対策が必要。市民に対し、今の市民病院が何を対応できる病院なのかを明確にする。困難であれば、県医療整備課に打診すべき問題である。
● 専門医の不在。	● 医師の募集を積極的に行うべきだと思う。
● 専門医師不足による救急受け入れ体制。循環器、整形などが受診できない場合がある。	● 民営化も含めた、医療体制の改善。
● 専門医不在の解消	● 医師募集のオリエンテーション等を積極的実施すべきだと思います。
● 全ての科が揃っていない。	● 医師の確保で総合病院の意味を持たせる。
● 全国的にも医師不足による地域医療の運営がままならない状態となっている。個人病院はあるが、現在の2次病院(土岐市立総合病院)が診療科目も減り、総合病院としての機能を果たしていない。救急車の受け入れ態勢も専門の医師がいないため受入できないため市外の病院へ搬送する割合が年々増えている。市内の住民が市内の病院へ行けない。悪循環が続いている。土岐市立総合病院の経営も赤字が続いている。	● 全科目の診療が無理なら、診療できる科目の質を上げ、「この診療科目なら土岐市立総合病院へ行けば治る」という評判が出るようなスタッフを集める。
● 総合病院が、総合病院として機能していない。市民にとっては不便極まりない状況である。高齢者も多いので市外の病院へかかるより、市内で受診できた方が絶対にいいです。産婦人科など、市外にしか病院がないため不便である。	● まずは医師を確保すること。循環器や呼吸器などの主要な科をまずは復活させることが大事。あとは産婦人科もあると妊婦にとってはありがたいかと。自分の住んでいるところで出産できるのが一番である。
● 総合病院しかなく夜中の救急はいっぱい。当番の病院もあるようだが機能していない。	● 中規模の現状ある病院をもっと活用できると思う。内科は当番の病院でみてもらえるが整形外科や眼科、小児科など医師を増やす。しかし担当科が増えても住民への周知が絶対条件となるので広報ときや看板掲示、作成の費用負担等もするべき。
● 総合病院でありながら医師不足により専門科が少なくなるとともに救急体制の受け入れが悪い。	● 若い医師が魅力ある街、福利厚生面の充実を図る。
● 総合病院という名だけであり総合病院としての機能を果たしていない。	● 医師不足が懸念される昨今ではあるが医師をしっかりと確保する。また、婦人科系については市外での受診になってしまうのでまずはそこに重点を置いてほしい。
● 総合病院という名の病院であるにも関わらず、複数の診療科で医師の不在・減少がみられる。よって救急医療体制も崩れてきている。	● 総合病院と名が付くのであれば、どんな診療科であっても対応できるように医師の確保が必要である。医師が働きやすい環境・体制づくり。県や国への協力依頼。
● 総合病院という名ばかりの病院では患者数も減り、救急搬	● 診療科ごとにしっかりと医師を雇用すること。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
送の受け入れも減ります。病院経営も厳しいものになるのではないのでしょうか。診療科ごとに医師をしっかりと雇用し”総合”病院にしていかなければいけない。	
● 総合病院なのに、診療科が減っていつているのは問題だと思う。産科がない。	● 医師の確保。Uターン就職支援。1人でも良いので目玉となるような医師に来ていただく。
● 総合病院の医師不足により、曜日によって診察が受けられない診療科がある。また、市内に出産できる病院が一つもないのは改善されるべき。	● 医師を広く募る。
● 総合病院の医師不足の解消。	● 人口減少に伴う、税収減少等により、難しい課題だと思われるが、充実してもらいたい。
● 総合病院の医師不足の改善。	● 新規採用医師・研修医などの福利厚生の抜本的な見直し及び魅力的な労働環境を整備する。
● 総合病院の医師不足経営難	● 民間への譲渡
● 総合病院の看板をあげているが、診察ができない科が複数ある。医師の減少。	● 医師を増やす努力、毎年大幅に医師が退職していく理由を明確にして改善を図る。立地条件から災害医療病院（DMAT）等を視野にいれ、民間委託も検討する。
● 総合病院の規模が縮小している。	● 産科などは隣市の病院とドクターをシェアするなどして確保する。
● 総合病院の経営安定化や医師不足等の解決	● 指定管理等による外部委託
● 総合病院の充実	● 地域の基幹病院、総合的な病院としての強化
● 総合病院の充実・活性	● 医師の確保が最重要だと思うが、難しいのであれば、せめて病院が活性化できるよう、市と病院を連携させた催しできたらと思う。今のままでは市民の病院への不満ばかりで、健康に対する意識につながらない。
● 総合病院の診療科目がどんどん減り続け、総合病院とは言えない状況である。医師・看護師不足、病棟閉鎖、赤字経営から抜け出せない。	● 診療科目を減らすなら特定の診療科目に特化し、全国的に有名な病院にする。例えば、最先端医療機器を導入するなど。そうすれば医師もやる気が起こるのではないかと思う。そういった機器がないので治療ができず志の高い優秀な医師が入ってこない、または出て行ってしまわないか。また近隣市町村で小児科があるのは県立多治見病院であるが、救急で行くには遠いし、待ち時間がとにかく長い。子育て世代には救急でかかれる小児科が必要であると思う。看護師等のスタッフについても慢性的な人手不足を解消する必要がある。働く人の心が穏やかでないの良いサービスは提供できない。
● 総合病院の役割（個人医院との連携など）見直しなど医療の一層の充実	● 市民の健康を保つ場所としての機能を加えるなど、健康増進、リハビリ施設との一体化や特典付人間ドッグなど総合病院としての強みをより伸ばしていくといいような気がします。併せて個人医院には出来ない高度医療が一つでもあればよいと思います。また東濃地区に常時夜間休日救急対応できる、またリハビリ施設をもつ動物病院が少ないように思えますので道路網が充実してきている土岐市で他地域にはないものがあればよいと感じます。
● 総合病院は、医師不足のため各診療科が機能してない。	● 各診療科の診察を可能にするために、医師の増員が必要 ● 民間委託等の検討が必要
● 総合病院を、これからどうしていくのかを検討する必要がある。	● 総合病院を、東濃圏域の医療体制のなかで、どのように位置づけていくのかを決定する必要がある。それを受け、維持していくのかどうか、規模はどれぐらいがいいのか、維持管理体制をどうするのか、等を早急に決定する必要がある。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 総合病院を指定管理にする。または売却する。	●
● 総合病院機能の充実。	● 今、医師も少なく総合病院としての機能をしていないので、市独自の再建が無理であるのなら、売却等を考えて、他の組織に運営を任せる。
● 総合病院診療科の充実	● 土岐が丘などの若い世帯で出生が増えるなか、土岐市総合病院以外でも産婦人科の誘致をぜひ検討していただきたいと思います。
● 地域医療体制が崩壊しており、安心して生活していくには不安だと思えます。衣・食・住環境を整えることも大切ですが、安心して生きていく上では医療は欠かせないものです。頼れる医療、愛のある医療、連携した医療体制を整えることが急務です。	● 高度医療との連携として、病院にヘリポート施設の建設することで、岐阜県をはじめ他県のドクターヘリ等と連携し受け入れ・送り出しの体制を強化する。受診、検査、診察、会計までの円滑な流れを見直しつつ、常に質の高い医療が提供できるように大学病院との関係を密にし、医師の教育環境やスタッフの働く環境を整え、適切な経費のありかたを第三者機関に委ねる等の検討を試みる。
● 土岐市に現在住んでいる人にとっても、転入を考える人にとっても大事な問題だと思う。県病院や東濃厚生でなく、土岐総合へ戻ってきてもらえるようになって欲しい。危機感を感じます。	● 他の病院との連携を図り、協力をお願いする等。
● 土岐市に産科がない。産科がないことは、子どもを産み育てる女性にとって、不安材料の1つである。	● 総合病院の産科再開、産科医院の個人病院開業にかかる助成などにより、安心して子どもを出産できるまちであるように整備をしていくべきである。また、総合病院については、ある程度特化した専門科でも良いのではないかと。例えば、小児専門病院（このためには、小児科医師の充実は必須であるが）、核融合科学研究所と連携した中性子線を活用した高度医療技術提供を可能とする医療体制を整える。
● 土岐市に産科がないことについて、もっと近くに産科があればいいのという声をよく聞きます。市内で安心して子どもを産むことのできる場所は少子化の面からでも重要かと思えます。	● 産科開院における補助
● 土岐市総合病院の評判が芳しくない	● 今後の高齢者社会や、子育て支援の充実等考えた場合、市内唯一の公立病院の発展が必要
● 土岐市総合病院は毎年患者数が減少し、一般会計から赤字補てんをおこなっている。ある程度市民サービスは必要だが土岐市には個人病院も多くあることから総合病院の存在について今一度考えるべきではないか。	● 総合病院ではなく、専門分野に特化した病院に移行する。または、民間病院に施設ごと譲渡する。いつまでも赤字が累積するだけの負の財産は本体の市政に影響を及ぼすため早急な対策が必要である。民間企業は採算が取れないとわかると処分が早い。（公的機関の住民サービスは他の施策にシフトした方がベストではないか）
● 土岐市内における病院数は多いものの、2次病院として総合病院の専門医師の減少がある。	● 医師の確保を全国に依頼。優秀な人材を育てる
● 土岐市内に産婦人科の医院がなくなったので他市の医院を利用しなければならない。	● 土岐市内に新たな産婦人科の医院を誘致するのはどうでしょう。
● 土岐市民の基盤である土岐市	● 土岐市立総合病院では医師の確保など大変な部分は多いと思うが、

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
立総合病院の立て直しが重点課題だと考えます。市立病院は市の顔であり医療の充実という面では不可欠。	脳卒中センターを開設したことを機会に土岐市立総合病院の売りをアピールするのも良いと思う。
● 土岐市立総合病院では、病棟の閉鎖や診療科の減少など地域基幹病院として機能していない。実際に土岐市民が多治見市や瑞浪市の病院を受診している。市民が安心して暮らせるよう、病院機能の充実が必要である。	● 総合病院として地域の住民が安心して暮らせるよう、産婦人科系の復活、呼吸器系診療科の設置など多様なニーズに答える診療科の増設をする。
● 土岐市立総合病院について…総合病院というものの、診療科目が限定されている。	● 多治見市民病院の民間委託のケースを参考にし、民間委託を視野に入れてはどうか。民間ならではの経営手腕を導入することで、魅力的な医療機関となると思う。
● 土岐市立総合病院の医師の充実	● 医師の待遇を改善して募集をかけるべき。
● 土岐市立総合病院の医師の数が減少しており、24時間対応できる診療科が減少している、そのため、救急の受け入れが困難であったり、他病院への転院など多くなり、市民に対する救急医療のニーズができていない状態となっているのも事実である。	● 土岐市立総合病院を市が運営しているが、赤字経営となっていると聞き、これ以上市での運営ができるのか非常に疑問である。指定管理者制度にし、民間での運営を行ってはどうか？
● 土岐市立総合病院の医師及び科の不足	● 呼吸器、循環器、整形、消化器と最も医療として患者が多くいる科及び医師がいないというのは、総合病院として成り立たないし、そういったところが暮らしにくい等の市民意向の一つだと感じる。
● 土岐市立総合病院の医師不足。	● 若い医師の確保を優先する。市内や東濃出身で、経験年数の短い医師に対し、住宅や補助金を提供することで土岐市立総合病院での就労と土岐市内の定住を促す。
● 土岐市立総合病院の救急受け入れ態勢	● 救急受け入れ態勢の充実のために、人員を増加（特に各科の専門医を増加）する。
● 土岐市立総合病院の診療科目	● 土岐市立総合病院の診療科目が減少し、総合病院としての機能低下がみられる。救急搬送の受入体制も過去に比較し、受入不能率が高まっているため早急に医師の確保し診療科目増を図っていく必要を感じる。
● 土岐市立総合病院は、数年前に比べ救急の受け入れ要請に対応できないことがかなり多い。特に整形事案はほぼ不可。また産婦人科医もない。	● 土岐市立総合病院の医師の充実。医療体制の整備。民間委託も考慮してもよいかも。
● 土岐市立総合病院は総合病院というものの、医師不足等により診療が実施されていない科がある。	● 費用面等についてはわかりませんが、多治見市民病院のように民間病院に委託する。
● 土岐市立総合病院は二次救急医療施設として中心的な役割を担っているが、産婦人科など必要な診療科がないため、安心して子供を産める環境ではない。	● 人口減少に歯止めをかけるためにも、土岐市立総合病院に産婦人科医師を確保し医療体制を充実させ、市民が安心して子供を産める環境を整備する。
● 土岐市立総合病院において、産科がないことで受診したく	● 医師の採用を検討する。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>てもできない。整形外科においては、予約でないと受診してもらえないのに何時間も待合室でまたなくてはならないという状態である。病気をした時にすぐに受信できる病院があることが、重要ではないか？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市立総合病院の医師不足があり、救急搬送で整形外科、循環器の受け入れができない状況が多いため、県立多治見病院への搬送が多くなっている。周辺に救急の受け入れ病院がないと、その後のケアも含めて本人、家族の負担が多くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 整形外科、循環器の医師を増やす事により、救急搬送の受け入れ状況がかなり改善できると思われます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市立総合病院は、土岐市を代表する総合的な病院としての役割を果たすべきであるが、現状は機能していない課も多く、十分な役割を担えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他市や民間病院との連携。
<ul style="list-style-type: none"> ● 病院の質及び医師不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合病院という名前であることは、すべての診療ができないとおかしい。そのためにはまず医師の数が絶対的に必要。そこが解決できれば、病院としての質を上げていく。
<ul style="list-style-type: none"> ● 病院事業会計への繰出金の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定管理への移行等(現実的には相当困難)
<ul style="list-style-type: none"> ● 病後児保育の受け入れがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 瑞浪のように受け入れがあると良い。
<ul style="list-style-type: none"> ● 分娩可能な病院がないことが、若者の定住(Uターン、Iターンともに)を阻んでいる一因となっていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科医の誘致もしくは総合病院での再開。開業や就労に対する補助。
<ul style="list-style-type: none"> ● 毎年多額の赤字を計上し、一般会計からの繰入金が必要としている総合病院。建設から30年近くが経過し、いずれは建て替えも検討が必要となってくるなど、市の財政に与える影響は非常に大きい。医師不足も解消せず、逆に診療科の減少が進むなど先が見えない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今までは直営堅持の方針であるが、そろそろ見切りをつけた方が良いのではないかと。指定管理だけでなく、売却も含め検討する必要があるのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> ● 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東濃厚生病院では、医薬分業となっていませんが、総合病院でもそうすることはできないのでしょうか。具合の悪い方が一箇所て用が足せないことが足が遠のく一因でもある気がします。

19 地域福祉の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 元気な土岐市をつくりあげるためには、地域から元気にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● どの地域も、いろんな課題を抱えていることと思われる。その課題全てが土岐市の課題である。行政は真摯に地域の声に耳を傾ける努力をこれからも続けるべきであると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化社会が加速しているた 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別養護老人ホームや低額な老人施設、療養病院を誘致する。自宅

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
め、福祉充実が必要であるが、担う担当者や施設等の整備がされていないと思われる。	でケアをしてくださる職種も増員すべき。
● 地域ボランティアへの連携支援	● P T A、町内会等の各団体間の連携を強化できるよう、公民館等を通して指導、支援する。

20 児童福祉の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 【生活困窮者世帯における親から子への貧困連鎖】生活困窮状態に置かれている家庭の子どもも将来的に生活困窮状態に陥るケースが多い。	● これまで社会に貢献してこられた優秀な高齢者の方々（元学校教師が理想）にボランティアになって頂き、生涯学習課に協力を得て公民館を無償で開放し、塾に通わなくとも学習支援を得られる場を提供していく。
● 現在幼稚園等が不足しているため入園は抽選となっており、そのため学区を超えての通園及び直近の幼稚園に通園できないという問題が出ている	● 地域人口に似合った保育園、幼稚園等の整備・小学校や中学校の空き教室等を幼稚園として利用できないか
● 子どもの健康で安全な生活を守るため、家庭の経済状況に左右されない制度が大切と考えます。	● 中学校卒業までの医療費無償は大変にありがたい。行政のご尽力に心より感謝申し上げます。項目の児童福祉とは言えませんが、この制度の高校卒業までの延長を是非お願いしたい。
● 0歳児から中学入学までの切れ目ない保育の実施	● 保育所での5歳児保育の実施及び幼稚園預かり保育の中止、土曜日の保育時間の延長、小学校入学前の放課後教室の受入、放課後教室の開所時間の延長
● これからの土岐市を担う大切な子ども達です。幼保一体化の推進が進んでいますが、形だけでなく内容がとても重大だと思います。親の利便さだけでなく、心情、意欲、態度というように、教育面や心と体育を重視して育つようにしていかないと、将来が不安になってきてしまいます。現在の公立幼稚園が行っている研究面や近い小学校との連携はなくさず、総合的に将来を見据えた子どもにとっての幸せにつながるよう、考えていただけると良いと思います。	● ローテーションで回す勤務状態だけでなく、ゆとりを持った職員配置にし、教材準備や一日を振り返った日誌を書く時間、研究・話し合い・情報交流などの時間の保障をする。また、割合が多くなってきた講師の方の労働条件を良くし、良い人材を確保する（小学校と比べても随分違います）。など
● その地域に住むすべての0歳から5歳までの子供が利用可能な安心・安全な保育施設の整備は、児童福祉・地域福祉の充実のため必要である。	● 老朽化著しい施設を重点に、地域住民のニーズにあわせ、認定こども園の設置や建て替えを速やかに行う。
● ひとり親世帯の貧困率が高く、その家庭の子どもの将来にまで連鎖している。	● 保育園・小中学校・放課後教室などにかかる費用（給食費・学用品・修学旅行費など）の実費補助又は現物支給。 ● 放課後や長期休暇に、学校で大学生や引退した教師などが子どもの勉強をサポートする。
● 愛知県への通勤圏内であるので子育てしやすい町になれば	● 延長保育、放課後教室の充実。多子世帯の支援。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
子育て世代の転入が見込める。	
<ul style="list-style-type: none"> ● 安心して子育てができる町と思われることで、現役世代の転入が見込める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国的に、核家族・夫婦共働き世帯が増えたことによる保育の低下、非正規雇用の増加など子育て世代の収入の低下の中、より子育てしやすい町に住む傾向があると思われます。現在自分も子育て世代として、幼・保の預かり保育や（保育の目的ではないかもしれませんが、放課後学級も）、医療費の無料制度はとても助かりました。今後も同制度を継続していければと思います。さらに、働き方が多様化する中で、保育へのニーズも多様化しており、例えば、夜間・休日などの保育の実施や、長時間の延長保育などの要望に対応出来たらと思います。公立で難しければ、民間活力を生かせたら。
<ul style="list-style-type: none"> ● 安心して出産し子育てができる環境を整える（土岐市で子育てをしたいと思える環境をつくる） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園の時と同じように預かってもらえないと、働く母親の負担は減らせないので、5歳児の附属幼稚園の慣らし期間（4月からの午前みの期間）を無くすか、せめて給食は食べさせて預かり保育を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 希望の園に入園できない。安全な施設の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の要望を収集、検討し、必要な整備を行っていく。保育士の確保のため、保育士の働きやすい環境の確保。児童福祉にかかわる方の研修の充実など。
<ul style="list-style-type: none"> ● 居住している地区の園に入園できない現実がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域人口に見合った規模の園の整備が必要と考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 共働き世帯が増える中で、子供が保育園・幼稚園から義務教育修了まで安心して働くことができる環境の整備は重要だと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 病児・病後児保育、幼稚園夏休みの預かり保育期間の給食提供、平日の園・学校行事の削減（市の方針として）
<ul style="list-style-type: none"> ● 現役世代や若い年代の市民を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供がいる（今後生まれる）家庭にとって魅力がある街にする。（長時間子供を預けられる保育施設、保育料が割安、小学生の放課後預かり、おいしい給食等）
<ul style="list-style-type: none"> ● 産休明けの時短で働く職員さん。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 仕事量、仕事の分担など周りでサポートしていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもがすこやかに成長するためにはどうすればよいか。保育施設、保育環境の充実や自然の中でのびのびと育てられることが、子どもにとっては重要だと思う。その一方で、その子どもを育てる家族が住みやすいまちだと感じることも重要である。子育て支援の充実は、これから先も重点課題になると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園などのあり方について、市民ニーズに柔軟な対応ができるよう、民営も含めた市の保育行政を考える。例えば、駅前に早朝から午後10時くらいまで対応可能な保育園の整備、買い物や各種スクール（講習や研修）をする際の託児サービスの奨励や短時間、短期間保育が可能な保育施設の設置など、核家族が増加する傾向にある中で、幼い子を持つ母親がストレスをためることなく自分の時間を持つことが気軽にできるようなしくみを作ることも大切だと思う。母親が嬉しいと感じられるまちは、住みたいまちになると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもは市の財産である。また子育てをするにはお金がかかる。子どもを産み育てる世代に対して金銭的な給付も含めて支援が必要である。子どもを育てる世代が住みやすい町になることで、人口減少にも歯止めがかかり町が活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 出産祝い金を支給する。市役所庁舎内もしくは併設施設として、子どもの遊び場となる屋内遊園地をつくり、利用者を市民限定とする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを安心して育てられる環境が整っていないければ、若い世代の人が離れていき、人口が減っていく。逆に充実していれば、定住する若い世代 	<ul style="list-style-type: none"> ● 出来るだけ居住地の近く、または希望する保育園・幼稚園（今後はこども園？）に入れるような体制をつくる。子どもが安心して遊べる場を増やす。子育て世代が利用できるサービスを充実させる。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
の人たちも増えると思う。	
● 子どもを守る体制、システムの工夫	● 子ども相談センター・保健所・保健センター等さらなる連携の強化
● 子育て、女性が社会進出しやすい環境の構築（待機児童が多い都市部の家族を取り込む）	● 都市部では、待機児童数が多く、働きたくても子どもを預けられない、預けられても高額な保育所しかない状況があります。土岐市では、児童の受け入れに若干の余裕があるので、①施設の拡大、人材を確保し、子どもを受け入れることができる点②東海環状自動車道やJRを利用して都市部へアクセスが良い点をPRし、働きたい女性を持つ家族を取り込む。
● 子育てがしやすい環境の提供	● 子育て相談やファミリーサポート等の子育て支援サービスの周知をもっと行うために、乳幼児健診での説明会を行う。
● 子育てしやすい街、子どもと子育てに負担の少ない街。	● 費用的な負担だけではなく、子育てする環境として選んでもらえる街。
● 子育てしやすい環境づくり	● 子育てには精神的、肉体的にも、その当事者への負担が大きいものと考え、その負担を軽減するために、家族全員で子育てする環境を構築したい。（夫の育児参加、親世帯との同居、近居による子育て支援）また、同居・近居ができない他地域からの転入世帯に対する子育て支援として、子育て学校（子育てを経験した40～60代の方に子育てのアドバイスをしてもらい、相談にのってもらい）のようなものを設置してはどうか。
● 子育て環境の充実	● 保育園、幼稚園の整備が充実していないと、子育て世代は安心して子供を預けることが出来ず、土岐市に住むことも出来ないと思います。できるだけ全員が希望の幼稚園、保育園へ入園できるよう早急な整備が必要であると思います。また、5歳児が全員幼稚園に入る土岐市独特の制度は、特に市外から転入した人にとって違和感を感じると思います。女性がフルタイムで働くには保育園のままの方が良いと思いますし、この制度は時代に合わないと思います。現在の施設は老朽化が著しく、駐車場の舗装も傷んでいるなど、子どもを預けるには不安を感じさせる環境では、土岐市は本気で子育て支援に取り組む気があるのかと市民に思われてしまうと思います。子ども園構想も大切だとは思いますが時間がかかるのであれば、まずは現在ある施設の改修などを早急に進め、安心して子育てができる環境を整えるべきだと思います。
● 子育て環境の整備。	● 快適子育て都市宣言（子ども憲章の制定）
● 子育て支援について、保育園や幼稚園の選択肢が少なく、なおかつ必ずしも希望通りにはならず、経済的負担も大きい。	● 子育て世代が定住したいと思わせる大きな要因となりうる課題であるため、家族構成や生活環境等を細やかに考慮して公平で手厚い支援があればと思います。
● 子育て支援の一環として延長保育を実施しているが実際仕事を抱える親の就業時間を考えるともう少し時間帯の幅を広げることが出来ないか。	● 延長保育を7時から21時とする。中途半端に伸ばすより思いきった時間のほうが対外的にアピールできる。
● 子育て支援事業の充実	● 幼児教育の環境整備を図るとともに、子育て世代の負担軽減、子育て支援事業の充実を図る
● 子育て世帯、共働き世帯に対する支援として、子供の保育環境の整備。 現在も延長保育や放課後教室が実施されているが、もう少し遅くまで預かってもらえる環境が必要と考えます。	● 延長保育時間の拡大。放課後教室の時間延長

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>男性は正社員、女性は非正規という前提がまだまだあるように感じます。男性、女性ともに正社員で働ける環境が整備できれば、世帯所得が上昇し、税収アップや、経済活性化にもつながると思います。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て世帯、共働き世帯に対する支援として、子供の保育環境の整備。 <p>病児保育の環境整備が必要だと思っています。子供が複数いれば代わる代わる発熱し、結果、2週間仕事に行けなかったということもあります。子供を社会で育てるという観点からも、病児保育の実施が必要だと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市立総合病院の小児科を強化し、そのうえで空き病室を「病児保育センター」などとして運用したらどうでしょうか。また、保育園、幼稚園、小学校と情報共有し、病児の情報を把握できるようにすれば、煩雑な利用申し込み手続きや病児の状態把握などが簡素化でき、ある程度の利用者数を見込めると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 子供を育てやすい環境を整えることは、結果的に生産年齢人口増加にも繋がるので、児童福祉の充実を図ることはひとつの目玉になると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市は子供を育てやすいとのイメージを持ってもらえるように、現在の児童福祉のアピールや共働き夫婦のための託児機会の充実を目指すのもよいかと考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に産婦人科がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産婦人科の誘致
<ul style="list-style-type: none"> ● 施設老朽化・人員の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい保育所の開設。保育士の増員・賃金の値上げ。
<ul style="list-style-type: none"> ● 児童福祉からの市内生産年齢人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 近隣他市よりも児童福祉を充実させることで、住む場所として土岐市を選んでもらう。イオンが開店する前にPRできれば、イオンで働く人達に土岐市を選んでもらえる可能性が上がる。具体案はないが、独自性があると良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 若い世代の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市に住みたいというインセンティブが必要で、医療費の無料化の拡大や給食費の補助・無料化等の検討
<ul style="list-style-type: none"> ● 若者が減少し、高齢化が加速している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者が住みやすくなる魅力あるまちづくり、そして、若者が子育てをしやすい環境づくりが必要であると考えます。提案：第3子以降に、給付金を支給する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 就学前児童の子育て世代で、共働き、または都市部へ通勤する世帯を支援することで、土岐市への定住を促したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 就学前児童を持つ世帯で共働きであれば、通勤途中や通勤前に子供を保育園へ預けることが想定される。特に都市部へ電車で通勤するような世帯であれば、早い時間帯での子供の預け入れを望むと思われる。これらのニーズを満たし、子育て世代の都市部での就労を支援することで、所得の高い若い世帯の定住を促進できるのではと考えた。すでに、他自治体で取り組んでいる例であるが、駅前で就学前児童を預かり保育園へ送迎する行政サービスがある。早い時間帯でも駅前で子どもを預かり保育園へ送迎を行う。親はそのまま通勤が可能となる。この送迎サービスと、保育園側の預かり保育の時間帯の前倒しを組み合わせたサービスを提供する。直接預け入れする児童も受け入れる。これを泉認定こども園の目玉として事業を進めるもの。泉認定こども園の事業では、泉保育園の廃止について住民の理解を得ていく必要があるが、問題解決への提案の一つとなることが期待できる。多くのハードルがあることが予測できるが、成功すれば、住民のニーズを満たしつつ、子育て世代定住を促進する一助となると考える。
<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校に放課後学級があるが、預けられる時間が短い。 ● 11. 雇用環境の充実にも、 	<ul style="list-style-type: none"> ● 預けることができる時間を長くする。 ● 放課後学級をただ預かるだけのものではなく、魅力的な内容の保育にし、利用したいと思ってもらえるようにする。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
影響があると思われる。	
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子化が進む中、子育て世帯の定着を促すことが土岐市への発展につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間の参入を促したり、簡単に安く数時間だけ子どもを預けられるプランをつくるなどして子育て世帯が魅力的におもいう保育環境を整える。 ● こどもが集まれる公園があるといいが・・・。（例：小牧の四季の森や豊田の鞍ヶ池公園）
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子化で園児も減っている現状の中で、保育園・幼稚園の在り方を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 認定こども園をどう考え、市としてどのように施行していくのか？親サイドに立った運用が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化による人口減少に少しでも歯止めをかけるため子育てしやすい環境の整備が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援センターの充実・保育園等託児施設の充実・高校卒業までの医療費無料化・障害児の保育施設等への受入など子育てしやすい環境の整備を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口が減少していく中、如何に土岐市に定住してもらい、子育てをしてもらおうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てにかかる費用の公費負担
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少 	<ul style="list-style-type: none"> ● 妊娠・出産・育児支援等切れ目のない子育て支援
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少、子育て世代の市外への転出。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てにおける環境整備。子育てにおける情報交換できる場の提供、産婦人科、小児科等の病院新設時における支援補助。病院不足の解消にもつながり、安心して子育てできる市として発信できる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少対策（子育て支援の充実） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てしやすい市に向けた事業を行っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口増加（特に若い世代） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て経験のある方（職員等）にアンケートを取る。他市と違う所、役に立った制度、思ったこと等を無記名等で率直に記入してもらう。実際に魅力が感じられていると思われるものでPRの優劣を決め、関連情報とともに情報配信する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 選択は可能であるが、保育園に入園していた園児が小学校入学1年前に幼稚園へ入園する体制（慣習）があるが、家庭環境（共働きによる時間の制約等）により保育園に残る園児は慣れ親しんだ友達と1年離れてしまい、小学校への入学時に再び上手く打ち解けられるのが疑問であり、また、幼稚園の時間の制約と就労との兼ね合いで入園の選択に大変頭を悩ませる母親も多くあるものと思われ、女性の社会進出の弊害になっているものと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 未来を担う子供主体に手厚い政策を策定する必要があると感じる。また、女性の社会進出促進のためにも早期の幼保一体の整備を進める必要があると考える。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域で子どもを安心して産み育てられる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て世代と高齢者世代が交流する場を構築する
<ul style="list-style-type: none"> ● 都市部に比べ待機児童の問題などはあまりないと思いますが、それでもまだ保育園の利便性が低いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 当然かもしれませんが保育園の入園が4月1日以降で、それからお試し保育（半日預かり）があるととても働きにくいです。2人子供を預ける際、第1子は4月1日から預かってもらっても第2子は満年齢の関係で誕生日からしか預けられず、事実上第2子の誕生日まで働けないのも困るので改善されると助かります。
<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害児や被虐待児、貧困家庭の児童、社会不適応の若者に対する支援が各人の年齢やアプローチの仕方によってとぎれとぎれとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 要支援児者の早期発見と就労までの途切れの無い支援する医療・保健・福祉の協同による部署を創設し、要支援児者の早期発見と就労まで、途切れの無い支援サポートを行う。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 付属幼稚園および小学校への入園・入学までの間、保育の空白がある（4/1～入園・入学まで） ● 入園・入学までの間、子供を預けることができない。 ● 一時保育を実施している園（下石・花園）もあるが、他園の子供は慣れておらず、定員や日数制限もあり、利用しづらい。 ● 働く親にとっては、とても不便である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全園において、一時保育を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 付属幼稚園の警報発令時の対応について。6：30 までに解除にならなかった場合、お休みとなるが、保育園や小学校は解除時間に合わせ、登園・登校ができる。なぜまちまちな対応をするのか、疑問の声がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校に合わせる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園、幼稚園、小学校と提供されるサービスが細切れにならないよう、途切れのない子育て支援を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●
<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園、幼稚園などの施設の整備。建物の老朽化や駐車場の舗装などがなされず、不便。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模な整備が無理でも、小さなところから整備していくべき。
<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園、幼稚園における教育環境の改善（施設の老朽化、職員不足など） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼保一体化を行い、園を統合して新しいこども園を建設することで、施設老朽化の改善及び職員数の確保が可能になると思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園により、未満児の預かり年齢や保育時間が異なる。誰もが近くの保育園に通わせたいと思っているのが普通だが、地区により格差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全園において、年齢と保育時間を統一する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 来年度から保育園の預かり時間が変わるものの、まだ多治見に比べるとまだ短い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育時間を近隣の市町村と同程度に延長する。（多治見は7時から19時と聞きました）それにより、移住の妨げとならず人口増加、協働が見込めるのでは。
<ul style="list-style-type: none"> ● 両親共働き世帯のために子育てしやすい環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 働きたくても子育てと仕事の両立が難しいため、子育て中の女性を積極的に雇用する企業を土岐市に誘致する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 療育に関する体制が整っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 療育センターの充実。未就後も毎日通所できるような建物や、人的な環境の改善。
<ul style="list-style-type: none"> ● 老朽化した児童施設（幼稚園・保育園等）の改修。 	<ul style="list-style-type: none"> ● まず、子育て世代が魅力を感じる環境整備が重要であると考え。ハード面の安全化、衛生化が必要である。

21 高齢者福祉の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● （福祉とは違いかもかもしれませんが）高齢者の命を守るという意味で）自動車交通について、高齢ドライバーが今後急増す 	<ul style="list-style-type: none"> ● 警察と協同して、自主返納を促進させる。法的な縛りは公安によると思うので、高齢者待遇の面で強化する。例えば、自主返納したドライバーへの待遇の向上、公共交通機関のさらなる充実、市の職員の出張サービス等。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>る。現在でも流れに合わない危険運転をしているドライバーや、煽りを受けているドライバーを目にする。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者人口が増加とともに介護人口の増加・介護給付費の増大化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護予防対策が重要。地域で積極的に集まり活動できるような場所づくり。自由参加のお年寄り向けの講座の開催や子供との関わりの出来るイベントの開催など。・民間事業者も交えた不正給付の取り締まり。行政だけでは難しい部分を官民一体となって取り組む。
<ul style="list-style-type: none"> ● これからは高齢者が増加するので、いかに充実した福祉医療等ができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者が高齢者を介護することになると思われるので、家族だけでは介護が無理になると思われるので町ぐるみで見守るような体制を作り、市がそれに対して補助を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在土岐市の人口 60300 人のうち 65 歳以上は 17786 人で、割合としては 29.4%を占めている。日本全体としては高齢化率は 25.1%（平成 25 年 10 月 1 日現在）で、土岐市は全国平均を大きく上回って高齢化していると言える。高齢者の方にとって住みよいまちであることが重要だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業誘致によりアウトレットやイオンモール等の商業施設が増えるが、一般的にそういった場所は高齢者よりも若者があつまる場所である。しかし、新しくなっていく土岐市を高齢者にも楽しんでもらえるように、平日のお客さんが少ない時に、交通手段を提供したり小さなツアーを組んだりしてみてもいいかな。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化が進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 色々なサービスが手軽に利用できる。家庭に入り込み丁寧に対応してくれる方が必要。一人暮らしの方が増えてくることも見越している。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化が進んでいるため、高齢者が住みやすい環境を作る事も大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者向けの地域、高齢者のための地域などを分け、住みやすい環境を作る。いちいち市民バスで移動しなくても、曾木、鶴里、駄知に住んでいる高齢の方でも、その近隣で十分生活できる環境を整える。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化の進行に合わせて、介護が必要とする高齢者や介護サービスの増加が予想されます 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者が要介護状態にならないために日頃から運動できる環境を整えることと、健康に必要な知識を習得をするため、カルチャークラブの実施回数を増やすことが重要だと考えます。まずは、高齢者が健康で生活できる環境を整える事が重要である。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化社会に対する支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特に行動が不自由な状況の高齢者に対して、入所施設やヘルパー支援、病院通院支援、医療費助成など、より一層のハード面やソフト面の充実に努めるべきと思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者が安心・安全に暮らせる町作り 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合病院の空いている病室の充実
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の生きがい、やりがいづくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校で高齢者の方たちに、昔の遊びや話などをしてもらい小学生とふれあっていただくことにより、生きがい、やりがいを感じていただく。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の生活支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の増加及びその支援策について 	<ul style="list-style-type: none"> ● 独居や高齢者のみの世帯が増えてきており、子供世帯による支援が薄くなってきている。高齢者は移動手段のない方も多く、引きこもりがちになってしまうと認知症や要介護状態になるリスクが高まることから、高齢者を「外出させ・要介護状態にならないように支援」する必要がある。徒歩圏内に高齢者の集まることのできる場所（地域集会所や空き家利用）をサロンとして体操教室やおしゃべりの場として活用していく。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の増加傾向、介護士を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 質の高い介護士さんを確保するには、市職員として介護士を採用し育成することはどうでしょう。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の福祉サービスの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政・地域が一体になって高齢者が安心して住める街づくりをめざす。一人暮らしや老夫婦への福祉サービスの提供。お年寄りが気軽に参加できるような行事などを行う。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の方から、福祉に参加したいが足が無く、なかなかその場所に行くことができないとよく聞くことがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉の機会はあると思うので、バス等の助成があると気軽に参加することができるかもしれません。高齢者の方は、これから人口割合として確実に増えていくので対策は必要だと考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者人口が増加していくなかで、如何に住み慣れた家で過ごすことができるか。そのために要介護状態にならないよう行政として取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者のみの世帯を孤立させない。コミュニケーションの場を提供するような施策、運動機能維持できるようなサポートが必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者人口の増加が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市全体の人口は減っているのに、高齢者の人口が増えているまたは増えていくため、高齢者福祉の充実をはかる必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者増加に伴う福祉、介護施設、それに携わる人手不足への対応（国の施策）。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉、介護職の賃金アップ（国の施策）。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者福祉の具体的な活動や関わり合いの周知 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者福祉を充実させるためには、高齢者の方が生きがいをもち、安全で暮らしやすい生活を保障する必要があります。そのためには、地域や学校のボランティアの協力が必要となってくると思います。市と地域・学校等が協力し、定期的には高齢者と関わり合いの時間を設け、少しでも高齢者福祉に携わる時間を増やすことが重要だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 今後ますます高齢化が進みます。安心して老後を迎えられること・介護者の負担を軽減することができるような福祉の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護できない時が発生した時に一時預かりのように見てもらえる施設
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子・高齢化社会のため将来を見据えた市民が安心して暮らせる医療体制等の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 独居老人、障害福祉者への手厚いサービス（訪問介護等）の展開
<ul style="list-style-type: none"> ● 全国的に入所待ちが多い老人のための介護村を創る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定林寺工場適地に老人介護村を開村する。業者には雇用奨励金を出すなどして雇用を生み出す。また、介護職員の賃金が低く人材不足であることを踏まえ、市費により市内での生活を前提に一定の補助を行う。（同時に障がい者入所施設を併設することも検討する）
<ul style="list-style-type: none"> ● 独居の高齢者が多くいる中で老人クラブやはなの木など精力的に活動できる人はいいが、控え目な人やなかなか一人では動くことができない人が地域から孤立してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 独居の高齢者に文書を送付し返事をもらうなどして体の調子や要望を聞き取り、町内会長や民生委員の方に状況の確認をしてもらうなど、地域とのつながりを作る。
<ul style="list-style-type: none"> ● 独居高齢者が増加している現状で、持ち家が広くて管理が負担だという方も多くいると思われまます。また、利便性の悪い場所に家があり、高齢者で車に乗れなくなると生活が大変不便になるという問題も考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内の利便性のいい主要な場所に高齢者用のアパートを作って住んでいただく、可能であればそれまで住んでいた空き家を市で買ってあげる仕組みを作って、空き家は若い世代の定住促進を目的として売り出したり、貸し出すのはどうかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 独居老人、老々世帯などの増加により、家族介護力が脆弱化している 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の見守り体制や、地域住民のサポーターを育成する
<ul style="list-style-type: none"> ● 独居老人の見守り。引きこもりや認知症を予防できるように、高齢者が生き生きと暮ら 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習のサークルや、公民館で活動している団体を充実させ、誰でも参加しやすいような環境にし、特に高齢者に参加してもらい、活気のある生活を促す。無断で欠席があれば、異変をすぐに察知す

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
せるようにする。	ることができる。(例えば、私の独居の祖母は、週1回の体操教室に通って、体を動かすだけでなく、教室に参加している方たちと終わったあとに喫茶店に行ったり、ご飯を食べに行ったりと楽しく過ごしているようです。) 高齢者だけでなく、若いうちから生涯学習サークルに参加することも推進する。
● 認知症高齢者の支援	● 毎月第〇〇曜日と決めて公民館やウェルフェア等で認知症カフェ的な事をする。ボランティアと一緒に認知症の方が給仕をしたり、その一角に相談ができるようなブースを設けたりして、誰でも気軽に足を運んでしゃべっていただける場を作る。
● 福祉施設の拡充。従業員の育成。	● 介護施設等において、働く人の現状は、厳しい環境のもと、低賃金であり、仕事内容に見合う賃金ではないと思われます。見合った賃金を支払う企業努力が必要だと考えます。
● 要介護認定者人口の増加	● いきがいをもって老後を過ごせるための事業の実施の強化。雇用機会の増加のための支援、予防教室の実施など。
● 老人夫婦のみ単身世帯、独居老人の増加が予想される。本人が支援を必要とする意志判断もできないような認知症患者にどう福祉サービスを提供するか。介護者となる家族から見放されたようなケースをどうするか。	● 高齢者に対しどう接することが必要か周知の場を設ける。(小学校や商工会議所などを対象とした講習会の場を設ける) 交流の場を設ける。必要な手続きをすることが困難な老人に対し、代行して手続きを行う、市民後見人の育成

22 障がい者福祉の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 子どもの障がい福祉の充実	● 幼稚園や保育園に入園した時に支援担当者の配置を確保:人材不足でカットされがちであるが、短時間勤務職員の増員を図る。
● 障がい者雇用のための訓練施設等の不足。	● 就労支援センター、ハローワークとの連携強化。
● 土岐市には身障の入所施設がなく、近隣の施設はいっぱい、遠方の施設に入るしかない障がい者の方々や、入りたくても入れない方が大勢います。市内に施設ができるのが一番いいと思いますが、国の基本方針は入所施設定員数を減らしていく方針なのでそれも難しいです。在宅で介助するにも、家族の協力が必要で、地域の福祉サービスの充実が必要と思います。	● 在宅でお世話をし、ヘルパーを利用しても、やはり家族の介助にも限度があると思います。家にいた時は褥瘡ができたり、体を動かさず、衛生面もいいとは言えなかったが、施設にお世話になってから、規則正しい生活ができ、定期的に体を動かしたり、他の入所者と交流ができて明るくなった等といった例があるので、できるだけ在宅で介助ができるように、障害福祉サービスの充実と、親亡き後の住まいの場としてグループホームの整備が必要と思います。

23 社会福祉の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● ふれあいサロンの充実	● 歩いて行けるところに毎週行けるサロンができることをめざし、ボランティアの育成をする。何かボランティアをしたいと思っている市民の方は少なからずいると思うのでまずはそういう人の発掘をし、講習を受けていただいて、各地区でサロンの立ち上げをしましょう。
● 現在の社会基盤を担う中高年世代が不安なく生活できる魅力ある市であれば生活拠点を	● 福祉施策は多種多様なニーズがあり難しい問題であるが、今現在実施している実施している中学3年生までの医療費補助制度の継続及び補助範囲の高校3年生までの拡大を行う。就労環境の整備とし

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
土岐市とする可能性があると考え。そのためにも社会福祉政策の充実が必要と考え。	て、市内在住求職者で土岐市内は基より東濃西部圏及び春日井市、瀬戸市位までの範囲で求職するものに対し、また市外在住求職者でも土岐市へ移住を条件に就労援助給付金を給付し市内在住者の就労率を増進させる。
● 高齢者や障害者の在宅介護は介護者が既に疲弊状態であるため、本人及び介護者をサポートする必要が急務である。	● 社会福祉施設や、在宅介護サービスの充実。それに伴う雇用の安定。労働力のある高齢者の活用。
● 子ども、高齢者、障がい者等弱者が生きがいや希望をもって生活できる施策と町づくり。	● 高齢者・障がい者が生活しやすい環境整備、障がい者が社会参加できる仕事環境や、福祉環境の充実・育児に疲れ、育児放棄して乳幼児施設に子どもを預け社会参加(仕事)をしたいと希望する親が増えているが、子どもの幸せを考えると3歳までは親が面倒を見ることが理想なので地域の高齢者と育児中の親を結びつけ、高齢者の子育て経験から悩みを相談したり時々は高齢者に子どもを預けてリフレッシュできる様な施設や環境を作ることで、高齢者も社会貢献ができ生きがいになるのではと思う。
● 若手陶芸家は芽が出るまでは生活が苦しい。中学生までの小さい子どもを持つシングルマザーは子どもの生活を大事にしようとするが就職先が見つからない。空き家の増加。	● かつては近隣が声を掛け合ったり、あまったおかずを分け合ったりして、お互い助け合って生活をしてきたが、現在は核家族が増加し、プライバシーを優先し近隣と助け合って生活することが少なくなってきたが、現在は、核家族で生活できるほど経済力が高い家庭が増加してきている。そこで、共同生活できる長屋を創設し、陶芸、シングルマザーなど同じ目的を持ったり、境遇となっている人同志が助け合って生活できるような場を提供し、共同炊事場、共同浴場、共同トイレを併設するなどして、各人の生活を支援する。若手陶芸家の長屋には共同利用できる窯や作業場が併設。
● 病院・保健の充実、地域・児童・高齢者福祉を含めて「社会福祉」として選択いたしました。今後、益々高齢化が進むことが予想されます。医療機関の充実は不可欠ですが、「土岐市立総合病院」は、医師不足等から総合病院としての機能を果たせていない様に感じます。結果、市外に通院せざるを得ません。高齢化社会で安心して生活するためには、地域の病院・保健(医療費の増大に備えて)の重要度は高いと思われます。また、少子化に歯止めをかけるためにも、病院・保健の充実、児童福祉に重きを置くことが必要と感じます。	● 大病院(総合病院)の医師の業務は本来の診療の他多岐に渡る為、それを負担に感じるケースが多いと聞きます。医師の業務の一部を看護師、技師、事務職員等が代行出来る制度改革が必要であると感じます(国レベルの対応になるかと思いますが)。また、地域の開業医と連携し、地域全体で患者の治療を行うネットワーク作りも重量であると思われます。更に、総合病院は、女性医師が勤務を続ける場としては福利厚生面で不足が有る様に思われますので、結婚・出産後も安心して働くことが出来る環境整備が必要であると感じます。復職プログラム、短時間勤務と代替職員の確保、託児制度の充実等。
● 離婚率の増によるシングルマザーの増加、子どもの貧困、外国人など、社会から孤立し、社会に適応できない人が増加している。	● 地域コミュニティの再生のために、向こう三軒両隣支援運動の実施と、その活動の中心となる「おせっかいおばさん」の認定

24 保険・年金の健全運営

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 国保を始めとする、公租公課の徴収率の上昇	● 収納・徴収部門の一元化を行い、賦課との切り離しを行う。賦課を理由とした納付の渋りを排除する。
● 将来安心して生活ができるた	● 病院にかかる回数を減少させることを考えていく必要がある。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
めに、健全運営に取り組む必要がある。	
<ul style="list-style-type: none"> ● 全国的に、国民健康保険、後期高齢医療保険、国民年金などの制度の安定運営の継続が危惧されており、抜本的対策については国に依存せざるを得ないと思っている。 ● しかし、他市との比較において、また、負担と給付のバランス面で全国レベルの中央値を維持できるような、市や地域での対応・施策が採れないとすると、消滅都市グループに入ってしまうのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●
<ul style="list-style-type: none"> ● 滞納者はいろいろ公共料金を滞納しているということがよく言われますが、元を正せば制度上、負担の対象が滞納している人に偏っているという現実があります。特に国民健康保険は、かつての自営業者の保険から無職無収入の人の保険という色合いが濃くなってきております。にもかかわらず、制度は変わっていないため、少数の収入のある人や固定資産を有している人でその財源を負担するというゆがんだ形になっております。例えば、去年は職があったが今年になって失職した人や固定資産を有しているが、事業がうまくいっていない人は、たちまち生活困窮に陥るという事態が起きています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来的に保険者が県になりますから、制度が変わると期待しています。それはさておき、財源を抜本的に見直す必要があると思います。地元の自営業者の現状を鑑みれば、毎年こうした人の負担が増えていく現状を見直すべきです。また、国保は退職者が加入しますが、保険料の計算対象が前年分の収入である場合の問題も是正すべきです。国として国民皆保険制度を維持しようとするならば、一般会計からの繰り入れも検討をするべきです。(今も繰り入れはありますが、毎年保険料が値上がっている状況は繰り入れによっては是正すべきです) そのほかにも擬制世帯主の制度など現実にそぐわない制度も見直していく必要があると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 滞納者を減らし、被保険者間の公平性を保つこと。自営業者、高齢者の多い国保世帯には年々上昇する保険料負担が重い、保険料率の上昇を抑えることが重要だと考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 滞納者については、税・国保・介護・水道等と共通していることが多い、滞納者専門の部署を作る。中学3年生までの医療費無料化は良いと思うが、軽度でも気軽に受診できてしまうため医療費の増加につながっている面もあると思われます。そのため、通院については自己負担があってもよいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 滞納世帯への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 滞納額が少額であるうちに定期的な電話催告を行う。悪質滞納者に対しては差し押さえ処分を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 年々、年金額が減っていく現状は、特に若い世代は不安が大きいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 更なる企業誘致や新産業、商業、観光等の振興により、若者や子育て世代が永住し、住みやすく、活気ある土岐市にしていく。

25 環境保全の推進

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 快適な生活環境や住みやすい自然環境は、生活の基本で、住居を選ぶ場合の第1の要素 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水、土、空気などを良好に保つための施策（森林緑地の確保、工場等の規制、ごみ処理等）に対し、高レベルでの取り組みを続ける。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>であると考えから、環境保全を先ず推進すべきだと思う。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 商業施設建設、企業誘致などは環境面（自然環境、住環境など総合的に）において負荷も大きいと感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境保護、浄化技術を主とする企業進出における税優遇措置や市内で行った一定規模以上の活動への奨励制度など（環境にやさしい企業をPRしたい企業は昨今多い気がします）
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市はたくさんの自然が残っているまちです。四季折々の花や山々、夜空に輝く星は、今後もあたりまえのように残ってほしいと思います。市全体でこの環境を守っていく気持ちをもってもらえるように意識の啓発を図ることが大切ではないかと考えます。また、自然が豊かなまちとして土岐市の知名度アップを図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地域（町内）の自然を活かした体験プログラムを組んで、市外の方に参加していただけるようにする。今は、市内向けのものが多いような気がします。
<ul style="list-style-type: none"> ● 良い環境が保たれていることの価値は益々増大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境を保全することの大切さをPRする。

26 廃棄物処理・リサイクルの推進

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 安定した「ごみ処理施設」。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成42年以降に新焼却設備を備えた処理施設と最終処分場を計画する。
<ul style="list-style-type: none"> ● ゴミの減量化 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴミ袋の有料化 ● 資源ごみ回収日増やす（燃えないゴミ回収日を減らす） ● ゴミを減量化するには市民個々のゴミ減量化とリサイクル推進の意識醸成が重要であるが、そこへ導く動機づけとしては、ゴミ袋を有料化することが最も効果的であることは他市が実施してきたゴミ袋有料化後の減量割合を見れば明らかである。また、現在月1日と少ない資源ごみ回収日を増やせば、より一層リサイクルの推進が図られる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 環境センターの民間委託 	<ul style="list-style-type: none"> ●
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在のゴミ収集（資源ごみ、燃えないごみ）のステーションのゴミの量の状況が逆転しているようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、資源ごみ月1回、燃えないゴミ月2回を逆転させ、資源ごみ2回、燃えないゴミ1回にすれば、埋立地の長期使用が可能になり、町内の資源ごみ報奨金も増えるので町内の活性化につながる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 資源ごみ分別回収の成果の見える化、見せる化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市は、いち早くごみの分別、リサイクルに取り組んできた実績があり、土岐市の長所である。ただし、実際にリサイクルがどの程度、成果をあげているかは見えていない。数字の提示、収入がある場合はそれを地域にどのように還元されているかなどの見える化、見せる化を行い、さらに先進的な取り組みを行えば、土岐市の長所が具体化してくると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 資源物の収集の項目を増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、空き缶、ビン類、ペットボトル、紙類に分別しているが、今後、最終処分場の埋立残量が減少することが考えられるので、可燃ごみ、不燃ごみの中から資源となるものを選定し、資源物収集を行い、最終処分場の延命化につなげていく。
<ul style="list-style-type: none"> ● 次期ゴミ焼却施設の建設に向けた立地場所の検討及び財源対策としてのゴミの有料化を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期総合計画において方向性を検討する

27 交通安全の推進

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● イオンモールができることによる交通量の増加が見込まれる。	● 泉地区のような、事故の発生しやすい交差点の色分けなどを今後、増やしてもらいたい。濃南地区は、冬場はカーブミラーが凍結しているため、凍結防止のミラーの設置が望ましい。
● 自転車で市役所周辺の道路(路肩)を走行中(通勤等で)に自分が運転してる自転車の後方から車(特に大型車等)近づいてくると、車にひかれそうな気がしてとても危険だなと思います。	● 自転車専用道路等を作って欲しい。
● 信号無視・携帯電話・高齢者の運転などの問題	● マナーを具体的にしたチラシを定期的に配布していく。また、各種団体の会合でも啓発を呼び掛ける。
● 大型の商業施設ができることで交通量が増え事故数が事故対策が必要。	● 事故が起きそうな場所を早期に改善すべき。

28 防犯の強化

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 安心して出歩くことができる地域の確保	● 若い世代の見守り。地域での声掛けが必要。
● 安全で安心な町づくり	● 夜間の街灯を増やすなどして少しでも危険である所を減らす必要がある。
● 駅裏の駐輪場に自転車を駐輪してたら、自転車の前照灯を破壊された。自転車に付いてる盗難防止用の鍵も破壊された事がある。	● 防犯カメラを付けたり、有料化しても構わないので駐輪場専用管理棟などを作って駅裏と駅前の駐輪場の防犯対策を強化して欲しい。
● 近年、無差別殺人や弱者を狙った犯罪が増えている。現在の防犯体制では、弱い部分があるが、住民全体を対象として、防犯強化することは困難かと思う。児童・生徒の安全に焦点を当てる。	● 行政もある程度把握していると思うが、地域にお願いし、廃墟・見通しの悪い箇所などを重点的に拾い上げ、その成果を精査し、特に下校時に家路につくまでに危険なところについては、大人を複数配置する。ボランティアでもよいが、責任と効果をはっきりさせるために、例えば警備会社に委託してもよい。PDCAサイクルを実施し、無駄がないよう検証する。運営費については、一部を行政が補助する形でよい。地域と行政が連携し、子どもを守る。
● 市民の高齢化が進む中、空き家や未管理地の増加が見込まれる。街の景観の悪化や防犯上の問題がある。	● 放置家屋の取壊しの促進、未管理地の整備等、相手があるため施策として取組には非常に難しい問題であるが、国への法整備の呼びかけ、条例化により補助金等の整備等によって、市民が少しでも協力してもらえるような環境をつくり上げる。
● 低年齢の子供が犯罪に巻き込まれるケースの対応策	● まずは地域ぐるみで防犯改正を強化する必要があると思います。不審者や怪しい行動を見かけたら、どんなに些細なことでも情報の共有をすることが重要です。また、自分の身は自分で守るよう深夜や危険な箇所への出歩きは控えるよう家庭内での教育が必要だと思います。
● 土岐市の町は街灯が少ないため暗く危険な場所が多い。安心して暮らせるためにも街路灯の設置が必要ではないか？	● 街路灯の設置場所の増大
● 犯罪の増加	● 防犯灯などの設置

29 消防・救急の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 救急出動件数は年々増加しており、現在の消防職員数での行政サービスは限界にきている・濃南分駐所の24時間体制問題も職員不足のため着手できない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 早期の職員増加が必要・現在の2署1分駐所体制から、1署1分駐所に変更することで職員数不足は多少改善が期待できる・1署1分駐所体制とすると消防車両数の削減や濃南分駐所問題も解決できるが、現場到着遅延が予想される
<ul style="list-style-type: none"> ● 高規格車両の配備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフ巨大地震に備えて、災害現場のあらゆる悪路も走破できるレスキュー車「全地形対応消防車」の購入。
<ul style="list-style-type: none"> ● ここ数年で、救急の出動件数は右肩上がりが増えてきている。救急出動が重なってしまったり、先に述べた土岐市立総合病院の受け入れが困難な場合が多く、他市への搬送を余儀なくされるため、帰ってくるまでの時間が伸びている。そのため、市内の消防力が著しく低下しているのが現状である。救急出動が立て続けに入れば消防署の残留人員も当然少なくなり、次に火災や救助があれば、その少ない人員で対応しなければならず、1分1秒を争う現場ではそれが人名にも直結してしまう。また、今後は風水害や地震などの大災害も危惧されているため、現状の人員での対応は非常に難しいと感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防職員の定員数を増やしていただきたいです。また、濃南分駐所も夜間は人がいないため、南署から出動すると15分から20分かかり、濃南地区の方にとって、不平等ではないかと感じる。全国的に見てもこのように夜間のみ人がいない消防署はないと思うので、濃南分駐所の24時間化も検討していただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ● 救急件数増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に搬送できる救急病院を充実させる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 救急車適正利用について 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般市民に対する広報活動をもっと実施すべきである。
<ul style="list-style-type: none"> ● 救急出動件数が増加し、総合病院の受け入れ態勢が整っておらず他市の病院へ搬送しているのが現状で、他事案の出動が少ない人数での対応となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員数の増加
<ul style="list-style-type: none"> ● 救急出動件数の増加及び平均現場到着時間の遅延化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化の影響や救急現場で行う処置の高度化に伴う活動時間の長期化等の影響もありますが、緊急性の低い事案の出動件数（タクシー代わりや救外が混み合うので早く診てもらいたい等）の増加が大きな要因と考えられます。よって、市民への救急車の適正利用の広報の強化や医療関係者への適正利用促進のための理解と協力（緊急性のない傷病者は救急搬送でも救外受診者と同じ対応にする体制、受診の電話相談等で医療従事者から判断して明らかに緊急性の低い人に安易に救急車の利用を勧めないことや、医療従事者から傷病者への直接的な啓蒙活動等）が有効と思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 勤務者の人数が足りていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1日の勤務人数を北署、南署とも2名程度増やす。今の実情では消防学校等への出向者がいた場合休暇がとれないのが実情です。
<ul style="list-style-type: none"> ● 緊急、不測の事態への対応は、迅速、可及的であるほど価値があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、救急においては救急件数が年々増加し、約15年前と比較すると2倍の件数となつ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員数の増加

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>ている。職員数や車両数は15年前と変わっていないのが現状で、なおかつ総合病院の受け入れ状態が良くないので、他市の病院に搬送する件数が格段と増加した。結果、帰署時間の延長により他事案に出動するのが他署であったり他市の要請など悪循環となっている。また、少ない人数で多くの車両を受け持つので、特殊事案では人数不足から現場活動の延長や災害の拡大など招く恐れがある。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者増加に伴う救急件数の増加への対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防職員の増員。消防団員確保のための取り組み強化。
<ul style="list-style-type: none"> ● 災害への出動件数が増加してきており現在の職員数での行政サービスは限界にきているのではないかと。職員不足により濃南分駐所の24時間体制への着手ができず、災害発生から現場到着までの時間を要してしまうこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員数の増加。
<ul style="list-style-type: none"> ● 災害件数の増加、専門教育派遣及び病欠等により人員不足となり、重複災害への災害対応力が低下している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員定数の見直しが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の生命、身体、財産を守るという中で、いかに災害を最小限に食い止めることができるか。災害発生時の初動体制の充実をさせることにより、現場活動開始時から充実した活動が行うことができると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員数の増員。増員に伴い各種研修会への参加等により知識技術の習得をする機会も増え、消防力の強化につながると考える。
<ul style="list-style-type: none"> ● 出動件数の増加により、出動回数が増え出動中に他事案があると対応できない事態が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員の増員ができると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 消防活動及び救急活動の質の向上について 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員数が足りていないことが第一に挙げられるが、他市の消防本部に比べて平均年齢が若いいため職員数の増加とさまざまな研修等に参加できるような体制があると良いと感じる
<ul style="list-style-type: none"> ● 消防職員の数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 救急件数の増加や今後起こるとされる大規模な地震等に備えて、消防職員の採用枠を増やしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ● 消防職員数の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定員数の増加、若しくは消防署を土岐市中心部に1署にまとめる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 消防団組織の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域への消防団活動の啓蒙。特に土岐ヶ丘など新興住宅地に対して。
<ul style="list-style-type: none"> ● 消防力の強化（消防団員について） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防団員の研修の充実と負担軽減が必要だと思います。現状消防団員の負担が大きすぎ、若い世代がついていけません。消防団員に過度な負担を求めると、若い世代の人口流出につながってしまう恐れがあります。操法大会などのあり方を見直して負担を軽減させ、実践的な訓練を充実させて団員のレベルアップを図り、消防力の強化につなげていく必要があると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 職員数の増員をするべきであ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市民の財産を守るためには、職員数が少ないと考えます。職員

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
る。	数を増員して、消防力を強くする。
● 地震・風水害や高齢化に伴う救急需用の増大と処置拡大に要する各種技術向上のための研修派遣等により、消防職員不足など災害対応困難事象が危惧される。	● 増員を図り、消防体制と保安を確保する。

30 防災の強化

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 行政・市民向けの防災研修の開催（複数回） ● 建造物（道路、橋、建物他）の耐震強化 ● 防災士、防災リーダー養成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 以前、「大災害が発生した際、行政として如何に対応するか。」といった内容の研修を受けさせていただきました。有意義な内容であると感じましたが、発生直後は大混乱し、一度研修を受けただけでは、知識を活かすことは難しいと思われます。定期的な受講の必要性を感じますし、「行政」としての立場のみでなく、「一市民」としての立場の研修も必要であると思います。更に、一般市民向けの研修も定期的で開催し、日頃から防災意識を高めておくことが重要であると感じます（災害発生前の対策と、発生後の対応方法等）。耐震強化、防災士・リーダー養成といった行政レベルでのハード面の拡充は勿論ですが、上述の様な個々の意識強化というソフト面の充実あってこそ、ハード面がより機能すると思われます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 近い将来起こると言われている大地震に対し、防災計画はできているものの、実際の動き等の訓練が少なく、あまりイメージができない。また、異動すれば役割が変わるなど定期的な訓練が必要。また、市民だけではなく、たまたま土岐市に来ているだけの、土地勘のないような人に対する案内が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土地勘のないような人に対する案内（避難所や連絡先、避難所の方向など）は、市内に看板のような形で出しておいても良い気がする。また定期的な職員の訓練をした方が良いのでは。
<ul style="list-style-type: none"> ● 近年、自然災害による災害が多くなってきており、当市でも起こる可能性が高く災害に対応できる街づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総務課防災係を中心とし、市として災害に対応できるようにしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ● 近年、地震や洪水などによる大規模な災害が日本各地で起きる中、この地域においても大規模地震がいつ起きてもおかしくないとされており、その対策、住民の防災意識向上が急務である。特に意識面において、大規模災害を経験した世代も少なくなってきており、経験をしていないぶん、若い世代ほど防災意識が希薄なように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在既に行っているが、地域ごとでのD I Gや防災訓練をより具体的な事態を想定して行っていく。細かい地域で行うことで万一の際の近所での連携を確認する。参加者は自治会役員などどうしても年齢層が高くなるため、若者を対象とした訓練、講演会を行うのもよいと感じる。また、広報紙などを通じて、防災意識向上のための啓発をしていく。また、災害が起こった際、職種に限らず市職員が中心となって避難所を管理していかなければならないが、実際にそうなった際にテキパキ動けるかという今の状況では難しいと感じる。避難所が開設された時の動きや、防災グッズの使用の確認など、職員の教育も今後必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高度経済成長期以降施工した既存インフラの一斉老朽化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 限られた予算の中で、今後老朽化するであろうもの全てを一度には直せないため、重点箇所を洗い出し、長期計画をたて地道に対策をとる従来の方策ベストであると思う。この重点課題は、32 道路・河川の整備と、微力ではあるが地元経済の消費による地域活性化へとつながる可能性があると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者世帯のみの世帯が増加することが予想され、災害時 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者世帯の把握、連絡網の整備、日常のコミュニケーションを図っておく。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
の対応についての具体策。	
● 今後起こりうる自然災害等への備え	● 自治会単位での防災訓練や防災講話などを通じて、物資の備蓄などの備えのみではなく、自分たちの生命や財産は自分たちで守るという意識を育てる。
● 災害に強いまちづくり。	● 庁舎の建て替えと、各施設の耐震工事が必要。「安心」に繋がる。
● 災害に強い街づくりが重要であり、市民が安全に暮らせる仕組みづくりを構築していく。	● 共助・公助用資器材の更なる充実。
● 災害弱者の把握。高齢者の増加に伴い、単身の独居老人に増大も考えられる。こういった方は災害弱者となりえ、救助等がおくれてしまう。地域に認識されていけばよいが、疎遠となり近隣ともコミュニケーションがとれていなければ、取り残されてしまう可能性すらある。	● 消防団員の有効活用。パトロールや地域でのイベントで地域の方と接する機会はあるものの、実際の活動は消防操法等に注力され、防災的な活動はあまりなされていない。本来なら、地域防災の強化をもっとも有効に担えるはずの消防団が、実際は部活動と大差がない状態である。独居老人の住居マップを、ベースは市の住基等から作成し、実際の調査員として消防団を活用する。地元地域の間が、顔を見て把握していることが大事だと考える。
● 昨今の自然災害から防災の強化が急務。ゲリラ豪雨や大震災など何が起きてもおかしくない世の中になっているからこそ、それらに対応できる力が必要。	● 災害が起きた際、各課での役割分担とは別に、職員一人一人にも何らかの役割を持たせる。災害に関する研修を受けても、異動により課が変われば関係がなくなるのでは意味がなく、また、職員一人一人の性格もあることから、指揮するもの、準備するもの、すばやく動くものなどそれぞれの性格に合わせた役割を持たせることが必要。大災害が起きた際には、特別配置としてあらかじめ組織建てしておき、いつでも動けるような体制を整えておく。
● 昨年、突然の大雪で、曾木町につながる道が塞がれて一時孤立したことがありました。近年は続く異常気象のために、市内のどこで突然の災害に見舞われてもおかしくない状況で、より迅速な災害情報の把握・周知が必要であると思われまます。また、市民1人1人が、災害等に関して、必要な情報を必要な時に得られるような防災に関する知識の周知が必要かと思われまます。	● 土岐市の防災用SNSを作って、災害に関する情報を市民が投稿できるような仕組みを作るのがいいかと思います。災害現場に直面した方が、スマートフォンで写真を撮って投稿すれば、市にもすぐに情報が入り対応しやすいですし、登録している市民にもすぐに現場の状況が周知できます。また、それに絡めて災害に特化した形のスマートフォン教室などを行えば、災害情報、台風情報、河川の水位が見られるサイトなどの見方を指導できたり、防災用SNSがあれば、その登録の推奨や、投稿の仕方を教えることができ、市民の防災に関する意識の向上に繋げることができるかと思われまます。
● 山間部（濃南地区）は自然災害等により孤立も考えられ、ドクターヘリコプター及び防災ヘリコプターが広域的活動ができるようにヘリポート整備が必要。	● 現状はグラウンド等を離着陸場に指定しているが、離着陸の際に砂塵等を防止するため散水が必要であるが支援隊の到着にも時間を要するためヘリコプターの機動性が発揮できない。ヘリコプターが安全に離着陸できる着陸帯を整備してほしい。
● 市民の意識レベルを上げる。	● 市全体としての防災訓練や町内レベルでの防災訓練など現在行っていない範囲での防災訓練を実施する。自主防災組織を活性化するためのきっかけづくりとなる事業を実施する。防災に関係する行事を増やす。
● 市民の防災に対する意識高揚を図る。	● 大規模地震等の発生が危惧されるなか、自主防災訓練実施も増えてはいるが全体から考えるとまだ実施が少ないと感じる。
● 市民の防災の強化意識を高めること。	● 【提案】現在土岐市でおこなっている、消防からのメール配信サービスを生かし、定期的に防災意識を高める内容のメールを配信する。（例：防災時の家族集合の場所の確認、火災の起こりやすい時期の焚火の注意等）

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 市民間の防災の意識を高める	● 自治体がいくら呼びかけをしても、防災は住民の意識でほぼ決まると感じる。住民が防災を考える場を提供して考えてもらうべきである。
● 私、自分は大丈夫だという考えが多いように見えるため災害に向けての何らかの予防策がとれていない	● もしも災害に合ってしまった場合の打開策を考える。地震などの自然災害をはじめ火災などの対策を考える。
● 自主防災組織は町内の役員で構成されている地域が多く任期も短い、また訓練等実施されていないのが現状と思われる。	● 災害による被害を最小限に留めるためには、市民の防災意識の向上が必要。町内会の行事等にあわせ防災訓練等を取り入れる。
● 自助・共助の意識を高めていくこと	●
● 将来起こりうる東海地震に備えた災害対策	● 災害を想定した避難訓練
● 大規模地震等の災害への備えが必要。庁舎の新設等公共施設の耐震化は進みつつあるものの、一般住宅の耐震補強は進んでいないように思われる。	● 災害により被害を受けた場合の復興費用より、被害を最小限にするための取組費用のほうが少なく済むと思われる。市レベルの話ではないかもしれないが、耐震補強に対する費用面の補助等により促していく。
● 大地震等の雑賀に備える。	● 万一に備えての、市民参加の防災訓練の充実を図る。
● 大地震等の大規模災害が危惧される近年、地域防災力の更なる向上が求められる。	● 現在、各地域で図上訓練や防災訓練等は実施されているが、いつ発生してもおかしくないという現状を再度認識していただき、防災力の更なる向上を図るべきである。
● 大地震等の大規模災害が危惧される近年、地域防災力の更なる向上が求められる。また、職員数が少ないため、職員の増員を強く要望したい。	● 近年、消防資器材の整備は従来と比較しても、車両の更新をはじめ資器材等も頻繁に更新していただいている現状である。しかし、職員数が不足しており、資器材および車両が更新されても扱う職員の絶対的不足のため、実働職員が不足している。2署1分駐所ということを理解していただき、職員増員を強く願う。
● 地域防災力を高めるために自主防災組織の必要性が言われているが、現在の自主防災組織は、自治会の役員が担っているような状況にあり、役員任期が終われば組織が変わるような仕組みとなっているため、長期間地域防災を担うことができず、十分な知識等を得ることができていない。このため、実際の災害時に自主防災組織が十分に機能するとは考えづらい。	● 各地域に防災士等の自主防災の核となる人材の育成をし、継続した組織づくりを実施する。
● 土砂災害警戒区域や、氾濫指定区域などの整備。	● ハザードマップなどで各種の危険区域を指定はしているが、実際に知っている人は少ないと思う。そのため、少しでも知ってもらえるように各家庭に配布するなどがあっていいと思う。
● 東海地震があるといわれており、防災の強化は必要と思われる。	● 市民を交えた訓練や、避難場所、市の備蓄等を市民に知ってもらい、個人でも必要なものの周知が必要である。
● 東南海・南海地震が今後 30 年以内に発生する確率が高いと言われている。災害に対する防災の強化が必要。	● 各々が防災に対する意識を高めるほか、最新の防災機能、グッズ等活用する。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 東南海地震による対策	● 市民に対して危機感を持っていただくようにすることが必要だと思います。
● 南海トラフの巨大地震が起これると言われているが、先の危機に関して鈍感になってしまっている。有事のための備えが必要である。	● 新たに施設を作る際に、本来の機能とは別に他の機能を持つ備品を設置する。例) ベンチを変形させると火を使える仕様で、炊き出しに使える。市内の消化栓の情報を共有し、ライフラインが途絶えた時に、使用できるようにする。
● 南海トラフ大地震等の災害に関心を持ってもらう。	● 一般市民の方に危機感を持っていただけるように、各地域で防災講話をしていくといいと思う。
● 発生の懸念されている大地震に対し、各地で訓練がされているところではあるがそれをいかに発災時に有効に生かすことができるか。	● 阪神・東日本大震災において被災された方の講演等により、さらなる防災意識の向上を図る。
● 風水害等に対する防災体制の強化と自分たちのまちは自分たちで守るという自助・共助の意識の促進を図る	● 地域自治会を中心に消防団、民生委員等が連携して災害時における災害要援護者への対応を検討する仕組みを構築する
● 防災・防犯・消防については、それぞれが別々の体制であるため、横の連絡が密に取れていない。有事の際には機能しないと思われる。	● 新庁舎建設時に危機管理部門を設け、災害等の情報は一か所で集約、常に手元で情報を管理し迅速な対応ができる体制とする。消防指令センターを市庁舎内に設け、24 時間 365 日管理できる体制を整える。また、夜間窓口業務にて各種情報が受信できるようにし、安心して暮らせる体制づくり等をすすめていく。
● 防災に関する理解度の差があると考えます。	● 防災について考えたり、学ぶ場を作る。多くの人に詳しく理解をしてもらう。
● 防災の強化	● 今後の大規模な自然災害や人為災害に備えるため、町内レベルで防災意識を高めるための講習や市職員のマニュアルの周知・徹底など、引き続き自助・共助・公助に努めるべきと思われる。
● 本市は、幸いにも自然災害が少ないが、いつ起きてもおかしくない東海地震に備える必要がある。	● 自助・共助・公助の考え方を地域で学ぶ機会を作る。自治会毎に研修会を開催するなど。
● 木造住宅の耐震化が進んでいない。 ● 対象となる木造住宅は、築32年以上経過しており、老夫婦が住んでいる状況が多く、耐震化をするにしても時間的にも経済的にも躊躇している方々が多い。	● 建替え住宅の推進 ● 建替え住宅に対しての解体補助（現在の耐震工事補助の市費30万円/件）。 ● これは、空き家の建替えや定住促進につながり、固定資産税の増加につながる。 ● また、結果的に耐震化されるため震災後の対応として処分費の削減につながるものと考え。 ● そして、建設業の活性化に繋がる。
● 老朽化したインフラ	● 計画的な整備

31 中心市街地の整備

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● アウトレットにより土岐市に多くの方が足を運ぶようになりました。今後、テラスゲート、イオンモールができることにより、さらなる増加が見込まれると思います。その中で、土岐市の街への還元がされていないのが現状と思います。土岐市全体としてアウト	● まず駅前商店街の整備、開発を引き続きおこなう必要があると思います。多治見、瑞浪、恵那、中津川、どこの市を見ても駅前商店街の整備が整い、市のメインストリートとし、地元のグルメや地域に根付いたお土産等の発進場所ともなっています。いろんな場所に点在させるよりも、1箇所に集めた方が分かりやすく足を運びやすいと思います。仮に駅前の整備が済み、多くのお店が出展できた際は、上記施設に観光パンフレットを配備することで多くの方の目につき、パンフレットを手に取り、実際に足を運んでもらえる可能性が増えるのではないかと思います。（現時点での土岐市の観光地をま

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
レット等に足を運んだ方をどのように取り込んでいくのが課題と考えます。	とめたパンフレットを配備するのもよいかと思います。)
● その町の顔ともいえる駅前商店街が閑散としてしまっている。他市特に遠方からの電車利用者に土岐市は何もない所だと印象付けてしまうのでは。	● 土岐市住民が利用しやすい環境の整備、観光客向けの店舗等の充実など
● 駅周辺が活気がないように感じる。土岐プレミアムアウトレットができ、休日には多くの方が土岐市へ来られていますが、インター付近ということもあり、他の場所にも立ち寄って…ということは少ないように感じる。	● ぶらぶら歩きながら、見て、食べて、ゆったりできる場所になると良いと思う。公共交通機関もあり交通の便も良い駅周辺に人気のあるパン屋さんや雑貨店、カフェなどができれば、人が集まりやすくなると思う。そこに陶器づくり体験のできるお店や、陶器の器や小物のお店なども併設することで、焼き物にも触れてもらえる機会が増えるのではないかと思う。
● 駅周辺地域の再開発	● 駅周辺一帯を区画整理し、駅へと至るアクセス網を充実させる。
● 駅前、新土岐津線の改修終了と駅前広場開発から、街のにぎわいを取り戻す。	● 駅前を乗降車場だけでなく、市民が電車利用以外にも集まり、憩うことができるようなショッピングセンター等を誘致する。
● 駅前の活性化	● アウトレットなど市外、県外からくる人にもっと土岐市をアピールできる場所を設けては？
● 駅前の商店街の多くが昼夜問わずシャッターの降りている店ばかりである。	● 中心市街地の整備だけでなく商業施設の充実を図るためにも。商業施設の誘致など今後一層力を入れる必要があると思う。
● 駅前の商店街は閑散としており人通りがないため商店が商売にならず店舗が減ってゆくという悪循環である。また大型商業施設は市の端にあるため中心市街地には人が集まらない。	● 市役所の庁舎を駅周辺に立地し、まずは人が集まる場所を作る。市がまとまった貸店舗を作り家賃を安く貸し出す。
● 駅前の整備がなかなか進んでいない。シャッターのしまった商店街、古い長屋住宅、さびれた駅前、駅裏になってしまっている。ここ何年と、新店舗がなかなかできていない。この場所で新店舗を構えたいと、思える街に。	● 現在の駅裏を駅前にすることで、国道からのアクセスをよくする。国道から駅までの新しい通りに、新店舗や今まであった店舗を移転し、援助金等の待遇を行う。
● 駅前は暗く、商店街もさびれてしまっている。道が広くなるだけで交通の便利がよくなり、随分とイメージも変わる。既に駅前広場の整備の計画が進んでいて楽しみです。土岐市の玄関なのでもっと活気ある明るい場所になって欲しいと思う。	● 夜になると、駅前からアウトレットがきれいに見える。駅前もイルミネーションで飾る等、話題性や華やかさが欲しい。住みよい整備された街はもちろん、夢のある「土岐市のシンボル」的なものもあると良いと思う。道を広げ、学習塾などが進出して来ている。駅への送迎に加え、塾への送迎で車の交通量も増えている。駅前に店を出店したり、リニューアルするのに補助金を出し、おしゃれな店を開いてもらうよう誘致する。建物の色あいを統一するなど、歩いてみたい駅前にする。アウトレットや市内の観光案内ができるような観光案内所を駅前につくる。
● 駅前及び国道 19 号沿線の活性化	●
● 駅前景観整備	●
● 駅前広場の整備	● 新土岐津線拡幅整備や駅前広場整備計画が続き、商店街の活性化も重要。すでに新庁舎準備室も立ち上がっているが、商店街に役所(一

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
	部の課)を入れて役所商店街にする。
● 駅前広場の整備	● 利用しやすい広場の整備
● 駅前商店街と郊外商業施設との連携	● 郊外商業施設と駅前商業街とで委員会を設立し、地域活性化のためのミーティングを定期的実施することで互いを協力・競争しあって相乗効果的に地域が活性しあえる環境を整備する
● 駅前商店街の状況が気になっています。人口減少や高齢化等により、活気がないと思われます。中心市街地を活気づけ、長く土岐市に住んでもらえるよう、魅力あるまちづくりをする必要があるのではないかと思います。	● 2019年にはイオンもできる予定で、将来的に土岐市駅の利用者も増えると思います。市外、県外からの観光客が駅前でも楽しめるよう、駅前通りを整備し、若い人たちが利用してくれる新しい店舗の参入を促進してほしいです。
● 駅前商店街を昭和40年代、50年代の様にする事は、時代の流れに反することである。地方再生でなく、地方創生と考えれば、商店街ではなく、全く違うアプローチが必要ではないか。	● 駅南の地区は虫食い状態で土地が明いているので、これらをうまく活用して大きな空地を作り、市役所を移転することもひとつの手段だと思う。
● 駅前整備。交通の便だけでなく、活気ある商店街にする。	● 外部からの参加を募る。
● 駅前地区の衰退、道路事情によるアクセス困難な立地。	● ある程度の一極集中があってもよいのではと思います。行政機関・医療機関・金融・買い物・鉄道等。土地の確保、道路の整備等課題はあるが、郊外の市民サービスを低下させることなく「駅前に行けば、たいがいのことは片付く。車が無くても行けるし」という地区があれば生活も便利になるのでは。
● 駅前地区の低利用状態を解消する。	● 今後の土岐市は、自動車なしでは生活できない地域を中心に、さらに急激な人口減少に見舞われる。50年程度先には、店舗や病院、公共施設から遠く、山林を切り拓いた住宅団地にわざわざ住みたいと思う人はいなくなる。現に反例として、瑞浪市の国道19号バイパス沿いは、徒歩圏内に店舗や病院、保育所等が揃っており生活が完結できるため、次々と住宅が増えている。このような街が暮らしやすい、つまり住民に「選ばれる」のであって、郊外に大型店舗があれば人が住むというものではない。身近に生活のための施設があるから安心して住めるのである。人口減少・高齢者社会において旧来の自動車依存、奔放な郊外型まちづくりの考え方を捨てなければならぬことははっきりしている。また、歳入減が続けば、維持する公共施設を絞らなければならなくなるため、市街地の縮小や効率化は必須である。一方、将来の市内における雇用は現在以上に厳しくなり、名古屋市や愛知県への通勤に依存する状況に変わりはないと予想される。よって、JRや国道19号の重要性が低下することはない。そこで、空き店舗や駐車場がほとんどを占め、土地が有効利用されていない駅前地区を抜本的に見直したい。戦前に設計された駅前地区の街路形状は現代の生活に合わず、防災上も危険であるため、再度区画整理を行い、遊んでいる細かな土地を良好な街路と宅地として再生させ、散らばっている店舗や公共施設を集める。そうすることで土地利用と施設間の移動を効率化させ、人口減による市街地集約に対応する。高齢者比率が現在以上に高まるため、病院を再び駅前地区に戻し、自動車に頼らなくても利用できるようにする。また、JRの踏切が国道19号からの通行を阻害していることも、駅前地区への心理的・物理的な移動の困難さの要因になっている。国道から駅周辺への道路の拡幅やJRとの交差をアンダーパスもしくは橋梁化する。国道や駅といった重要な交通手段を中心としつつ、徒歩で完結する生活圏づくりを進めるため、これらを六次総の期間にとらわれず、50年先を見据えて超長期的に推し進め、小さ

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
	くても住みやすい・維持できる街へ移行できるように、今から備える必要があると思う。そのためには、今駅前に土地家屋を持っている高齢者の意見よりも、未来に高齢者になり、問題が直接影響する若い人達の意見を重視する必要があると思う。
● 駅前東西方向の道路及び駅前広場整備完了後の市街地整備のあり方について。	● 単純な駅前の利便性向上を目指すのではなく、コンパクトシティ化を志向する中での中心市街地の位置づけを明確にしたうえで整備を図っていく必要がある。コンパクトなまちづくりの実現を図るため立地適正化計画の策定も考慮に入れる必要があるのではないかな。
● 駅前付近がきれいに整備されつつあるが、駅前全体を整備する必要がある。	● 観光と同じことになるが、いかにアウトレット等に来た、観光客が中心市街地まで足を運べるかは環境の整備が必要。
● 旧来の商店街の寂れ、どこの市でも同じような光景が広がるので仕方ない気もしますが、駅前を整備していくのであれば、それにとまなう中心市街地の整備にも力を入れるべきと思う。	● 年に2度ほどJR東海「さわやかウォーキング」が開催され、市外から電車を利用して来市される方々に美濃焼をアピールできるポイントが、駅前に皆無です。車の方は、道の駅を利用できるでしょうが、電車で来た人たち、駅に車を置いて「美濃焼まつり」に行く人たちに、まず、土岐の美濃焼をアピールできる「ギャラリー兼即売所」を提供することはできないでしょうか。アウトレットに来た人にも「駅前にあるよ」とわかりやすくアピールできる、規模の大きな美濃焼ギャラリーを、市主導で設置することは可能でしょうか。地域ごとのバランスがあるので難しいかもしれませんが、市主導でそういう施設を土岐市の玄関にもってこることは、美濃焼産業にたずさわる人々に対し、「市の本気度」を説得力を持って示すのに十分な第一歩だと思います。
● 区画整理	●
● 空家、空店舗対策、賑わいの回復	● 回答2に関係するが、市が市外からの移住希望者と空家、空店舗の家主との間を仲介してリフォーム費用の補助等を行い、入居してもらおう。それに伴い移住者が増えることで生活に密着する店舗の呼び込みを図る。
● 現在の駅前地区は、人口減少・高齢化により自治会活動が衰退している状況である。中心市街地の活性化を図るには、中心市街地人口の回復を図り、その購買活動や市民活動などによるまちのにぎわいを創出していく必要がある。	● 居住地としての魅力を高めるとともに、中心市街地における住宅取得に対する支援等を制度化する。
● 言い尽くされてはいるが、駅前通りが閑散としていて、駅へ降り立った人が驚くほどである。	● 駅前開発で、駐車場のみではなくマンションを何棟か建て、通勤通学の便を良くすると共に、景観も良くする。
● 公共交通機関の起点であり、土岐市の顔ともいえる土岐市駅の駅前商店街の元気がない。	● 新土岐津線、駅前広場の整備など引き続きインフラの整備を行い、人が歩きやすい空間づくりと新規に店舗が進出したくなるような補助等と合わせて店舗の呼び込みを行う。
● 市外の人に土岐市について尋ねると、特に若い人では「アウトレットがあるところ」と答える人が多い。アウトレットには集客があるが、中心市街地には人が流れて来ない。市全体を活性化するには、アウトレットや、出店が決まっているテラスゲート、イオンモールに来る人々を、中心地にも来てもらえるようにすることが必須だと思う。	● 中心市街地の商業店舗の充実。中心市街地で買い物をした人は駐車場の料金を割引する。土岐市の新たな名物となるようなB級グルメを作り、中心市街地の飲食店を中心に販売する。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 主要商業施設の多くが郊外に建設されることによる市中心部の空洞化。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地の道路等のインフラ設備を整備することで、住宅、商業施設の立地条件を整える。生活環境を整える事でまずは人口増加につながり、消費増加、経済活性化へとつながる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 商業施設が市西方に集中し、市外からの流入客を市内に取り込めないため、中心市街地のみならず、19号沿線でも商業集積が進まない。市内に訪れる客を市内に引き入れることと中心市街地を魅力ある特徴的な街づくりを進めることで市内の業者にもやる気を持ってもらうような計画づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前ターゲットを誰にするかを明確にして、それに沿った街づくりを進める。規模を追うのとは違う魅力づくり。子育てをしているママさんや学校帰りの高校生などが楽しむための公園のような街として、駅前でスポーツや散歩子どもを遊ばせる緑の多い地域でそれらの人の必要な店に出店してもらう。中心市街地活性化計画であった町には基本的に賛成。公園の中の屋台というコンセプトでいいと思う。基本的にバス以外の車を入れない。図書館や土岐川や伊野川と一体的な街。
<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街がシャッター街になっていること。駅を降りて一番に目に入る景色が寂しく感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家バンクのように、空き店舗の所有者に貸出希望者がいれば登録してもらう制度はどうかと思った。ただ、いきなりお店を出すのは不安が大きいと思うので、お店を出す前に駅前広場の横等のスペースを貸し出せるようにしたらどうか。パン屋を例にあげると、最初は現在のパン屋でパンを作ってもらい、通勤時間や帰宅時間等の駅利用者が多い時間に駅で持ってきたパンを売ってもらう。できるだけ省スペースで売り子や出店のようなイメージ。それが上手くいって、お店を借りてもいいと思えるようになったら、登録してある店舗を借りてもらう。そこで今度は飲物も出せるようにし、もっと大きくしたければ次の店舗へ、というような。借り手の負担をなるべく減らすために、契約は短期間でお試しができるような形。また、その流れを市である程度整えて、お店を持ちたいと思っている人がいそうな所への広報活動をしてはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街から人や店が出て行ってしまっている。駅前商店街を、駅を中心とする中心市街地の大きなとらえのなかで、どうしていくか検討し、実行力のある施策を打てずにいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅を中心とする市街地のこれからのあり方について、検討する組織をつくり、駅周辺をより魅力的にする施策を実行できるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街では空き店舗が増え、人通りも減少している。駅に近いという利便性を活かし、商店街に人が集まるような仕組み作りが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● これから車を使用し移動することのできない高齢者が増加すると思われる。買い物や病院へ行くのに、バスなどの公共交通機関で移動することを考えると、バスで駅に来て、買い物も病院も飲食もすべてそこでできるように整備すると、駅周辺に人が集まってくると思われる。また、高齢者だけでなく、駅近辺に住めば名古屋まで40分で行くことができるため、住居環境を整備し、名古屋に通勤する人などに駅周辺に住んでもらえるような利便性の高い空間を駅周辺に作る。
<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街の問題点として、商業者の商業離れが挙げられる。その代表的な問題点のひとつに後継者不足があるが、これはむしろ将来の商売の発展に明るい見通しを持ってない店主の後継者育成の放棄といえる。そのほか、魅力ある品ぞろえに対する研究の不足などもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存の商店街に拘ることなく、商売の拡大を図ることが必要になってくると思う。既存の商店街が真に町の顔として重要なものであるとするのであれば、商業機能と切り離して街並み保存の観点からその保存に取り組む必要もあると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 生活基盤となる道路インフラが整備され、市民が回遊する場所等の工夫、駅前の賑わいを図る施策が充分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地活性化事業（国・県補助金メニュー）の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 全国的に万能な策がなく、本市も例外ではなくシャッター通り、それ以上か。駅は無くなることはないと思われるので、これを大事にすべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅を利用する人のために岩倉市ではないが「駅前で園児を預かり各保育園に送迎する」であるとか、交通弱者・買い物弱者が駅周辺に住み小さな商店と診療所があれば駅周辺の立地を生かせると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 大型商業施設と駅前商店街との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前商店街での商品購入でアウトレットやイオンモールでの割引商品券を配布するなどの商店街と大型施設との連携強化に取り組む商店街の活性化に繋げる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地ではなく、市内全域での市民生活充実の為の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまで通りの買物施設や企業の誘致
<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地とする場所が悪いのではないか。庁舎が国道寄りにならないために人の集まりが悪く発展しがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新庁舎建設を現在地での建て替えを前提とするのであれば、国道から駅を経由し、市役所までのメインストリート（16m以上）を構築する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 区画整理・道路拡幅・駅が近い新庁舎の設置
<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地の魅力づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅北については、広大な駐車場用地があり国道19号とも直結していることから、駅北を重点的に整備して中心市街地活性化を図る方法もあるのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街地への魅力的な複合型施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 陶器と食事をテーマにした複合型施設…陶器は地元企業のものを使用する。それを使用する料理店は全国的にジャンルを選ばず、期間限定でテナント出店してもらおう。また、子育て世代が楽しめる施設（屋内型遊具等）を設置することで、天候関係なく集客が見込めるのではないだろうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 長年の課題だが、中心市街地に魅力がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ビルなどを建て、新しく新鮮な店舗をたくさん誘致できればと思う。大きなスーパーや、美容室、エステサロン、おしゃれなカフェ等があると、駅前が華やぐと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 長年の課題で難しいとは思いますが、中心市街地を早急に整備すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多治見市のように駅周辺に官公庁ばかりが並んでは中心市街地の活性化にならない。官公庁より商業施設を入れるべきだと思う。購買意欲の高い若年層を取り込めるような施設があると良い。上記したようなクラフトショップも良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の駅前は他市と比べると劣っている。駅前中央通りもシャッター商店街となっており、ただ駅を利用することしかないというのが現状ではないか。駅前の整備の話が出ているが、果たしてそれだけでよいのだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市にはアウトレットがあり、今後はイオンモールの進出などで駅を利用して土岐市を訪問する方が増えると思います。せっかくの玄関口であるため、土岐市に好印象を持っていただきたい。駅前の道路整備も重要ではあるが、JRと協議して駅の庁舎を建て替えて商店をいくつか入れるなどして新しい土岐市の玄関口にするのはどうでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の玄関である駅前商店街。空き店舗が多く寂しい。市民意向調査でも駅前の整備について重要視する意見も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前商店街（若しくは駅周辺に）を飲食店・食品製造販売等、食品を扱う店舗街にする。観光地などで観光名所以外で多くの人が集まる場所というところ、食べ物屋（飲食店、買い食い）が思い浮かぶ。駅は多くの人が行き交う場所、年齢問わずフラッと立ち寄りたく様な場所ということ。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市の中心となるはずの駅前周辺地域は、人口減少や商店街の衰退などにより寂れ、市民の誰もがこのままではいけないと感じている。しかし、土岐市駅周辺はポテンシャルが高い地域であるため、きちんとした住環境を整えれば人は集まってくると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● みんなが危機感を感じ、空き地、空き家も多い今がチャンスととらえ、まずは将来ビジョンを示していくことが必要だと思う。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 土岐市駅前に魅力がない。	● 土岐市駅前に、大型商業施設や大学キャンパスを誘致する。
● 土岐市駅前の整備	● 現在、土岐市駅の西側の県道は拡張工事が実施されているが、駅南側の商店を盛り上げるよう努力していただきたい。おそらく若い世代は週末等、飲食をする際は多治見等の市外に出かけていることが多いと思われる。
● 土岐市駅前の整備を整えるべきである。	● 他市を見ても明らかに土岐市駅前は、さびれている。土地の買い上げ、第三機関の意見等を聞き、大幅な改修が必要だと考える。
● 土岐市駅前周辺の衰退	● 近年、土岐津町地内においては、アウトレットモールにより市外や県外からも多くの人が集まるようになってきた。しかしながら、昔からの産業である陶磁器関係においては厳しい状況が続いており、土岐津町の一部以外では地元の人しか出入りしないように感じる。したがって、JR 土岐市駅前をもう一度整備し直して、さらに多くの人を市外や県外から集まるような町になるとよいと考える。
● 東濃 4 市を比較しても極端に見劣りする駅前周辺の整備、活性化について	● 中央通りの拡充が今後も不可能なら、県道河合・多治見線を東に向けてさらに拡充を促進させ、県道南側に飲食店等を集約したテナントを設け、格安料金で募集する。中心部を流れる伊野川を利用し、第 4 明治街道踏切下から土岐川に合流する伊野川橋まで散策遊歩道を整備する。整備には、柳等の植樹やタイル、タイルや陶片を使用し産地としての特色を出す。
● 東濃五市の中で土岐市の駅前一が寂れてしまっている。人が集まる核となる施設、店舗等がない限り現状の打開はできない。	● 駅前から西踏切までの道路の拡張ができたが、この道路に民家が張り付くのではなく魅力ある施設、店舗等ができれば、市街地活性化の第一歩になる。 また、イオンモールができた時は、イオンモール⇄土岐市駅の無料シャトルバスを走らせて、中心市街地に人が集まるようにする。

32 道路・河川の整備

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 21 号線が、肥田地区で止まってしまっている。	● 高速道路からのアクセスがよい道路であるにも関わらず、駄知・下石方面まで伸びていない。このため南部地区へのアクセスが非常に悪い。土岐津に南北に縦貫する道があるように、21 号線から縦貫する道路も市内の利便性を高めるためにも必要と思う。19 号・66 号・21 号の国道が環状化することはできないだろうか？
● アウトレット、テラスゲート、イオンモールと大規模ショッピングセンターがあり、または建設予定であり、交通面で渋滞が予測されたり、近隣住民の生活環境（生活道路）が著しく悪化することが予測される。	● これらの建設に関しては、集客による土岐市への経済効果として非常に大きいと思うが、それに相反して上記の懸念が残る。それらに対応するために、道路設備の拡大拡充が必要と感じる。
● アウトレットの影響による国道 19 号の週末の渋滞があり、イオンが完成すると、国道 19 号のさらなる渋滞が予想される。	● イオン建設予定地周辺の道路の整備（可児方面、多治見方面）
● アウトレット拡大・テラスゲートオープンに伴っての渋滞	● 道路の拡張・駐車場の確保
● 現在、イオンなどの進出も決まり、その後の市の発展について期待しておりますが、アウトレットで国道が渋滞しており、多治見市まで渋滞の列が続いている状況で、同じ道	● 現在の計画及び今後の展望を見据えた国道 19 号以外のメインとなりうる道路設備

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
路をメインとした集客施設ができることということで懸念しています。	
● 高度経済成長期に建設した道路、橋梁をはじめとした道路構造物の劣化が激しくなっている。	● 損傷が激しくなってから、大規模に補修するよりも、こまめに予防的に補修をしていくことで、構造物を長持ちさせて、費用も抑えることが出来る。
● 国道 19 号線の渋滞。今後、イオンの出店が決まっている中で、どう渋滞を緩和するか。	● 簡単な考えですが、交通量の分散が必要だと思います。多額な予算がかかりますが、新道路の整備が重要です。
● 子供の通学路が危険である。	● 通学時間と帰宅時間に、子供が 4, 5 列に横並びして歩いているのをいつも見かける。たまにはあるが歩いている場所が反対車線にまで伸びており、車両が来ても全く気付いていなかったり、気づいていても走行している車両に近づいてくることもある。ガードレールや道路の整備を実施し、しっかり区分けしたほうがよいと思う。
● 住みやすい環境づくりにおいて道路整備が重要と考える。狭小な道路の場合防災面でも不利な要因である。歩行においても危険である。	● 建築基準法上の道路では 4 m に満たない道路では幅員 4 m が確保できるように後退しなければならない。この後退部分を道路用地として取得できれば良いと考える。
● 水路清掃、樹木の伐採、草刈りなどの要望が年々増加している。	● 道具の貸し出しや、使い方の講習会を開催する。 ● 「自分の地域は自分で守る」という意識を高める。
● 多くの方が足を運んでくれる施設により、道路の渋滞が増加している。今後イオンの出店を考えると交通の分散を考えなければならない。救急搬送時にも支障が出ている。	●
● 大規模開発や大規模商業施設の誘致が頻発している当市において、これらに伴う交通・物流の受け皿となるインフラの整備が急務。	● この課題の解決には、絶対的に人・モノ・金の拡充が重要。施策に対応できるだけの、力のある技術職員の拡充及び予算の拡大が必要である。具体的には、現場・設計の民間経験者の中途採用の実施、技術系職員の増員。
● 大規模商業施設誘致へ至る道路整備	● 誘致される大規模商業施設へ至る道路網を充実（新規道路を造る、従来道路の拡幅等）させる。
● 大型商業施設の建設にあたり、交通の流れがより悪くなることが予想されると思います。	● 様々な問題があるとは思いますが、国道 19 号以外の大きな道路作ることができたら緩和されると思う。今でも土日や帰宅ラッシュ時の混雑があるため、主要道路がもう一つ必要になってくるのではないかと思います。
● 大型店舗進出による既存道路の渋滞。店舗完成までに対応しなければ、市内の交通麻痺が予想される。	● バイパス、道路拡幅の早期計画着工。
● 土岐南多治見インター付近の施設増加のため、特に多治見から土岐間の国道 19 号の混雑が予想される。	● 新たな道路を作る。
● 道路・橋梁の老朽化、道路沿線の樹木が大きくなり災害時に破損、倒木等により通行不可能となりライフラインに支障をきたす。	● 実施予算確保のため、国、県に対しさらなる要望をおこなう。
● 道路が拡幅等整備されていない	● アウトレット付近の道路は整備され、住宅ができ、更に企業・テラ

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
いと企業等が進出してこない。多額の費用を要しなかなか難しいが、元気な町にするためには道路整備が一番大事である。	スゲート・スーパーオオクワが進出し人が集うとても快適な素晴らしい環境となってきた。今後も山林を宅地開発し人口を増やし活性化してほしい。
● 道路の整備は、商業の振興、観光の振興、防災の強化、交通安全など各施策の基本であるため、関係各課と調整を図り、重点的に取り組むべき課題である。	● 現在土木課に寄せられる要望は自治会及び学校関係からのものであるが、関係課から施策の実施に関連し、道路整備等の要望があれば調整し実施していく。
● 道路の早急な整備	● 道路は、市民生活、産業振興、観光等に欠かせない資源です。市内の市道延長は550Kあり、かなり老朽化が進んでいます。毎年それなりの予算を計上し補修、改良等を行っていますが追いついていないのが現状です。そこで思い切った計画を立て、道路補修、改良に力を入れていくべきであると思います。それにより、市民生活、産業振興、観光、防災力、交通安全等の向上につながり、ひいては土岐市の道は全国一走りやすく安全であるとの評判が上がり、人口の増加にもつながって行くものと考えます。また、一つの提案ですが、H26年9月の改正道路法施行で、「環状交差点」としてラウンドアバウトの運用がスタートしました。この効果についてはまだ試行段階のところが見られますが、信号がないため災害時の対応や交差点での重大な交通事故の減少などの効果がうたわれています。土岐市でも研究していったらと考えます。
● 来るべき大地震に備え、緊急輸送道路および重要な道路ネットワーク上の橋梁等の耐震補強・修繕工事を急ぐ必要があるため。	● 莫大な費用が必要であることから、補助金の有効活用。
● 老朽化対策	●

33 公共交通の充実

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 11 雇用環境の充実 31 中心市街地の整備と併せて、JRの本数増を切に望みます。	● 働く場所が近くにあって、名古屋行の電車の本数が1時間に4本以上あって、車の所持数を減らすことができる駅周辺に、他の周辺都市より割安な住宅があれば、若い人は住むと思う。雇用環境の充実が困難なら、電車の本数は堅持し、駅周辺を整備して、ベッドタウンになる方向に持っていく。本数が多い駅と、住宅地を近くすることが大事だと思う。子どもが居る家庭にとっては緑の多い土岐市の環境はとても良いのもったいない。
● JRについていえば、多治見駅に比べ土岐市駅の電車本数は半数しかない。 ● 東鉄バスについていえば、土岐市駅から妻木、駄知へ行くバスは、全て駅前から中央橋を経由しており、人口が一番多い泉町を走る路線バスがない。	● JR：多治見駅を使って名古屋へ通勤している人も、結局は多治見駅までバスを使っているが、土岐市駅から徒歩圏内に住めば、その人たちより通勤の便は格段に良いはずである。土岐市に住宅を建てる気が起こるように、大型マンションの開発がされるように、その点をもっとアピールする。 ● 東鉄：泉町河合経由駄知行き。新土岐津経由妻木行き、駄知行きのバス路線を新設する。
● 交通弱者に対する公共交通の強化	● 市内循環型市民バスの充実
● 公共交通機関にて西側に向かう場合、終電が22時台と早い。そのため、駅前地区を開発したとしても終電のことを	● 市が補填してでも、23時半頃まで終電を延ばす。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>考えると、どうしても目先が多治見や名古屋に向かってしまう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者が車に頼らなくても暮らせる施策、運転免許返納推進による交通事故防止 	<ul style="list-style-type: none"> ● デマンド対応型交通システムの充実（土日、祝日運行など）とPRの拡大
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者が増えているためバス等の公共交通機関の需要が高まるはず 	<ul style="list-style-type: none"> ● バスの本数や路線が増えるといいかも
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者による自動車の運転は、危険であるとともに渋滞発生等の原因となります。道路等インフラ整備も重要ですが、高齢者が安心して移動できる手段の構築が必要です。公共交通機関が充実すれば、高齢者の運転免許証の返却も促進できます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅を中心とした公共交通機関の整備をしたらどうか。高齢者に限らず、自身で移動手段を持たない人にとって、安価で移動できる手段は必要である。路線網は、蜘蛛の巣状になっていけば最高ですが、駅を中心とした放射状に整備すれば、駅を中心にどこへも行くことができます。移動距離は長くなりますが、行くことはできる。今の路線バスのような大きなものではなく、10人乗り程度の車両を使い、本数を増やせば利便性は増す。運転手の人件費等の費用の問題もあるが、インフラ整備に係る費用を回せば、雇用の創出にも繋がるし、交通量が減少すれば渋滞も解消し、道路整備の必要も減少するのでは。今までの考えにとらわれず、大胆な変革を実施しないと、高齢化社会は乗り切れません。
<ul style="list-style-type: none"> ● 国道19号線等の幹線道路沿いに商業施設を誘致するのはいいが、アウトレットのセール時のように、国道19号線の渋滞の対応策も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国道19号の幅員を拡張するのは無理なので、抜け道として商業施設へアプローチ出来る道路を増やし、交通を分散させる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内におけるバス交通やJR中央線の利便性向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用環境の充実にもつながる点で、市内に必ずしも勤務地がなくても名古屋市等への通勤がしやすい環境を整えれば市税収入の増にもつながるため、市内及びJRの利便性向上（運行本数の増）などにつながる好循環を生むための方策を講じる必要がある。パークアンドライドのシステム構築、駅周辺施設の充実（保育所・託児所）など。
<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に住んでいるのに駅に向かうバスが1日に数本しかでていなかったりするので、地元の駅を利用しなかったりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● バスの本数を増やしたり、路線も増やす。利用者が増えることによっても駅に活気がでると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 自家用車利用率50%削減。体と環境にやさしい新交通体系システム構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活スタイルの意識改革。買い物等で2km以内は、バス、自転車、徒歩を推奨。公共交通機関の徹底的な利用促進をアピール。「ときゼロえん観光」を目指し、主要施設（駅、病院、PRP周辺、陶史の森周辺、バーデンパーク）へのアクセスを確保し、緑豊かな自然環境の中ゼロえん体験型観光を。
<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車の運転ができない高齢者や障害者が外出するのに多大な労力がかかる。高齢者や障害者の自動車事故。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運転免許の返納と引き換えに、バスやタクシーの乗車助成券を交付。東鉄バスと連携して高齢者や障害者に対して乗車料金の割引。曾木・鶴里や泉が丘、五斗蒔など、スーパーマーケットや医療機関が少ない地域のバス本数を増やす。
<ul style="list-style-type: none"> ● 自分は車を利用することが多いのでバスはあまり使わないが、本数が少なく終バスも早い。電車で来た市外の人が観光名所へ行くためにはタクシーを使う必要がある。土岐プレミアムアウトレットへの本数が少ない。多治見からのバスのほうが多く、アウトレット目的の人たちが土岐市駅に 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光地を巡ることのできる市内ループ型のバス。一日乗車券、観光地をめぐるスタンプラリーなど、土岐市駅に来た観光客が散行しやすくなるための交通整備。分かりやすいバスマップの作成やバスマップの駅前展示。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
立ち寄ることがない。	
● 車を持たない・持てない人の移動手段がない	● 厳しいとは思いますが、主要施設を通るバス路線・本数の拡充や、安価で共用利用できるタクシー等の増加をしてほしいです
● 商業施設（テラスゲート・イオン）の誘致に関してはいいことであるが、現状アウトレットのみでも交通渋滞、それによる事故が増加している。	● 商業施設へアプローチ出来る道路を増やし、交通を分散させる。
● 商業施設へのアクセス	● 新規商業施設だけでなく、観光地もまわられるような市内ループバス等。
● 人口減少の歯止めとして便利な“まちづくり”として公共交通の充実が不可欠である。バス交通においては市民バスが更に減ってオンデマンドタクシー等に移行しています。原点に戻り特に通勤・通学の手段としてのバスの増設を再検討し、便利な魅力あるまちとしたらどうか。	● 赤字分等、多治見をまねて市の補填もやむなし。（路線バス、市民バス共マックス 100 円の料金とするなど）
● 多治見市と土岐市合わせて国道 19 号が慢性的に渋滞している。	● アウトレットの客の大半が車での来客となっており、今後イオンの営業が開始されると国道 19 号土岐市内中心部での渋滞も懸念され、市民生活への影響も考えられる。JR や東濃鉄道と協議し、JR の土岐市駅への停車本数やアウトレット方面へのバスの運行本数も増やし、公共交通機関での利用者を増やす必要がある。またその利用者を増やすためには電車やバスでの利用者に対し利点となる何かが必要。多治見市との協力も必要。
● 通勤通学にバスを利用しようとしても、本数が少なく利用できない。使わないために本数が減るなど悪循環である。JR と私鉄バスとの連絡が悪いために、電車がホームに着いたと同時にバスが出て行ってしまったり、バス停に私鉄バスが着いたと思うと市民バスが出てしまい、曾木鶴里方面の学生が困っている状況を見たことがある。	● JR や私鉄バスについては、市の管轄外のことであっても市民が困っている状況なので、対策を考えていただきたい。市民バスについては一度問い合わせたことがあったが、他に依頼しているのでどうにもできないというようなことを言われた。市で運営している市民バスなので、特に大人を頼らざるをえない子ども達も困らないよう、連携を密にしていきたい。
● 電車の充実です。	● 土岐市は名古屋通勤圏内だと思います。土地も安く、一軒家を持つには魅力ある市だと思います。JR に一時間に一本でも多く増やしてもらえるように要請し続けることです。
● 都市部から移住された方から、自家用車以外の交通機関（バス等）の少なさに対する不満が多い。また、高齢者になると、車の運転が困難になり、こちらも自家用車以外の交通手段がなくなることにより、生活範囲が狭まり、高齢者の方の生活を不便にしよう。	● カーシェアリングの導入（①シェア用の車を市が提供・助成、②地域コミュニティで運用（自家用車がない世帯への支援、共同利用することで複数の高齢者の方の移動手段になり得る。））
● 本市では、民間による公共交通網整備の他に、市民バスの運行により公共交通が保たれている。しかしながら、民間	● ①現在、土岐プレミアムアウトレットと名古屋を結ぶ路線が運行されているが、あくまで名古屋方面からの買い物客を対象としている。このため、例えば土岐市駅を発着して、必要に応じて土岐プレミアムアウトレット経由で名古屋へ行くバス路線を開設要望（朝か

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>は経営上の観点等から、JRについては多治見止まりが多く、バスに至っては路線数が限られているのが現状である。一方、市民バスは運行本数が限られ、なかなか充実した公共交通となっていないのが現状である。また、本市から、他市に向かう路線も充実していないのが現状である。</p>	<p>ら深夜まで)して、通勤・通学・名古屋へ出かける市民の足を確保したらどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ②バス路線としては、多治見又は瑞浪方面については開設されているが、土岐市から可児市へ行く路線は開設されていない。しかしながら、県道土岐可児線は、桃山街道として史跡や文化施設が点在し、また、可児公園があるものの本市からは公共交通で訪問することができないのが現状である。このため、土日祝を中心に路線を開設し、観光客や市民の観光等の足の確保をしたらどうか。 ● ③市内新興団地からJR土岐市駅までの路線と運行本数を確保したり、上記②のように休日に例えば、土岐市駅から可児駅までのバス路線を開設し、観光客が周遊できるようにしてJR利用者の増加を図るとともに、土岐市駅周辺に居住スペース(マンション等)を建設・誘致して人口増加を図り、JRに対して土岐市への運行本数の増加を引き続き要望していったらどうか。 ● ④JRと土岐市駅発着のバスの運行時間の調整を図り、公共交通利用者の利便性を高めて欲しい。 ● ⑤市民バスの運行本数を増やすとともに、1日乗り放題乗車券(民間バス会社との相互利用もしてほしい)などを発行したらどうか。
<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の減少により、本数の減少、最終時間の繰り上げなど経費削減によるサービスの低下等、利用者にとっては、定期利用がしづらいものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●

34 上下水道の整備

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 下水道は、その投資に多額の費用が掛かります。また、その維持管理にも費用が掛かります。土岐市の上下水料は、東濃5市においても高いと言われており、市民にも負担をいただいております。今後、下水道管の敷設が住宅点在地域に差し掛かっていけば、その投資に見合う費用を下水道使用料で賄うことは到底できません。また、下水道の弱点は震災です。管が繋がっているため、一箇所でも破損すれば、使用不可または困難になります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 浄化槽は、以前はその浄化能力に疑問があり、下水道整備の方法がとられてきましたが、現在は浄化センター並みの浄化能力があるといわれています。現在、土岐市では浄化槽に補助金を出していますが、一方で法定点検を受けていない世帯があるなど問題もあります。今後、下水道と浄化槽の利点を生かした整備を行っていくのはどうでしょうか。今後、下水道の整備が必要な地域は、住宅点在地域なので浄化槽の設置により整備を行い、その維持管理を市役所が受け持つ代わりに使用料の負担を求める。これにより浄化槽の法定点検も受けもらうことが可能になります。住宅密集地域は下水道の敷設がほぼ終わっているため、維持管理費に重点を移していくという手段も選択肢としてあるのではないかと考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 既に都市計画区域の下水道整備も終わっており、今後、人口の増加も見込めず、施設の老朽化が進み、維持管理費の増大が予想されます。都市計画区外の下水道整備の費用対効果が少ないので、取り止める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 費用対効果が少ない区域外での下水道設備の新設をやめて、維持管理に集中する。未整備の地域は浄化槽の補助金で対応。
<ul style="list-style-type: none"> ● 重要インフラであり今後とも継続して適正に維持していくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持管理に経費が掛かることをPRする。

35 住環境・街並みの整備

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 【少子高齢化から脱却】土岐市の高齢化率が29%と、年々増加傾向にある中、子どもの減少、若年層の市外転出は顕著である。それを少しでも食い止めるために、『若者が住みよい街』とはどういうものか、情報収集していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若年層の意見を積極的に取り入れるべく、議員や市職員が市内の学校に向き「今の土岐市、未来の土岐市」をテーマに意見交換を行い、柔軟なアイデアや発想を行政運営に活かしていく。
<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレット周辺の開発や、大型店舗進出に伴い土岐市に住みたいと考える人が増加すると推測されるため、団地の造成を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内に団地を造成しようとする業者に対する助成事業を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 安心・安全に暮らせるまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民が一番敏感なことは、安心・安全な住環境だと考えます。地域の防犯、防災等は行政、役所への丸投げでなく、地域住民自らが管理して行く必要があります、そのような制度、仕組みを構築する必要があると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 駅にでるまでの交通の便が悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● バスや車で、駅や名古屋などの都市に出やすい環境を整える。駅周辺の駐車場を増やしたり、バスの路線や本数を増やしたりすると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前や川沿いなどの整備が必要。道路が狭かったり、街灯がなかったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 川沿いはランニングや散歩のコースになっている。もっと道路を整備して、歩道を作ったり街灯を設置していかないと危険である。整備されたコースなどがあると人も集まってくるかと。
<ul style="list-style-type: none"> ● 街並みが古い場所が多いため新しく転入する人がいないように思う。さらに生活の利便性に欠けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食料品以外の生活必需品を買う店が土岐市には少ない。さらにある店でも古い外見だと行く気もおきない。若い人は基本的に洒落た環境を好むと思うので街並みから一新していく必要があると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 既存市街地のまちなか居住の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ● J R 土岐市駅周辺の子育て世代や高齢者の利便性の高い共同住宅の整備（PFI、PPPによる整備）
<ul style="list-style-type: none"> ● 近々、空き家への税金等での扱いが変わってくるようであるが、空き家の他に倒産した工場等も、数年間買い手が無ければ、金銭的に難しいかもしれないが、早急に取り壊しさせるなどしてほしい。管理されていない無人の工場等は、危険極まりない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 倒産した会社等は、金銭的に取り壊しも困難と思われるが、市が安値で買い取り有効活用して欲しい。工場等の広大な土地は、共同住宅や店舗等を誘致し人を集めることの出来る施設が欲しい。一軒家を建てるまでの間、アパート等の共同住宅に住む人が多いため、まずは住む場所を用意してみたらどうかと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ● 近年、アウトレットをはじめ、薬局、スーパーの数は増えたにも関わらず、土岐市の人口は年々減っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力のある街づくりとして、今市民が何を求めているかのアンケートを取る。特に、若い世代の定住を目的として、土岐市に住むにあたって何が必要かを聞く。（土岐市内、外共）
<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家など、火災危険もあるし、景観をそこねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトレットや大型デパートができ、市外から来る客が増える。きれいな街並みや公共交通機関の充実が必要である。区画整理などして住みやすい環境をつくる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用を創出しても、通勤圏である周辺市へ流出してしまうようになってはいけない。若者を中心に土岐市に住みたいと思わせる魅力が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 雇用の場や子育て環境等複合的な要素が必要であるが、その一つに統一的な美しい街並みづくりをすすめてはどうか。そのためには民間の協力が必要だが、道路等公共施設の維持管理が支障とならないよう、維持管理に重点的な予算などの配慮をしてみてもは。
<ul style="list-style-type: none"> ● 国道19号を走っていると使っていない建物があり、道路 	<ul style="list-style-type: none"> ● 使っていない建物は対応をしていき、道路沿いの緑地化を進めれば明るい印象が変わっていくのではないかと思います。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
沿いということもあって黒くくすんでいるため、町の雰囲気が暗く感じるがあります。	
● 市で住宅地としての造成をする。アクセスの良い土地を確保、これから住もうとする世代を獲得していく必要があると思う。	● 7割山林、思い切って造成する。駅・国道にアクセスできる環境を整えつつ。
● 若い世代の定住促進	● 災害の少ないまちを全国に発信し安心して住みやすいことをさらにアピールしていく。中高一貫教育を本市が実施し、人づくりに主眼をおいた特色ある学校づくりを行う。高校までの授業料を無料化し子育てのしやすい環境づくりをする。
● 人口の増加のために住環境を整備する	● 移住手当等を充実させ、市外にアピールする。
● 人口減少対策(住環境の整備)	● 定住促進事業の継続
● 駄知町の整備が遅れている状況	● 特に駄知町の整備が遅れていると感じる。陶器産業が盛り上がっていた時代のままと変化がない。下石町のとっくり村のようなアピールできるモノがあるとよい。
● 地勢的に街が点在していて整備効率が悪く、整備に意志が感じられない。既存の住環境にとらわれず、新たな街並みづくりに取り組むべき。	● アウトレット・テラスゲート土岐・イオンモールを中心とした周辺山林の大規模開発により、点ではなく面で整備を推進すべき。
● 定住促進のための住環境整備	● 住所を移そうとする人が、他の市（多治見、瑞浪等近隣市町村）と比べたときになぜ土岐市を選ぶのかという長所と、比べてなぜ土岐市を選ばなかったのかという短所を専門家による調査を行ったうえで把握し、長所を伸ばし短所を埋める施策を行う。例えば駅（若しくはバス停、スーパー等の生活施設）から徒歩20分圏内にある市外から人が移り住んできそうな土地周辺の道路（歩道）整備を重点的に行う、区画整理を行う、地籍調査を先行して行う、左記のような開発を行う民間事業者に補助金を交付する等。条件を整えることができれば、市外からの定住者のほか、マンション等の建設促進（結果的に市外から入居者がある）、休閒地の売買促進等による税収増が見込まれる。コンパクトシティの観点からもよいのではないかと思う。
● 土岐が丘付近は開発が進み、大型店舗なども増え発展していますが、その他、19号線付近や駅前には隣接の多治見や瑞浪に比べ、大型店舗など少なく不便が多いと思います。その為若い住民が便利のいい他市にながれているのでは。	● 国道19号線沿い、駅前開発整備。
● 土岐市に住みたいと思われるような住環境の整備	● 宅地や集合住宅の整備に加えて、雇用、教育、福祉の充実が住環境の向上につながるのでは。
● 土岐市の人口が6万人を間もなく下回る状況である。	● アウトレット、テラスゲート土岐の完成予定、イオンの建設計画など土岐市に住みたいという要素が増えているため、企業に呼びかけ、アウトレット付近を中心にさらなる宅地造成をする。また、その周辺から名古屋への高速バスが出るようにすれば、名古屋で勤務する人も住みやすい環境となる。（例、可児・多治見からの名古屋への高速バス）
● 東濃地区に唯一残された市民プールが廃止されてしまった。空き家が多数放置されて	● 子育て世代には、とても重要であり東濃地区唯一の施設で市民からの存続も多く希望がでていた。現在は他県の市民プールを使用するために遠方へ行かざるを得ない状態である。他県の市民プールのよ

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
いる。駅前及び駅周辺が閑散としている。	うに、料金を値上げして整備し、民間委託させれば東濃5市から外貨の収益が見込めるのではなかっただろうか？同じ利用料金でやれるとはだれも思っていない。濃南地区にプールがあっても、どうやって夏休みに利用できるのか？公園でなく、この地区にしかないものをしっかり残してほしい。空き家管理を行い、管理するのか取り壊して新しく宅地化するのか等を明確にする必要がある。廃屋の近くには、だれも引っ越したくないはず。
● 当市及び、周辺自治体がいずれも直面している問題は、世帯住民の減少だと感じます。市の人口を減少させないためには、流出を防ぐだけではなく、他地域からの流入を促していかなければならない。	● 自分が将来にわたって居住する地域を選択する際に、その地域に対するイメージというものは重要な選択項目になると思われる。土岐市内の玄関である土岐市駅周辺、国道19号沿い、市内の各インターチェンジ周辺の街並み整備を重点的に行うことで、快適で住みやすい町とのイメージを持ってもらうことが可能であると考えます。
● 廃屋、廃工場、空き家の放置が多数存在し、防犯・防災的にも危険が大である。また、今後高齢者の施設入所や死亡等で空き家は増加傾向にある。	● まずは、現状の廃屋、廃工場、空き家の把握が必要である。有効利用できる物件は市が補助することにより活用する。危険が大である物件に関しては、できる限り所有者に取り壊しの依頼をし、金銭的な補助をする。
● 明らかに見劣りする市の玄関口の一つである土岐市駅周辺の街並み整備。	● 駅周辺は民間の空地も多く、活用の仕方によっては整備、発展の可能性大。民間デベロッパーも活用した街づくり。

36 公園・緑地の整備

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
● 現在の公園・緑地の整備は十分だとおもわれるが、上述2項目と併せて、大規模開発・住環境整備において重要。	● 上述2項目を進める中で、土岐市の豊かな自然環境を保全することを含めた開発整備をすべき。
● 公園・緑地が少なく子どもを遊ばせる場所がない。園外保育で公園等子どもを遊ばせる場所がなく、行くところがない。	● 魅力のある土岐市にするためにも公園・緑地を増設して子育てがしやすい環境作りをする。トイレが大人ばかりであるので、子ども用トイレも設置する。
● 子どもを連れて遊びに行ける施設が少ない。	● 小さな子供を連れて1日楽しめるような、そんな公園をつくる。芝生があり、水場があり、遊具があり、室内で休憩もできるようなそんな施設があるとありがたい。
● 市内にある公園は、雑草や遊具の経年劣化が著しく、他市と比較すると明らかに整備が行き届いていない。子供たちを遊ばせる意欲がなくなる。	● 随時更新整備が必要
● 市内に整った大きな公園が少ない。大きな公園でも、整備や更新が中途半端なため子供たちの遊び場がない。県外から遊びに来るメリットもない	● 新しい遊具や広い場所を確保し、県外からでも遊びに来てくれるような公園を設ける。休日には、イベントごとを開催し、商業施設だけでない集客を得る。
● 小さい子どもさんがみえる家庭では、休日になると都会のイオンモールとかに出かけられるかたが多いです。もっと自然の中で親子で触れ合いながら遊ぶことが、心身の成長	● 親子でサッカー、キャッチボールなどができる公園の整備（駐車場完備）マップを作成して、市民に知らせる。

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
に役立つと思います。	
<ul style="list-style-type: none"> ● 整備された公園がある地区とない地区があり、遊ばせるためにも車で出かけないと行くことができないが、駐車場が整備されていない所が多く、路上駐車になってしまう。小学生ぐらいの子が一人で行ける公園が家の場所によってはない。他市と比べ、魅力ある遊具のある公園がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内毎等に公園を整備するか、駐車場を作る。新設遊具のある公園が市内数か所でもいいので、設置してもらいたい。

37 その他

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<ul style="list-style-type: none"> ● 「介護保険の健全運営」介護給付費の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適正・適切な介護サービスの提供のための給付費適正化の実施の強化。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市において、若い力の流出は大きな損失であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市は素晴らしい町です。若い力がそこに根付くためには、十分な雇用が必要不可欠であり、そのための産業振興は欠かせません。そこにぜひ、郷土愛、ふるさとを大切にしたい。土岐市の魅力について、新たな魅力はもちろんのこと、土岐市ならではの魅力。温かなコミュニティの形成。それを、市民自らが発見して、発信していくような取組。未来の土岐市を担う子どもたちが、土岐市の未来を考え、発信していく。そんな行政と市民が手をつないで取り組んでいけるような取組ができればよいと感じています。イメージだけで、具体性がなくて申し訳ございません。
<ul style="list-style-type: none"> ● 高度経済成長期に集中的に整備された土岐市管理の社会基盤（道路、橋梁、上水道、下水道等）が、今後一気に更新時期を迎える。笹子トンネル事故のように社会に重大な影響を及ぼす事故の発生は防がねばならず、そのための維持管理にかかる人的、経済的負担は土岐市の財政を圧迫することが予想される。今後、いかにして老朽化する社会基盤を適切に維持管理していくかが課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会基盤（道路、橋梁、上水道、下水道等）毎に、維持管理費が財政を逼迫しないうちにアセットマネジメントを実施する。・市民の方を「社会基盤見守者（仮）」に認定して社会基盤の点検の一翼を担ってもらおう。例えば、見守者からの通報には維持管理費を優先的につけるなどのインセンティブを付与する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化対策少子高齢化による税収減少・社会保障費増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● まちづくりを考えると、災害に強い、高齢者にやさしいなどいろいろあると思いますが、安定した予算が必要です。具体的なアイデアはありませんが、若い人が土岐市に住み、納税してくれるように、近隣市と比較して子育て環境や教育に魅力があると良いのかなと思います。 <p>ふるさと納税で、景品で釣るということには賛成ではありませんが、たくさんの土岐市民が他市にふるさと納税してしまうといった事態にはならないようにしないといけないと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少対策 	<ul style="list-style-type: none"> ● せめて土岐市の職員は市内に住むように促したい。1人の職員がずっと市内に住み続けることによって、市民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税、上下水道料等でどれだけ市の収入に貢献しているかを試算し、職員の理解を求めるともひとつの方法かと思えます。
<ul style="list-style-type: none"> ● 土岐市駅は市の顔です。しかし、通勤・通学に駅を利用し 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新庁舎は、駅直結で。土岐市駅を利用して通勤・通学している方が利用しやすい場所に市役所があれば、市民にとって利便は良くなり

重点課題	課題解決のアイデア・提案など
<p>ている市民の多くは、家族の送り迎えで素通りしています。多くの市民が通過するこの場所を便利で快適なものにすれば、市民の定着につながります。また、電車が到着する時間の駅前は、いつも大渋滞です。これを解消する必要があります。</p>	<p>ます。各種届出等、通勤・通学の途中で。また、駅を中心に交通網を整備すれば、遠方からの利用がしやすくなります。</p> <p>駅直結の大駐車場を。宅地開発によりできた住宅団地は、駅から遠方にあり、駅周辺の駐車場の数も限られるため、家族の送り迎えでの駅利用に。そこで、駅直結の大駐車場で安価に車をとめることができれば、他市から市内への転居のPRになります。土岐市は、名古屋圏への通勤がしやすい街です。新産業を育成し、市内に雇用を創生しつつ、名古屋圏への通勤者の定住を図ることができれば良いと考えます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 陶芸村はあるが、居住している住民の中には作陶を行っていない住民もあり、陶芸村として機能していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 衰退している？とはいえ全国には多くの陶芸家を目指す若者がいるので、そういう人たちが集まるような環境（作陶場所や雇用等）を整え、宣伝する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 一部地域における高齢化に伴う 	<ul style="list-style-type: none"> ● 年をとっても元気で、社会との関わりが持つことができる地域づくり

設問5 上記のほか、人口減少・少子高齢化への対策、地方創生や地域活性化への対策など、分野や施策を横断して土岐市全体で取り組むべき対策や事業について、具体的なアイデア・提案などがあれば、以下の回答欄に記入してください。

A. 結婚・出産・子育て支援

＜結婚・妊娠・出産・子育て支援＞

- 医療体制・出産・育児に不安のある町に移住しようとは思わない。その町で生きていくための必要経費というものは市町村単位で違う。居住地選択の際、要因になる。例えば、市税・市の補助金制度、市指定ゴミ袋の単価、水道・下水料金、育児、教育にかかる費用。移住を検討している人は、他市と比較し、検討をしている。
- 高齢者が多い事を利用して、高齢者と子育てを融合させる。高齢者は日中暇な人が多い。一方、初めて子供を産んだ人は不安や自分の時間が無い人がいる。高齢者と子育てを融合させた場により、他県から来た人で親の手を借りられない人も利用でき、土岐市に住んでいる高齢者も活躍できる。
- 子育てしていくうえで、メリットになる物が少ない。土岐市の知名度が弱い。そのような点から考え、土岐市の知名度を上げられる施設や病院（特に小児科医療）の充実や公共の子どもへの体力増進施設などを開設して取り組みのアピールをしていく。
- “子育て支援の充実”
- 子供を安心して産める環境作りが必要。
- 市や県ベースでの結婚情報サービス(マッチング)
- 若い夫婦が住みやすい環境をつくる。保育、産婦人科、交流の場づくりを目指す。
- 出産する女性が減り、出産年齢も上昇しています。強制するものではありませんが、家庭を持つこと、子育てをすることが楽しいと感じられるような教育・社会環境を整える必要があると思われます。3人出産する方は少なくありません。未婚の方に楽しい出会いの場が提供されるといいですね。(テレビ番組の様な)
- 女性の社会進出と人口減少・少子高齢化の是正の問題は、両立が非常に難しいと考えます。長い間『男性が外で働き、女性は家庭を守るべき』という考え方の社会で進んできた日本で、急に人々の考え方や社会の制度が変わるとは思えません。社会が女性の社会進出に男性と同等の働き方を求めるならば、人口減少・少子高齢化の流れは止められないでしょう。これには人々の考えが変わることが必要で、長い時間を要すると考えられます。現状において行政が少子高齢化に対応しようとするならば、必要となるのは高齢出産に対する手当です。社会で働く女性が、結婚や出産を考えられるようになるためには、ある程度の実績が必要で、子供がほしいと意識した時には、高齢出産といわれる年齢になっているケースが今後、増えてくると考えられます。一方で高齢出産やそれに伴う不妊治療には高額な費用が掛かります。また精神的にも大変つらい現実が待っています。こうした女性たちに対する金銭的な援助や、精神的な対応が、現状において必要だと考えます。しかしながらこうした対応は社会問題に対する場当たりの手当です。社会全体、特に男性が女性の出産、育児に理解を深めることが最も必要であると考えます。
- 進学・就職・結婚を機に市外転出し戻らない若者、女性が多いと考えられる。これを抑制する方策を考える必要がある。結婚すれば子どもが増える環境が整うわけで、出生率を下げている要因が未婚率であることに着目すると、いかに未婚者を減らすかが重要と考えられる。このため市をあげて婚活支援をし、かつ市内定住を促すとともに若い世代が結婚・出産できる環境づくりのための支援体制を整え、子育てに至る切れ目のない施策が必要。
- 人口減少、少子高齢化については、安心して生き、過ごせる生活が基盤になると思います。その他、婚活イベントも活発に行っていくのも良いと思います。
- 地域の特色を生かした街コンの実施。
- 通勤組子育て層のサポートとして、駅型保育施設の整備等。
- 土岐市が住みよいまちになることが大切である。定住奨励金についても、各市が同様な施策を展開している状況下においては、一時的な奨励金の交付が、ここに住むという選択理由として重要なポイントとなってくるかどうかについては疑問がある。子どもを産み、育てるという生活設計を立てる上での重要なポイントは何かということ、子育てにかかる費用や子育てしやすいと思える環境であると思う。例えば、保育料の無償化、小中学校の給食費の無償化など、中長期的な負担の軽減を施策に取り入れることが重要になってくると思う。

- 病児保育、保育園の延長保育拡大などの、より子育てしやすい環境を整える。
- 保育料が非常に高く、各家庭の収入を増やすために働きたい、だから保育園に預けている。というごく当たり前のことが、現状では保育料を払うために妻が働きに出る、という状態になってしまっている。かといって旦那は仕事がある、値段の安い幼稚園に入りたいがとてもお迎えに間に合わない。という家庭がかなりある。子供を預けられないから働けない、働けないから収入が不安、子供にお金がかかるから子供は一人でいいや。というループになる。保育料を補助してもいいのではないか。
- 母子家庭専用の市営住宅を設置し、寮母さんをおいて学校から帰った子どもたちの勉強や食事の世話をし、母親が安心して仕事に就ける環境を整えてあげるといいと思う。

<教育環境>

- 教育環境の改善及び、教育レベルの向上
- 子育て世代が住みたい街づくり“保育環境の充実”附属幼稚園の廃止、保育園の認定こども園化、放課後教室の放課後児童クラブ化
- 少子高齢化、地域活性化に対し、子どもの教育から取り組む必要がある。特に子供の地域性が低下しており、小中学校の取り組みが地域に対して閉鎖的であることが原因だと考えます。地域住民と小中学生が交流できる事業、機会の増設し、地域に対して親しみを産む取組が必要です。具体的には、花の木大学を、小中学校の校舎で行うなど日常から交流する機会があればよいと考えます。
- 附属幼稚園制度を廃止するべき（子育て世代の転入を阻む一因になっていることに早く気づかなければいけない）
- 保育料の助成、大学の学費一部助成

<少子高齢化対策・人口減少対策>

- 10年20年先、子供たちが戻ってきて子育てをしたいと思う町を、自分たちで構築しなければ、きっと何をしても人口は増えず活性化しないと考える。
- これから結婚したり、子育てをする若い世代が住みたいと思える、土岐市独自の強みが必要。春日井市は、若手職員が「誇りと愛着をもって住み続けることができるまち」をPRするために、シビック・プライド向上委員会としてプロジェクトチームを作り活動している。土岐市でも所属課や政策に関係なく、20代の若い職員でプロジェクトチームを作り、土岐市の魅力を若い目線でPRする活動をしてもらう等の取り組みがあるといい。
- お店がない、街並みが古い、不便、では新しく転入する人は見込めないと思う。もっと街を近代化していくことが人口減少、少子高齢化を止める大きな要因であると感じます。
- 幹線道路網に直結した、生活道路の整備を促進する。就職地に対し、住居地の位置づけをする。定住人口を確保、増加を目指す。
- 少子化であるにも関わらず、岐阜県内の市町村で多くの自治体を実施している不妊治療の助成など土岐市に限らず東濃3市（土岐、多治見、瑞浪）では実施されていない。不妊治療にはお金がかかるため経済的な負担が大きくなるため何らかの原因で自然妊娠が難しい人が子供が欲しくても諦めざるを得ない状況であるので早期に実施してはどうか。
- “少子化について
- ・第3子以降の、保育料・教育費の無料化。（高校まで）
（できればすべての子供）
- ・女性の社会進出を認める。
（まだまだ女性が育児や家事をする風潮がある。職場での理解も乏しい）
- ・晩婚の傾向があるので、若いうちからの出会いの場を設ける。
（40歳に結婚して、3人以上産むのは厳しい）
- 高齢化について
- ・医療費を使わないようにする。
（なるべく病院に行かなくても良いような体作り・気持ち作りをする。そのための場を設ける）
- “
- 少子高齢化について、子育て世代への住宅補助や減税等、住みやすく子育てしやすい環境づくりが必要。
- 親と子の同居世帯を増やしていくことが、少子化対策、高齢化対策の一つのキーワードになるのではないか。そのために、同居世帯への優遇措置（できるかどうかかわからないが、同居に関する相談窓口の開設、住宅リフォームの助成、車両購入助成、固定資産税の軽減など）を導入し、同居へのインセンティブにしてはどうか。
- 人口減少、少子高齢化対策を最重要課題とすること。まず、定住人口の促進のため子供を育てやすい安全安心で生活や子育てが出来る環境を作ることが重要である。たとえば、高校生までの医療費免除、延

長保育の時間帯を7時から21時まで、小学生までの給食費免除など他市にはない特典を持ち土岐市からの人口転出を防ぎ、また、市外からの転入を促す政策をどんどん実施するべきである。(市外からの転入者の引っ越し費用の5割負担など)次に、日本で生活をしている外国人を土岐市に住んでもらい(仕事と住居を提供することで人口増にも貢献)、英語圏の言葉、生活、文化について、土岐市で学ぶ小中学生に体験してもらうことで子供たちに慣れ親しんでもらい将来に役立ててほしい。また、他の自治体の小中学校で体験できないシステムを構築することで他の市町村から移住を促進出来るのではないかと考えます。(思いきった施策をすることでマスコミが取り上げてくれるため土岐市のPRにもなる(無償))

- 人口減少・少子高齢化への対策については、自治体が主体となり、婚活パーティや出会いの機会を増やしていかなければ、少子高齢化・人口減少を悪化の一途をたどっていくことでしょう。また、そういうことを積極的に行っていくことで、メディアにも取り上げられ、市全体のアピールにもつながっていくと思います。小規模なものではなく、他にはなかった大規模なものや特殊な形態のもの。とにかく、話題性を出すことが最重要課題だと思います。
- 人口減少についてです。おりべの丘、土岐ヶ丘の造成により子育て世代の転入が増加していると聞きます。しかしながら土岐市全体としての人口は減少しております。原因は多々あると思いますが10代後半～20代前半の転出がその一つだと思います。自宅から通えない学校に進学し、下宿のため転出そのまま当該地域に就職し土岐市に戻ってこない方が多いと思います。そのような方が学校卒業後、土岐市に戻り暮らし働けるように、雇用の確保や名古屋への通勤のためのJR便数の確保の整備等をし、Uターンしやすいまちづくりをしていくことが大事だと思います。
- 人口減少に歯止めをかけるために、若者の定住を図る必要があると思います。例えばですが曾木・鶴里などは、地理的に豊田、名古屋など愛知県からのアクセスも良く、アパートなどより安価で入れる市営住宅を数棟建てられれば、県外、市外の若者にとっても一時的な住居として需要があると思われます。そして、そのまま土岐市に魅力を感じてもらえれば定住も望めます。
- 土岐市に住みたいと思う人を増やすこと。それによって子どもを増やす工夫をしたい。例えば駅前ゾーンに市営のマンションを建てる。電車で通勤する人たちを名古屋県内から引き込む。同時にJRとの共同で、土岐市止まりの電車を整備していく。もう一つは山地ゾーンに戸建ての居住地を整備する。新興住宅地の開発、同時に古い団地の住宅を買い取り、インベーション化により、再生住居を市が作り直し販売する。古い町を新しくしていく都市計画を進めたい。
- 不妊治療に対する助成がない。助成がないため、土岐市・多治見市以外で住居を探すという声を実際に聞いたことがあります。近隣では土岐市と多治見市のみ助成制度がないようで、人口減少や少子高齢化対策をするうえで必要な施策ではないでしょうか。

B. 雇用対策・産業振興

<地域産業の強化>

- 陶器産業の振興と、新しい産業の振興を両面で考えていきたい。陶器産業については、陶器産業で活躍できる若者が住みやすい環境を整備し(住環境や労働環境や結婚、子育て環境など総合的に)、住んでもらうことで美濃焼の伝統を維持・発展させつつ、人口減少、少子化対策ができる。例えば、陶磁器試験場を学校化し、その学生や訓練生は、就職を優遇したり、市内飲食業者利用時の割引制度を作るなど。新しい産業は、雇用の創出、税収の確保として重要ですが、

<人材還流・雇用対策>

- 雇用の充実
- 高齢者の労働環境を整える。労働者が増えれば税収の増加があるはず。増えた税収を少子化対策に使う。
- 市内に魅力的な雇用環境を整え、現役世代も昼夜を通して市内で生活できるなどの環境を作る。
- 若い世代の土岐市離れを止める為に、就職先の確保が必要と思われる。企業の参入、地場産業の活性が繋がると思われる。
- 生きがい就労。

<企業誘致>

- アウトレットのような、大規模施設を郊外でなく中心市街地に誘致する。
- イオンモールの進出など、徐々に地域活性化に寄与できる事業の発信はできてきている。今後も積極的に企業誘致に取り組むべきだと考える。
- 企業誘致により、地元雇用を促進していくべきではないかと思えます。
- 県の企業誘致の計画では、東濃地区は自動車産業が重点となっていたが、トヨタなどは国内での生産拡大は見込めないため、それ以外の分野において積極的に誘致を進めて行く必要があると思えます。
- 雇用する場があれば、それに伴って人口が増えると思う。多くの企業に土岐に来て欲しい。

- 人、企業を呼び込むためには、それなりの土地が必要であり、新たに山間地域を造成し道路(バイパス)等を整備しなければ増えてはいかないと思います。
- 東海環状を利用した企業の誘致。学校の誘致。

<農業・6次産業化>

- 各務ヶ原キムチのように、土岐の特産物が欲しいです。お菓子などに、商品化します。企業と共に、PRできれば、おもしろいと思います。
- 道の駅でスイーツや地元野菜等新たな商品の開発をPRする場として活用する。市内のスイーツ店の新商品を市内の食器で提供して、気に入った食器もその場で購入できるようにするなどコラボ企画を行って、陶磁器以外の産業の振興の場にもっと活用していく。
- 人口増加。定住促進の原点である、1次産業を復活させる。

C. 観光交流・地域活性化

<観光促進>

- アウトレット周辺及び、イオン建設地区周辺の整備が必要。商業施設のみだけではなく、レジャー施設等の誘致も必要。
- キッザニアを、土岐ヶ丘もしくはイオンモール内に誘致するよう関係者に提案し、実現に向けて協力する。まず、子育て世代に土岐市を訪れてもらうことから地域活性化の一步を踏み出す。
- 区画整備を進め、街に入ってくる環境をつくる。
- 作り手の顔が見える陶器の販売所。物だけでなく、陶歴や写真等もある売り場作りを行う。時間に余裕があるときは売り場でアテンドもしてもらえるとより良い。
- 作陶場の個性化とネットワーク化が必要だ。テラスゲート、伝統産業会館、創陶園、どんぶり会館等の作陶場において、それぞれの特性を生かし、回遊性を持たせた個別化と相互連携が必要。
- 市内温泉施設を利用する。関市が刃物の町をアピールするために行ったゲーム会社やアニメとのタイアップ企画(信長の野望×刃物展やエヴァンゲリオン×刃物展)のように、美濃焼の歴史的価値やイメージアップをアピールできるような企画を市内道の駅やセラトピア等の施設で同時に行い、市内への観光客の流入を図る。
- 商業施設用テナント等への建替え等に対し、固定資産税の減免等により進出を促す。
- 図書館の充実。規模を大きくし、そこで食事をしたり買い物をしたり出来るとよい
- 中心市街地の活性化、人口減少への対策などはどこの地方都市も抱える問題であるので、どこもやっていないことをやることも大事だか、いいと思われる施策はどんどん参考にして取り組むことも必要ではないか。(単なる2番煎じでは失敗すると思うので、土岐市風にアレンジすることなども大切と思うが。)
- 美味しいもの、有名なものは誰もが食べてみたいものと思う。観光土産は食べ物が良いと思う。東京バナナ、白い恋人みたいな有名な定番商品を作れたら良いと思う。イオン、アウトレット、テラスゲート等土岐市への年間来場者は群を抜く数であると思う。
- 無料もしくは少額の入場料で利用できる規模の大きい屋内遊具施設を新設する。そこを中心として周りに食事エリアや買い物エリアなどを作りテナント募集する。

<地域活性化(歴史・文化・スポーツ)>

- 温故知新。歴史文化の再認識。過去、歴史を見直す。市制施行当時、若しくは昭和初期の状況を踏まえた上で、今後の見通しを推測する。
- 地域活性化対策として、JリーグFC岐阜のホームスタジアムを岐阜県や東濃他市などと協力して建設し、チームの拠点とする。岐阜県民は野球もサッカーも名古屋のチームを応援する傾向にあるが、「地元岐阜のチーム」として定着すればサポーターの増加や住民の一体感も生まれ、他県から訪れる人も増加し大きな経済効果を生むと考えられる。松本市や山形市、甲府市など、研究すれば不可能ではないのではないかと考える。
- 土岐市の地場産業は陶磁器で、衰退したとはいえ、今でも多くの人が陶磁器関係の仕事をしているのが現状。陶磁器の再生について、ふるさと納税をからめているいろいろな事業所から品物を出してもらったりしたらどうかと考える。
- 土岐市職員が率先し、地場産業の陶磁器を購入して使用をする(市内在住者ほど陶器はもらうものだと思っている人が多く土岐市職員自らひいては土岐市民自らが地場産業のブランド化を妨げていると考えため)。
- 陶磁器試験場の機能強化(試験研究施設から人材育成施設への転換)

- 文化・芸術の振興に関連することではあるが、例えば多治見市のように、駅前再開発と有料駐車場の整備と併せて文化振興事業団の財政基盤の強化と自立性の向上を行なうことで、より一層の文化・芸術の振興を図るような対策も必要ではないか。文化の振興は、新たな人の流れを生み出せる可能性がある。新美濃陶磁歴史館の建設、文化プラザと新市庁舎の切り離し整備が可能になれば、土岐市駅を挟んで南北の人の流れを生み出し、活性化に繋がると考える。

<移住・定住の促進>

- ここ数年でテラスゲートやイオン等の商業施設が充実していくが、商業施設ができるメリットは、土岐市より多治見市に多くなる可能性が高い。多治見市の人口は増加していく。大規模住宅地造成・駅裏再開発といった要素もある。一方土岐市は、人口も雇用も増加が見込めないのではないかと。例えば、商業施設の雇用に伴い、土岐市に定住してもらうための住環境の整備促進を行いアピールする。
- 住みやすい環境をつくる。宅地開発など、自然も残しつつ行う。
- 医療・新規産業・学校教育の充実を行う。今、土岐市に住んでいる市民を、市へ留まらせる理由になる。また、新規に入ってくる土岐市民の獲得にも大きな基盤になると思われる。
- 企業誘致や、商業施設ができたことにより雇用が増えた。そこで雇用された人に対し、土岐市に住みたいと思う魅力が乏しいように感じる。その原因を、ノウハウをもった第三者に委託し調査、分析する。そうすると、重点的に取り組むべき方向性、具体的なアイデアが見えてくると思う。
- 空き家の有効活用
- 空き家対策として、他市他県から人を呼び寄せる。暮らしやすい土岐市をアピールし、子育て家族を移住させる。
- 計画期間内の人口増加目標を明確化する。人口減少対策、定住促進対策担当課を設置し、全庁的に取り組む。
- 高齢化率が上がれば上がるほど、財政が圧迫される。高齢化率を上げないためには、老人を減らすか、若者を増やすかだ。現実的な後者について考えると、若者が定住するには、雇用と商業の充実が重要である。幸いにもアウトレットモール、テラスゲート、イオンと明るい話題が多い。ただ、それらが土岐にあるからといって、若者は定住地を土岐に決めるとは限らない。通勤圏に入る多治見や瑞浪、さらにはもう少し遠方も、条件によっては定住地の選択肢に入る。結局は住環境や、土地の値段も含めた総合的な判断で決まってくる。ありきたりな奨励金何円というだけではなく、話題性のあるものや、住宅メーカーや不動産業者にPRしてもらえそうな仕組みを作るなど、他市町村に勝つという考え方が必要だ。
- 高齢者に対しての福祉は日本においては喫緊の課題だと思うが、若年層が住み着かない地域が増えればより負担が増える。若年層が増えれば高齢者に対する福祉にも関心を持ってもらえるはず。若年層が帰って来られるようなまちづくり、地域づくりを継続的に考えなければいけないと思う。
- 国勢調査の結果では、市外通勤者は多治見市の13.1%に次いで名古屋市が9.1%となっており、名古屋市への就業者が多い。名古屋市への通勤層に対して駅周辺における住環境・子育て環境の整備を行う。例として、市営集合住宅の建設や空き地、空き家等から集合住宅の建設（建替え）に対して補助（固定資産税の減免等）
- 今住んでいる人が転出していかないような施策。例えば一戸建てを建てて10年継続して住み続けたら特産品のカタログギフトがもらえる等
- 山林を造成、住宅・居住環境を整える。中央線・国道・高速道路へのアクセス性を高めて在住者を確保する。若い世代の戸建購入を促進、公園や学校の整備、若い世代に目を向けた環境作りをする。生活者が増えれば必然と商業施設も増加すると思う。
- 仕事があり、生活がしやすく、学校、医療が充実していれば住み続けてもらえると思う。病院や介護施設の充実。子どもの医療費や予防接種負担の継続など、子どもや高齢者に優しい施策を継続する。空き家バンクや借家などの施策も継続して、認知度が高まるといいと思う。補助金の交付を受けて土岐市に住まれた方に、土岐市の住みやすさ、居心地の良さ等を語ってもらい、アピールする。
- 市外への転出者を少なくすることです。たとえば大学生まで医療費の無料化、学費を補助する、土岐市に就職したら奨励金を出すなどで若者の地元離れをくい止める取組をするべきです。
- 市内転居で住宅を購入した方にも定住促進奨励金を支給してはどうか（市外への転出者をくい止める効果があると思う）
- 若い世代に魅力ある町づくりを行う。たとえば、小学生以下の子供がいるような家族が家を新築する時は補助金を出すなど、土岐市へ移り住みたくするような魅力的なものを作る。
- 若者を土岐市に呼び込む為、住宅補助、固定資産税の減免、不妊治療の市独自の助成、幼稚園、託児所の充実、軽自動車税の減免、子ども医療費の中学までの無償化、子ども世帯の水道料金、下水道料金の減額等を行い、加えて商業施設の誘致を図り、移住してもらえるように施策をする。
- 住みたい街とは都会化することばかりではなく、住み心地の良い住環境を整えることではないでしょうか。住み心地の良い住環境とは何か。自分たちが住みたいと思う街を目指してより考えてみる機会だと

思います。大型商業施設や大手企業の誘致はうまくいっていると思います。児童医療や子育てのしやすい子育て支援環境のさらなる整備、魅力のある学校教育方針、老後に安心して暮らせる福祉の充実、災害に耐えられる防災力、信頼できる医療機関等を整備することが住みたくなる街なのではないでしょうか。

- 住みやすい住宅団地を作るべきである。土岐津町の土地価格のみ高騰しており、土岐市のバランスは良くない。
- 将来を考えた場合、どこにおいても少子化問題が最重要課題である。今は家庭でも女性の意見が幅をきかせているので、清潔で子育てがしやすい施策を練り、女性が住んでみたいと思うまちづくりに主眼をおくべきである。土岐・南インター中心にさらに住環境を良くして定住者を促進させ、保育園をつくるなど本市においては今の風に乗るしかないのでは。いずれにしても他都市と同じような施策では変わらないので現状を変えていくなら痛みをともなうような大転換が必要である。
- 進学や就職のため土岐市から離れていた方が、戻ってきた時に、何か特典をつけたらどうでしょうか？
- 人口が増加しなければ活気のある街にはならないため、土岐市定住促進奨励金の額を上げて（例えば100万円）それをマスコミを介してPRする。また土岐市のホームページでもトップで大きくPRし周辺の他市との明確な差をつける。
- 生活に必要な主要な家電量販店、大型店舗等は多治見市、瑞浪市にあり、企業が更に建設する可能性は低いため、買い物は市外へ出てしまう。土岐市としては2箇所（3箇所）あるインターチェンジを含めて、何処へでも出かけやすい土地をセールスポイントにしたらどうか。普段生活することが出来て、何処へでも出かけやすい土地として、団地も含めて、一時的にでも住める共同住宅を増やし、住み慣れたら地元に一軒家を持ちたいと思わせるような街を作れたらいいと思う。住みたいと思わせる街づくりが難しいが、まずは住む場所を提供したらどうか。
- 大学進学や就職時に、都市圏などへ移住してしまうケースが多いため、学生時の奨学金を定住する際には、減免するような制度により、定住を促進する事業を実施する。
- 中学生までの支援をする市町村は、多くある状況です。高校生や大学生に定住してもらうこと、大学卒業後に戻ってきてもらうような支援や優遇措置が必要ではないか。
- 定住の促進には、木造2階建てのアパートより、マンションを増やすことが必要なのかなと思います。市外の人が土地と建物の2つを同時に購入することは大変なことなので。
- 定住促進事業について。企業・工場を誘致し、雇用促進を行う。人口を増やすことが、地域活性化に繋がる。
- 定住促進奨励金が市外からの転入者に限られていますが、市内からの流出を防ぐためには市内在住の方が新築した場合も対象にするなど基準を見直すべきだと思います。また、土岐市内にあらかじめ土地を持っていない市外の方が、一生に一度のマイホームを建てる場所を考えるうえで、30万円の奨励金ではどこの市の土地を買うかの判断にあまり影響していないかもしれません。
- 土岐市には、家を建てる際の優遇制度があります。外から人を呼び込むことは、大切です。しかし、市外から来る人で、それを目当てにして来る人はいないと思います。それよりも、現在、土岐市に住んでいる若者に、住み続けてもらえる仕組みづくりが必要です。
- 土岐市定住促進奨励金の増額、子育て世代に魅力のある助成をしていただきたい。

<情報発信>

- アウトレットやテラスゲート、今後はイオンができる。陶器の町として魅力を伝えるのも大事だが、今後は、新しい魅力をもっと伝えることが出来れば魅力的な町であることをPR出来る。
- インフラ整備、ふるさと納税の特典等による土岐市の魅力発信。
- 土岐市は、印象として保守的である。もっと積極的な取組が、必要。テレビに出る。ネットを使ってもっとアピールをする。多くの人の目にとまることをしていく必要がある。
- 公立幼稚園のある市町村は少ないと思う。名古屋通勤圏の方に、PRする。アウトレットや、バーデンパーク、道の駅等、観光の場所でPRする。
- 市としての情報提供、PRがあまり積極的でないように感じる。市民意識調査でもイベントや手続きなどについて、情報をどこで入手したらよいかかわからないといった声もある。既に一部twitterのアカウントを作成し情報提供しているものもあるが、ホームページやSNS（Facebook・twitterなど）により、市政情報に限らず市内の魅力あるコンテンツなどを積極発信できると良い。全国的にも事例があるが、Facebookやホームページ等で職員一人ひとりが市内の情報などをブログ形式で自由に発信できるのも面白いと思う。ある程度のルールは必要であるが、それにより閲覧者が今まで埋もれていた土岐市の新たな魅力を発見できるようになる他、職員にとっても個々のレベルでの情報収集力や発信力、活用力の向上にも役立つ。
- 土岐市がいかに住みよいまちであるかのPRが不足しているように思える。土岐市には豊かな自然があり、充実した商業施設があり、交通アクセスが良好であり、子育て環境が整っており、地価も割安であ

る。HPを活用してもっと土岐市の魅力をアピールするべきだと思う。

<市民協働>

- イベントの企画運営を、一般市民からアイデアを募集する。
- 一番大事な事は、市民との協働まちづくりだ。市民の意見を取り入れることが、重要だと思う。すぐに実行可能な提案であるならば、即実行していき、より市民が主役の市になる必要がある。
- 介護施設で一日過ごすのではなく、介護施設と協力して高齢者にとって活動範囲が広がる取り組みをしていく。例えば、高齢者が高齢者のための産業をしていく。元気な高齢者がそうでない高齢者のサポート事業をしていくなど気持ちがわかる者同士の関わりをつくって行く
- 共働き家庭の増加。高齢者の増加。人々を繋げ、共に助け合っていくシステム作りが、地方自治体に求められていると思います。そのような意味で、社会教育部門は今後、ますます市の施策の中で重要度を増していくと思われます。図書館でのイベントも、3世代を対象としたものや、それぞれをつなぐもの、同じ本を読んだ人たちの読書会、ボランティアなど、地域単位ではつながり得なかった人々をつなぐ場所として、また、市役所より気軽な居場所として、今後ますます大切な場所になると思います。図書館だけでなく、生涯学習課の講座も同じです。色々な場所で、多様なネットワークができれば、いざというとき、市としてもそれを頼りにすることができます。行政主導のネットワークづくりには、限界があります。重要度の高い防災にしても、既存のネットワークを利用できれば、新たにそれを作るよりも、実効性のあるものになると思います。今後、こうしたネットワーク、コミュニティづくりを間接的に主導できるような、社会教育システムの構築に、力を入れていくことが、土岐市の強固な地盤をつくり、発展につながるものと信じます。
- 市職員には行政スキル（事務能力）があり、住民の方と協力しその能力を活かせば、自治会、地域団体は円滑に進み、ニーズにより近い政策が進むと考えます。
- 市内一周駅伝の参加チームが少なくなっていると聞きました。繰り上げスタートを少なくして意欲に繋がったり、異動して応援できるようにしたり、もっと宣伝したりして、市民みんなで土岐市の催しを盛り上げていこうとする気持ちを作っていくことも大切だと思いました。
- 市民活動のネットワーク化。いろいろな分野で活動される方が多くあり、防災、まちづくり、福祉などすべての分野で共助の体制ができればと考えます。
自助が基本であることが勿論ですが、地域の支えは非常に大きな力を発揮します。
そのためにも、そうした活動を行っている方々が交流をする場を設けたり、定期的に活動発表会を開催して、お互いに活動への認識を深めるなど行い、ネットワーク化が図れたらと考えます。
- 曾木町では、平成24年3月に人口が1000人を下回ってから、限界集落にならないように、自治会の補助機関としてSSK（曾木町振興活性化）委員会を立ち上げ、人口増加、土地有効利用対策、観光物産振興に力を入れて活動している。そのような活動は駄知町などでも行われていると思いますが、全町的に広がって行って、土岐市からもいろいろな協力が得られる体制ができると良いと思う。
- 体裁を整えるだけの会議ではなく、市・市議・地域経済団体・事業者・学識経験者・市民などの多種多様な意見をうまく引出し、着地点に導けるような舵取りのできるファシリテーターの育成が必要。市内に人材は豊富に見えるので、市民が自分たちのために土岐市を良くしていこうと主体的に市政に参加できるような環境を整え、意識を変えていくことが必要。
- 団地など急激に高齢者の多い地区がこれから形成される。町内会など運営などを再考したほうが良いと思う。
- 地域単位での協働が不可欠であると思われるが、具体案は未だ浮かばない。

<中心市街地活性化・土地利用>

- アウトレットのように人が集まる施設を駅周辺にも設ける。
- アウトレットやイオンの誘致により、多くの人々が土岐市に来るようになる。市内の他の場所にも来て欲しい。その為には、国道19号沿いや駅前の開発が必要。
- 駅前が素敵になると良いです。通勤帰りにジムによって帰れるとか。駅前の無料駐車場が、30分以内でない方が大変多いです。（特に金・土の夜）駅に迎えに来る車が利用しやすいようにお願いします。
- 駅前にビルやマンションを開発する。名古屋からのベッドタウン化をはかる。
- 駅前の開発が第一だと思います。他の市に比べ活気がなく、暗い印象です。駅前に、飲食店の少なさが問題だと思います。活気のある街作りには、若い世代が必要だと思います。早く店が閉まり、選択肢の少ない土岐市に魅力を感じていないのが現状です。私も多治見に行くことが多いです。若い世代の土岐市離れを防ぐことが、人口減少・少子高齢化問題・地域活性化など、多くのことに繋がっていくと思います。幸い、アウトレット等により若い世代に魅力のある施設が多くできつつあります。多くの人々が集える場所を、アクセスが良い駅前につくれば良いと思います。
- 駅前の活性化が必要。シャッター街となっているため、人が集まりにくくなっている。飲食店を増やす。陶器を売る店を増やす。店舗を賃貸にし、窯焼き業者に貸し出しをする。

- 駅前地区の再開発が、土地問題等で不可能であれば、多治見市のように駅裏を開発する。駅前と駅裏を逆にする事で、幹線道路からのアクセスや様々な問題の解決策になると考える。
- 生活する上で必要な施設等を土岐市駅前に設置していけば人の出入りが多くなり、雇用や消費が促進され市民にとって住みやすい街になるのではないかと。
- 土岐市の弱点は地形である。各町が中央丘陵地で分断されており、駄知町民は、瑞浪市へ、妻木、下石町民は、多治見市へ買物等に出かけているのが現状で、実質、人口3万人程度の都市の中心市街地で、商圈が狭い。このことを解決しなければ、土岐市の活性化は図れない。魅力ある施設、店舗等を中心市街地近辺に持って来るしかない。
- 土岐市は名古屋圏のベッドタウンである。アウトレットには人は集まるが、市街地には人は集まらない。土岐市駅を病院やマーケット・マンションになったビルにし、駅周辺をマンションや住宅地にしたほうが活性化すると思われる。また、文化と社会福祉が充実した市にすることが魅力ある町となり人口も増加し、活性化するのではないのでしょうか。
- 土岐市駅周辺の飲食店の活性化のため、補助金などによって开店しやすい環境を作る。
- 土岐市駅前の活性化。駅前にコンビニ、産婦人科、託児所、介護施設、病院などがあれば、利便性もよく、人の出入りが多くなり、雇用や消費の促進及び住みやすい街「土岐市」になるのではと思う。
- 名古屋まで直通で快速であれば40分程度で行くことができる。駅前の商店街が錆びれてしまっているので、思い切って方向転換をして、ベッドタウン化して、アパート、マンション等の高層住宅を建てることによって人口減少を解消する。
- 老朽化した市街地の再生。生きがい就労。
- “区画整理事業を行ってから、相当年度が経過しているのに、未だ農地や未利用地となっている場所が散見される。これらの区域に対する固定資産税課税を強化するとともに、企業立地に伴う市内流入人口を確保するために、これらの土地を有効利用された場合の報償制度を創設する。
- 都計法の線引きを行わないで、市街地区域農地と同様の課税を行うには、特区等の検討も必要になる可能性がある。”
- 使用していない休眠地等があればそれを活用する。(新規の事業者に貸す、宅地として販売するなど・・・)
- 使用地における宅地分譲、定住促進奨励金の増額及びPR。中央丘陵地の利用。
- “泉や土岐津、肥田などの市街地部分を面で指定し、その区域内の遊休地や農地(農地法の関係もあり難しい点もあるかもしれませんが)を住宅用地として売却した場合に、売り手に対し奨励金を出すなどし、住宅地として魅力的な土地が市場に出回るように誘導することで、一戸建てを持ちたい世代(子育て世代)に土岐市に住むことをアピールしてはどうでしょうか。
- 現在の土岐市は、住宅地の中に畑や、遊休地が点在し、場所としては魅力的なのにそれらが市場にでてきていないため結果魅力的な住宅地がない状態と思います。”

D. 安全・安心の確保

<暮らしの安全・安心の確保>

- 災害に強いインフラ整備
- 土岐市でも人口減少・少子高齢化が進む中で、バスなどの移動手段が少ないことや、総合病院の医師数の減少など、高齢者が暮らしていく上で不安な要素があるので、それらを解消していくべき。
- 日が落ちると車もあまり通らない、街灯も少なく暗い、7時を過ぎればほとんどのお店は閉まっている、狭い路地も多いなど不気味に見えるところが多い。パトロールの回数を増やしたり時間帯を変えてみたりいつでも見守ってもらえる安心感があればいいと思う。危険箇所など個人宅や市内の事業所にも配布して自分に身近なところが危険であることを認識し自分の身を守るとともに知ることによって注意してみるようになるため防犯にもつながると思われる。
- 普段の生活の中で、周辺市町村を利用した方が良いことが多すぎる。なにか1つでも整備できたら。
- 魅力的な町でなければ人は集まらないと思う。そのため、商業区の発展や、安全な町づくり、救急医療の充実化が必要だと思えます。

<医療・保健福祉>

- 医療の充実が必要。
- 産婦人科を新設できるように市が手引きできると良いと思う。
- 市独自の特定不妊治療の助成を行う。
- 常勤産婦人科医師の確保、産婦人科個人医院の誘致

- 総合病院の産科を復活させる。
- 総合病院は民営化など早期の健全化と市民のニーズの応えられる診療の充実を図る必要がある。
- 病院、高齢者介護の施設が確実に不足する。在宅医療を余儀なく受け入れることとなる。それなりの体制を図ることとなるが、そのためには、圏域を大きくして、考えていく必要がある。

<道路・公共交通>

- JRの本数増加を要望し名古屋からの利便性を高める。
- JR中央線の土岐市から名古屋方面との本数を増やす運動をすることにより、名古屋の衛星都市としての人口増加だけでなく、東海地区から入る人の動きができる。人口増加・商業の発展・活力ある世代の増加を産み、人口増による労働力を期待した工業誘致にもつながる。教育レベルも向上する。
- JR中央線を利用しやすく（多治見止まりの電車を土岐市まで・・・など）
- JR東海への多治見止まりの延長要請、100円バス路線及び本数の増加。
- バス（普通車含む）の停留所及び、本数を増やす。常にバスが市内を循環している状態をつくる。理由は、高齢者の通院や買い物などが不便。飲酒の機会があるときに不便（外食が減る）。「防犯」強化につながるである。例えば毎日が不可能な場合は、曜日別、8町別に実施する。
- 駄知や肥田、下石、曾木、鶴里など不便である。益々、駄知、肥田など高齢者が多くなってきているが、公共のバス等を使い、外へ高齢者がでるような取り組みをしていく。
- 人口流出を防いだり、新たに人口流入させるためには、人にとって「住みよい街づくり」をしなくてはならない。渋滞緩和・防犯強化・商業充実は、必須のステータスだと思う。まず、道路交通網整備は重要である。新規での道路計画は、費用も時間もかかるため、都市間連絡道路の早期実現に向けて、取り組むべきである。具体的には、市内にPR看板を作成・配置したり、チラシを作成・配布して事業自体の機運を高める。（現在用地買収が何年間か停滞している）

<行政改革>

- 「地方創生」について、県レベルからの条例化を推進し、施策を展開していく。
- iJAMPなどで課長級以上などの全職員が情報収集し、先進的事例などを全市的見地から考えることから始めてみる。
- アンケートの結果の公表を希望します。こうした取組みを継続することで職員の意識の変化につながると思います。
- 既存ストックのマネジメント強化による、財政健全化
- 強制はできないが、市の職員は市内に居住すべき。市内に居住すれば、便利なところ、不便なところが身を以て体験できる。職員の意識として、まず、職員の意識改革から。
- 財政には限界があり、できることできないことがあることを市民に理解していただくことも重要であると考えます。コンパクトシティを目指し、何でも8か所ではなく移動手段の確保でカバーできないかと考えます。
- 千葉県流山市など、特徴的な政策により成功しているとされる市町村がいくつかあると思うので、既存の考え方にとらわれずそのような成功事例を研究し、市政の参考にしていくとよいのでは。
- 総合病院改革により一般会計からの財政投入を少なくすることを検討
- 土岐市の市制が施行されて60年を迎えるが、未だに旧8か町村の名残があり、これが良い反面、大きな支障となっていることは否めない。土岐市全体を見渡してみると、これまでの金太郎飴行政にも限界がきていることは事実であり、21世紀型都市を構築していく必要があると思われる。最近の言葉で、コンパクトシティという言葉も使われるが、行政側から経営的側面ばかり主張しても簡単に市民には受け入れていただけないことだと思われる。限られた財源の中で、どこに資源を投入していくべきか取捨選択も必要な時代になって来ているものと思われる。このため、市民に対して現状を説明しながら、明日の土岐市を皆で考えていく機会をこれまで以上に提供し、市民と共に今後の土岐市について考えていく必要があるのではないかと考える。
- 福祉の場合、画一的に「在宅サービス」につなげることが正しいとは言えないケースも多く、個別のニーズや状況に見合ったサービスがとれるよう、課や部を超えた連携が取れるようになるといいと思う。部や課、医療機関、関係機関とスムーズに調整ができるような横の繋がりがいいと思う。滞納ケースにしても税、国保、その他使用料など同じ対象者が多いと思うので、それぞれの部門で徴収するのではなく、徴収に特化した滞納部門みたいなものがあったらいいと思う。
- 法人監査など、高度に専門的な会計知識や経営経験を要する業務が増加してきている。そこで、民間法人の窓口を一本化し、法人監査業務や支援業務、さらに、3セクなど市が施策として創設した企業に対

する支援、NPOなど協働まちづくりの主体となる団体への支援などを行う部署を創設する。そこでは民間企業のOB（たとえば銀行において融資部や審査部などを経験した者）を活用する。